

2023年度 学部授業アンケート分析結果

本資料は、2023年度(春学期・秋学期)に学部学生を対象に行われた授業アンケートにおける「学部共通設問」の回答結果(自由記述設問を除く)を、学生個人の成績評価や年間 GPA、入学試験区分等と組み合わせて集計・分析を行った結果を記したものです。なお、学生情報は分析を行う段階からすべてマスキングされ、個人が特定できないものとしています。

<資料>

- ・集計結果(グラフ)
- ・学部学生向け授業アンケート分析結果報告書

<分析項目>

- ・授業アンケートを軸とした成績評価上位者と下位者の要因分析
- ・以下の観点からみた授業アンケート及び成績評価の相関に関する分析
 - 入学試験カテゴリ別
 - 授業形式別
 - アクティブラーニング実施内容別
 - 出身高校ランク別
 - (学生の)本学への志望順位別
 - 授業欠席回数別
 - 授業外学習時間別
 - 年間履修単位数
 - など

中央大学 FD・SD 推進委員会
中央大学教育力研究開発機構

2023年度 学部学生向け授業アンケート分析結果 報告書

2024年6月24日

教育力研究開発機構 専任研究員／国際経営学部 特任助教
佐々木 孝輔

1. はじめに

本報告は、2024年5月までに学事部企画課より提供いただいた、学部学生を対象にした授業アンケート（以下、「授業アンケート」と言います）の結果ならびに学生の成績情報を分析した結果のサマリーです。授業アンケートは、2023年度春学期および秋学期に実施された講義を受講した学生を対象に実施されました。また、本授業アンケートは各学期、学生の成績確定前に実施されました。

1.1 分析の観点について

本報告では、次の項目について、要素間を比較・分析した結果を報告します。

- 成績別
- 授業形式別
- 入試カテゴリ別
- 授業タイプ別
- アクティブラーニング内容別
- 出身高校ランク別（公開資料から省略）
- 【1年生のみ】中央大学の志望順位別
- 学習行動別
 - 出席率
 - 授業外学習時間
- 【1,2年生のみ】年間履修単位数別

1.2 収集したデータについて

収集したデータは以下の通りです。

- 授業に紐づくデータ
 - 授業ごとに実施した授業アンケート（全14問）の回答
 - アンケートを実施した授業の授業形式ならびに授業タイプ（詳細は2.6節で説明しております）
 - 学生の成績
 - 成績は、素点ではなく成績評語を取得しました。なお、2021年度以前入学生と2022年度入学生では、成績評語が異なります。本分析では2021年度以前入学生に適用されている成績評語（A, B, C, D, E, F）を使用し、2022年度入学生の成績評語（S, A, B, C, E, F）は対応する評語に置換した上で分析に使用しました
- 学生個人に紐づくデータ
 - 2023年度GPA
 - 入試カテゴリ（詳細は2.5節で説明しております）

上記のデータはいずれも、学生を示す仮名加工情報に紐づけて取得しました。ただし、分析者（佐々木）は特定の個人を識別できない状態で取得しています。

授業に紐づくデータのうち、授業アンケートの回答について、アンケートは授業ごとに実施していたため、1人の学生は、自身が受講した複数の授業に対しそれぞれ授業アンケートに回答できました。また、それぞれの授業に対し学生の成績を紐づけて収集しました。延べ回答数は99,250件でした。

また学生個人に紐づくデータとして得た、2023年度のGPA、および入試カテゴリ（1年生のみ）は、学生を示す仮名加工情報に紐づけて収集しました。

これらのデータから、学生の特定の授業に対するアンケート結果と成績、および当該学生の2023年度GPA、入試カテゴリ（1年生のみ）、学年が分かる状態で分析を行いました。

本報告書で報告する分析では、原則として授業単位で分析しています（1レコードが「1学生・1授業」のデータ）。また、各分析観点では有効回答数を示しています。この有効回答数は、取得したデータのうち、分析に際し必要な情報が全て欠損なく得られたデータの数を示しています。

1.3 アンケートの設問項目について

実施した授業アンケートでは、全学部共通で以下の表に示す14項目について質問しました。選択肢欄に「リッカート尺度」と記載されている設問はすべて、回答の選択肢が7件法のリッカート尺度（1. 全くそう思わない／2. そう思わない／3. あまりそう思わない／4. どちらともいえない／5. ややそう思う／6. そう思う／7. 非常にそう思う）であることを示しています。リッカート尺度以外の選択肢をもつ設問については、個別に回答の選択肢を記載しています。

表：授業アンケートの設問項目

設問番号	設問項目	選択肢
1	講義要項（シラバス）に示されていた学習目標や内容と合致していた。	リッカート尺度
2	能動的に参加したくなるような授業であった。	リッカート尺度
3	この授業の内容を理解し、知識・技能等を習得できた。	リッカート尺度
4	この授業を通じて、自身の能力の高まりや成長につながった。	リッカート尺度
5	担当教員の話し方は聞き取りやすく、理解しやすいものだった。	リッカート尺度
6	担当教員は学生が集中できるように学習環境の維持に努めていた。	リッカート尺度
7	教科書や配布・提示資料（パワーポイント・ビデオ等）は授業内容の理解に役に立った。	リッカート尺度
8	担当教員によるフィードバック（個別質問への応答、レポートへのコメント、試験の講評など）は適切だった。	リッカート尺度
9	この授業に対する出席率について。	1. 8回以上欠席した 2. 6～7回欠席した 3. 4～5回欠席した 4. 3回欠席した 5. 2回欠席した 6. 1回欠席した 7. 全て出席した
10	1回の授業に対する予習・復習（ゼミ活動や図書館/インターネット等での情報検索時間も含む）の平均時間について。	1. 全くしなかった 2. 1時間未満 3. 1時間以上2時間未満 4. 2時間以上3時間未満 5. 3時間以上4時間未満 6. 4時間以上5時間未満 7. 5時間以上

11	この授業は総合的に満足できたか。	リッカート尺度
12	この授業の進行速度について。	1. 非常に速い 2. 速い 3. やや速い 4. ちょうどよい 5. やや遅い 6. 遅い 7. 非常に遅い
13	課題（宿題、レポートの提出、予習・復習など）の量について。	1. 非常に少ない 2. 少ない 3. やや少ない 4. 適切 5. やや多い 6. 多い 7. 非常に多い
14	全授業回のうち、あなたが遠隔授業形式によって受講した回数について。（計28回の授業科目については、（）内の数値をお答えください。）	1. 0回 2. 1～3回（1～6回） 3. 4～7回（7～14回） 4. 8～13回（15～27回） 5. すべての授業

1.4 本資料の表記について

本資料のグラフでは、着目する項目について授業アンケートの設問別回答割合および成績の分布については小数点以下1桁の百分率にて、GPAについては有効数字3桁の小数にて、示すグラフを作成しました。本報告上でもいくつかグラフを記載しますが、紙面の都合上全てのグラフを記載できません。ご了承ください。

また、各グラフには集計の都合上、左上に「Q1」のように「Q[N]」と記載されています。設問番号は[N]にあたる数値をご参照ください。加えて、特に断りがない場合は、グラフが指し示すデータは全学部・全学年のデータであることを、予めご承知おきください。

加えて、2022年度の授業アンケート分析で同じ項目を分析したものについては、資料中に可能な限り数値を併記しております。参考情報としてお取り扱いください。

2. 分析結果

2.1 成績別分析

本観点は、講義の成績が90点以上（2021年度以前入学生のA評価、または2022年度入学生のS評価）である学生を「成績上位者」、講義の成績が70点未満（2021年度以前入学生のD～F評価、または2022年度入学生のC、E～F評価）である学生を「成績下位者」と定義し、成績上位者と成績下位者間でアンケートの回答結果に差があるか傾向を調査しました。授業ごとに成績が定まるため、1授業のアンケート回答を1レコードとして回答を得ました。有効回答数は、成績上位者が7,629件、成績下位者が31,736件です。

2.1.1 リッカート尺度の設問を見ると、成績上位者の「7. 非常にそう思う」の回答割合がより大きい

以下に、一例として設問11の回答のグラフを示します。本グラフから見て取れるように、「この授業は総合的に満足できたか。」という設問に対して、「非常にそう思う」と回答した割合が、成績上位者が40.4%（2022年度37.3%）に対して成績下位者は26.9%（2022年度22.7%）となっており、15ポイント弱の差が見られます。これ以外の設問については下記の表の通りですが、いずれも成績上位者・下位者間に差が見られました。またグラフからも、選択肢「ややそう思う」以下では、成績下位者の回答割合が成績上位者を上回っている様子が見えます。

成績下位者は、成績上位者よりも、講義に対して完全に満足できないような何らかの要素を持っている可能性を示唆しており、学生が抱く潜在的不満を解消する必要があることがうかがえます。



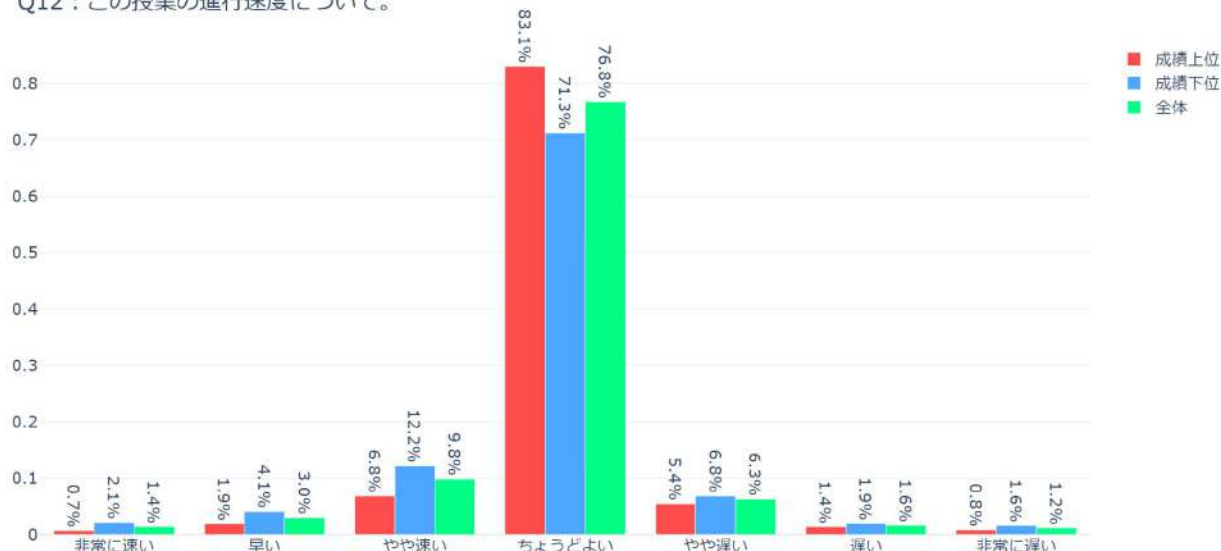
図：設問11の成績上位者／下位者／全体別の回答割合

2.1.2 授業の進行速度は、成績下位者の方が速いと感じている

設問12「この授業の進行速度について。」では、授業が遅く感じたか速く感じたか、7件法で問うています（この設問への回答結果は下記グラフをご参照ください）。全体で76.8%（2022年度75.4%）、成績上位者は83.1%（2022年度79.2%）、成績下位者も71.3%（2022年度65.6%）は「ちょうどよい」と回答していますが、選択肢「やや速い」～「非常に速い」を選択した合を見ると、成績上位者が9.4%（2022年度12.6%）であるのに対し、成績下位者は18.4%（2022年度25.7%）と10ポイント程度多く、成績下位者のほうが回答しています。成績下位者は成績上位者に比べて授業が速かったと感じた傾向にあることが分かりました。ただし、昨年度と比べ、授業が速いと感じた割合は小さくなっています。先生方皆様のご尽力により、授業スピードが学生に合うよう調整されたのかもしれませんが。

また割合を考えると、成績下位者の2割以下しか「速い」と感じていないため、本項目については「成績下位者は授業が速いと感じるかもしれない」程度に捉えていただければ幸いです。

Q12：この授業の進行速度について。



図：設問12の成績上位者／下位者／全体別の回答割合

2.1.3 成績上位者ほど講義に全て出席する傾向にある

設問9では講義の欠席回数を問うています（回答割合を示したグラフは下図をご参照ください）。この設問への回答で、選択肢「全て出席した」を選択した割合は、成績上位者が62.5%（2022年度77.3%）、成績下位者が40.8%（2022年度46.3%）と、実に20ポイント以上の差が開いています。成績下位者のほうが1回以上講義を欠席する割合が大きいことが分かります。

欠席回数と成績について、因果関係までは本分析では明らかにできません。つまり、出席率が低いから成績が悪くなるのか、講義で理解できないことが多くなりすぎて嫌になり出席率が低下するのかは分かりません。しかしこの結果から、出席率は成績と密接に関連しているパラメータであることがうかがえます。出席率が低い学生は成績が悪くなる可能性があることを念頭に置いておく必要があります。

また、昨年度と比べると、「全て出席した」割合は全体的に低下しています。出席については、今まで以上に目を配る必要があるかもしれません。

Q9：この授業に対する出席率について。



図：設問9の成績上位者／下位者／全体別の回答割合

2.2 授業形式別分析

本観点は、シラバスの項目の一つである「授業形式」の内容から、当該授業を以下の6つに区分し、区分間で授業アンケートならびに成績に関係が見られるか調査したものです。なおシラバス作成時、「授業形式」への入力は任意であり、入力がないものは「その他」に分類しています。有効回答数（アンケートの回答数であり、授業の総数とは一致しません）の内訳は以下の通りです。

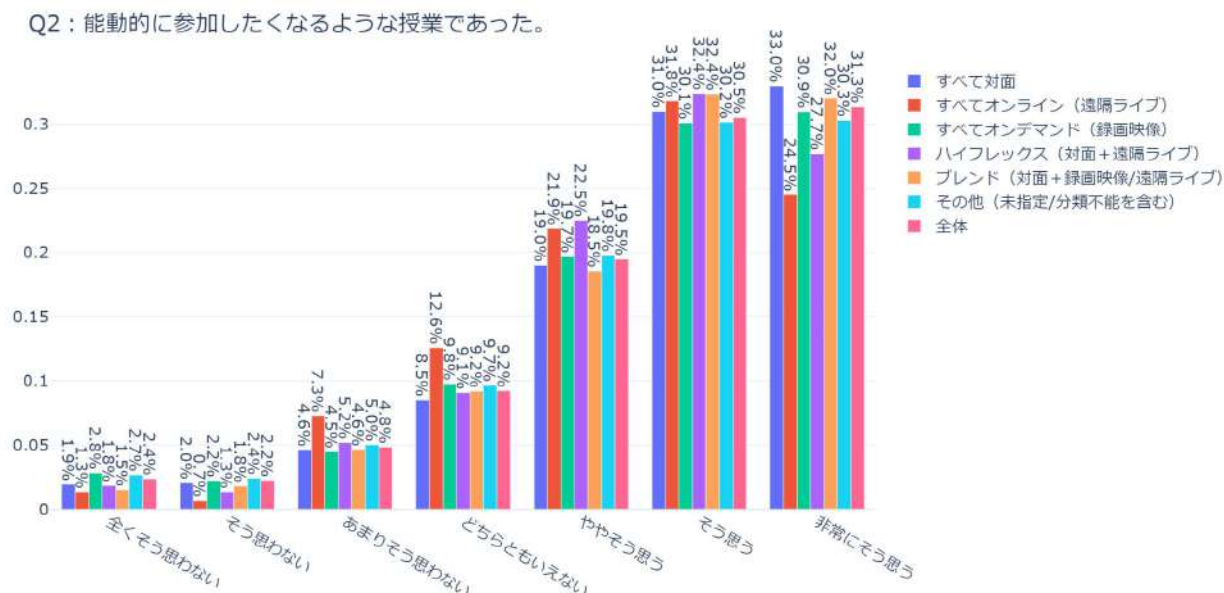
- すべて対面：有効回答数36,557件
- すべてオンライン（遠隔ライブ）：有効回答数151件
- すべてオンデマンド（録画映像）：有効回答数3,154件
- ハイフレックス（対面＋遠隔ライブ）：有効回答数982件
- ブレンド（対面＋録画映像）【遠隔ライブなどの組み合わせが行われている場合も含む】：有効回答数2,006件
- その他（未指定／分類不能を含む）：有効回答数56,113件

これらの区分は、全てシラバス上の「授業形式」の内容から、分析者ではない複数名の評価者による人力で判断しています。「授業形式」以外に記載の情報は一切区分に影響していません。また評価者間で区分結果に相違が見られた場合は、合意の上で修正を行っています。加えて、シラバス上での記載に基づく区分であり、実際に授業がどのような形式で行われたか、考慮していません。以上の点、ご承知おきください。

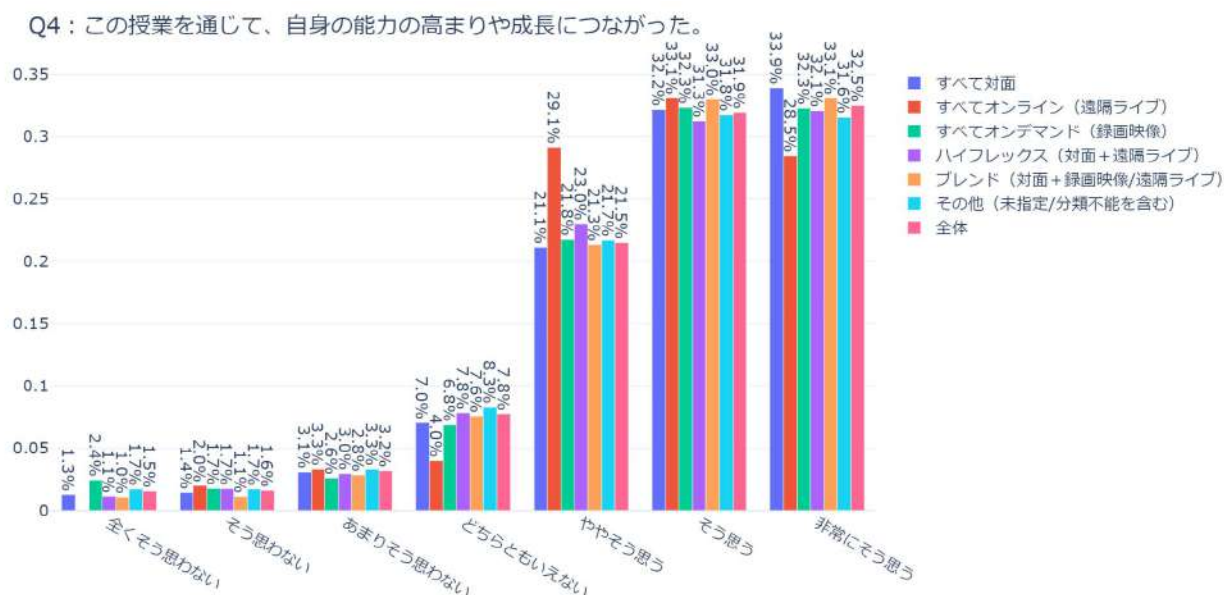
2.2.1 リッカート尺度の設問を見ると、すべてオンラインの授業において、評価がやや低い

以下に例として、設問2、設問4、設問11の回答割合を示すグラフを示します。それぞれ学生の積極性、能力伸長、満足度を測る設問ですが、いずれも「すべてオンライン」の学生が選択肢「非常にそう思う」を選択した割合が最小となっています。

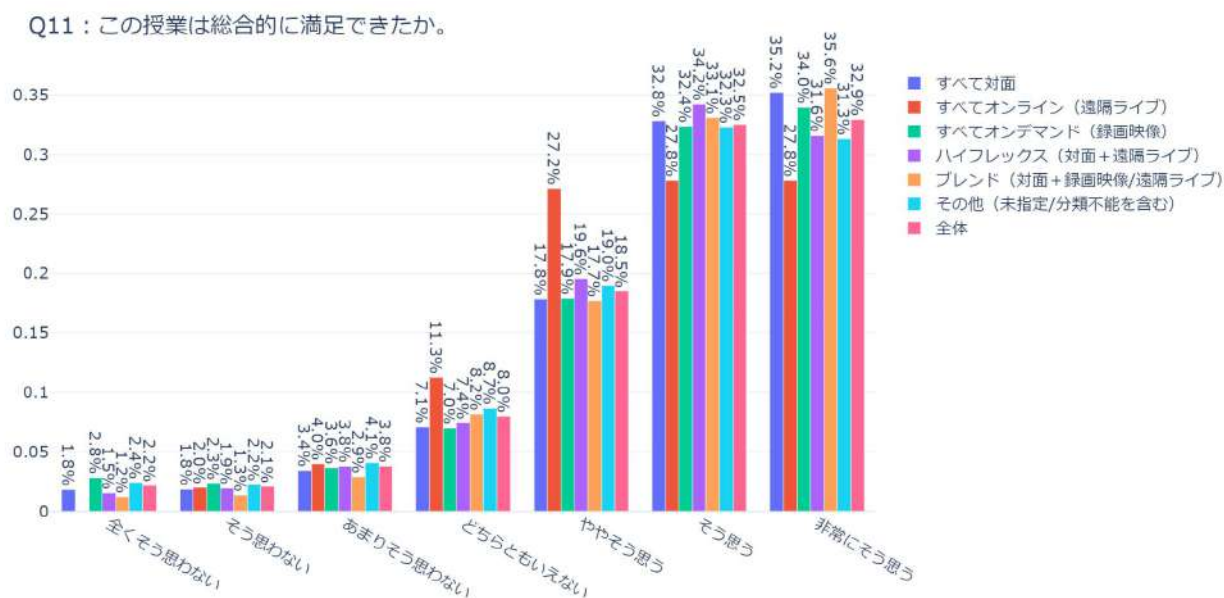
特に満足度については、「非常にそう思う」と「そう思う」は他群と比べ割合が小さいことに対し、「ややそう思う」や「どちらともいえない」といったより低い評価の回答割合が最大となっています。



図：設問2の授業形式別の回答割合



図：設問4の授業形式別の回答割合

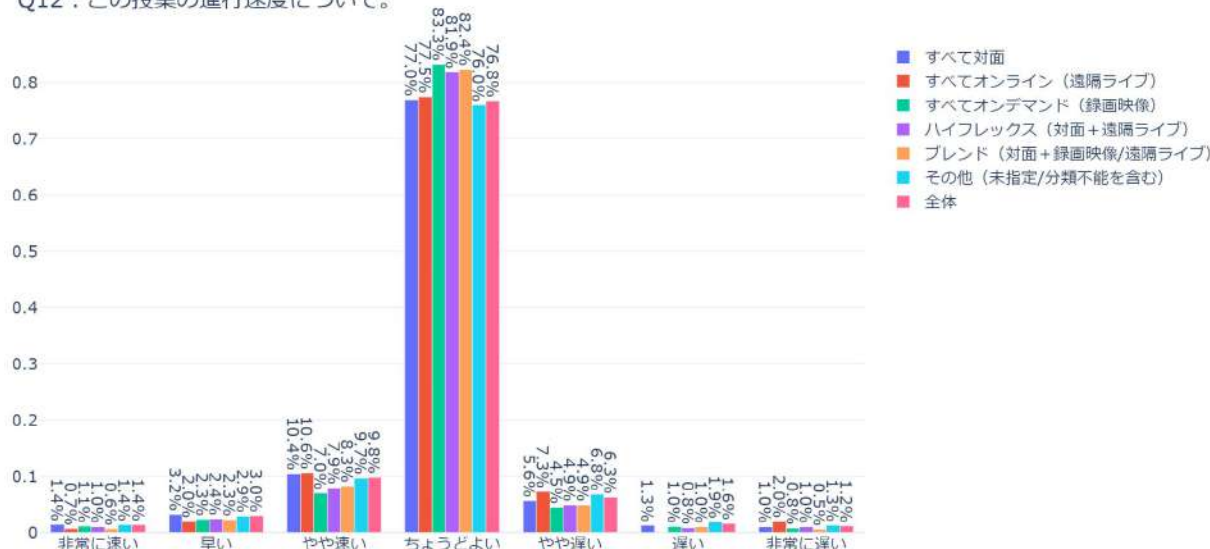


図：設問11の授業形式別の回答割合

2.2.2 すべてオンデマンド、ハイフレックス、ブレンドの授業において、最も授業の進行速度は「ちょうどよい」と回答した割合が大きい

設問12「この授業の進行速度について。」において、「ちょうどよい」と回答した割合は、どの授業においても7割を超えていますが、その中でも特に「すべてオンデマンド」「ハイフレックス」「ブレンド」の授業においては8割を超えています。特に授業を後ほど見返すことが可能である「すべてオンデマンド」「ブレンド」の授業では、学生自身のペースに合わせた学習が可能であることがうかがえます。

Q12：この授業の進行速度について。

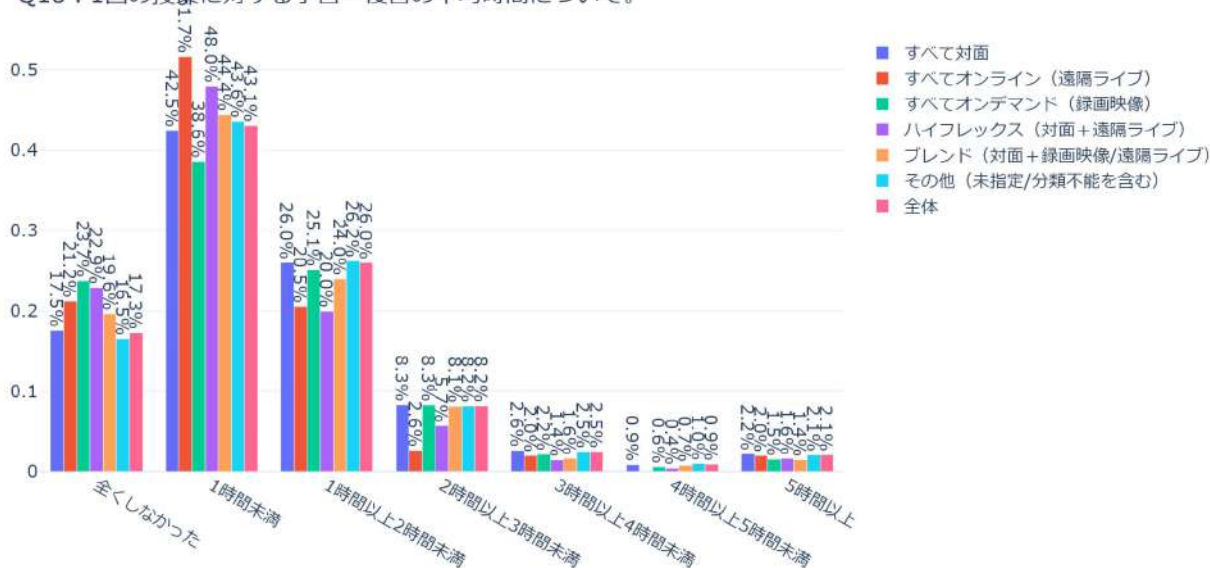


図：設問12の授業形式別の回答割合

2.2.3 授業外学習時間はすべてオンライン形式においてやや短い

設問10「1回の授業に対する予習・復習(ゼミ活動や図書館/インターネット等での情報検索時間も含む)の平均時間について。」の回答分布を見ると、「すべてオンライン」と回答している学生の7割超が「全くしなかった」もしくは「1時間未満」と回答しています。他の形式と比べると頭一つ抜けているため、注視が必要そうです。

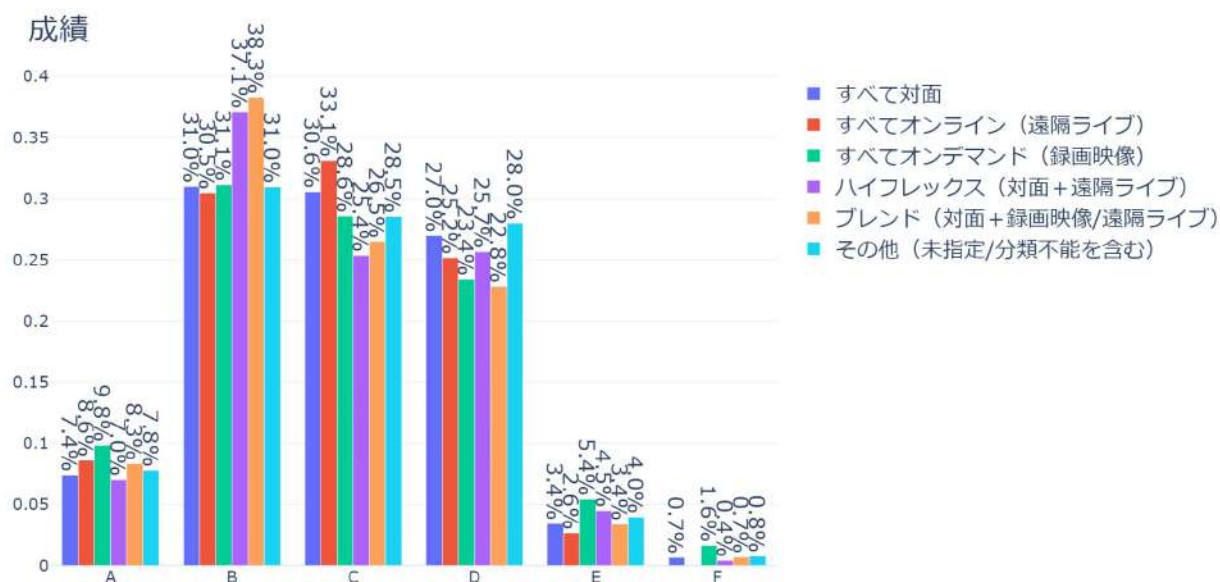
Q10：1回の授業に対する予習・復習の平均時間について。



図：設問10の授業形式別の回答割合

2.2.4 成績はハイフレックス、ブレンドの授業がやや高めか

特にB評価の項目を見ると、ハイフレックスおよびブレンドの授業が、やや相対度数が大きくなっていることがうかがえます。ただし割合で見ても6ポイント程度の差であり、成績に関する授業形式ごとの差はそこまで大きいものではないと考えられます。



図：授業形式別の成績分布

2.2.5 小括

授業形式別に見てみると、すべて対面やすべてオンライン、というよりも、ハイフレックスやブレンドのように対面と遠隔の授業が混ざっている方が、全般的に良い傾向（肯定的回答が多い、授業外学習時間が長い、成績が良い）がうかがえます。ただしその差はそこまで大きくなく、授業形式が成績や満足度などを向上させる直接的な原因とは考えないほうが適切でしょう。ここで見られた傾向は、「たまには対面と遠隔を混ぜてみても面白いかもしれない」という程度に、授業運営に行き詰まった場合の多少の刺激として検討してみてください。

2.3 入試カテゴリ別分析

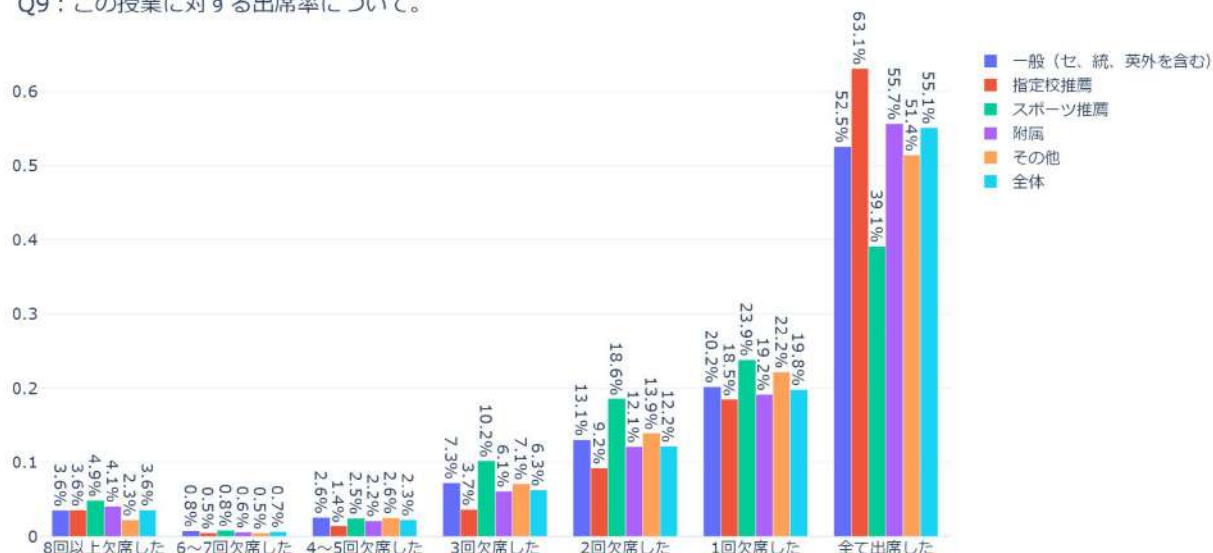
入学時の入試カテゴリを以下の5区分に分け、区分間で授業アンケートならびに成績に関係が見られるか調査したものです。有効回答数（アンケートの回答数であり、学生の総数とは一致しません）の内訳は以下の通りです。

- 一般（セ、統、英外を含む）【それぞれセンター試験／大学入学共通テスト・統一入試・英語外部検定利用を指します】：有効回答数54,794件
- 指定校推薦：有効回答数23,426件
- スポーツ推薦：有効回答数1,835件
- 附属：有効回答数13,561件
- その他【特別入試など。留学生、帰国子女を含む】：有効回答数5,485件

2.3.1 指定校推薦で入学した学生が最もよく授業に出席している

設問9「この授業に対する出席率について。」の結果を見ると、「全て出席した」と回答した割合が最も高い群は、指定校推薦の学生でした。一方でスポーツ推薦の学生は出席率が思わしくないですが、スポーツ推薦の学生は単に大会等で公欠を取っていることが考えられるため、数値情報から出席率が悪い、と断言することはできません。

Q9：この授業に対する出席率について。

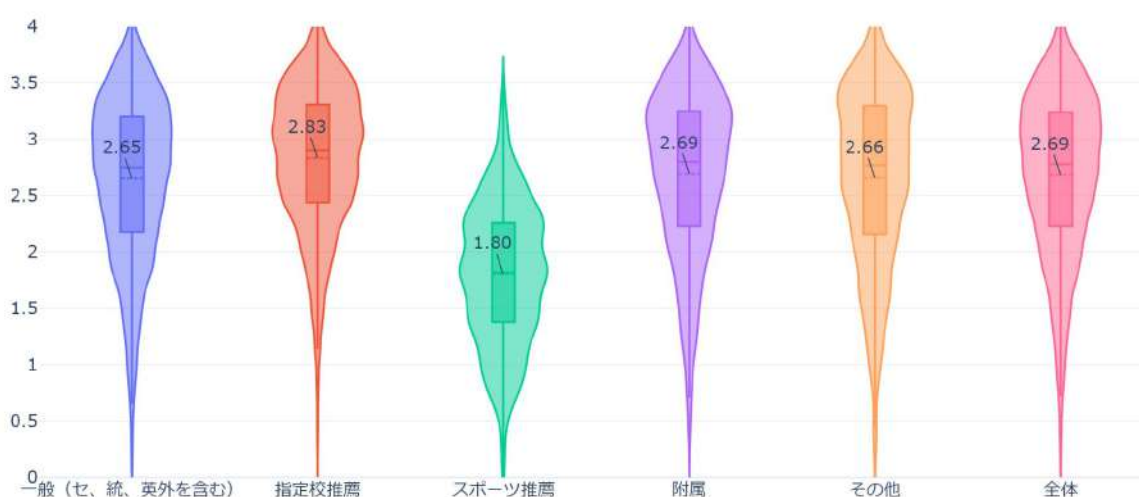


図：設問9の入試カテゴリ別の回答割合

2.3.2 成績はスポーツ推薦の学生が最も低い

2023年度のGPAを見てみると、スポーツ推薦の学生が全体と比べて低い様子がうかがえます。こちらもスポーツ重視で入学しているのだから……という声もあると思いますが、これを許容するかどうかは、学部や大学全体で検討しなければならないかもしれません。

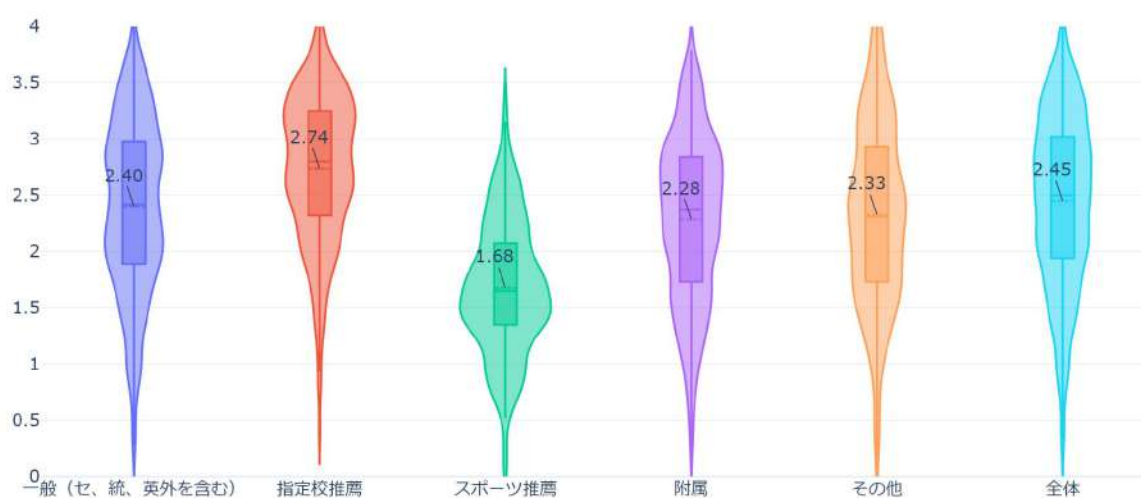
当年度GPAの分布



図：2023年度GPAの入試カテゴリ別の平均：全学部

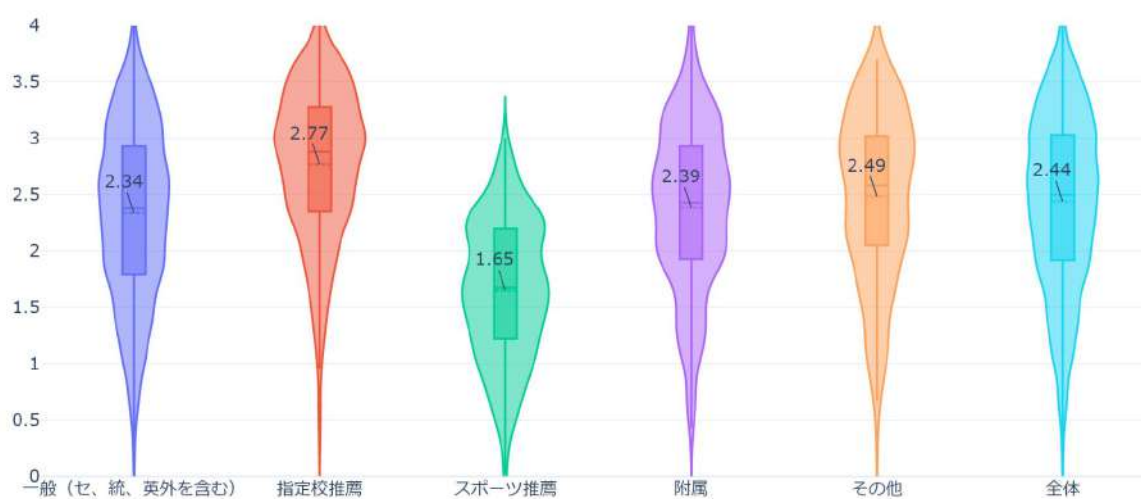
一方で、附属の高校から進学した学生については、学部によって差が見られました。経済学部、商学部を見ると全学部（2.69）より低い数値が見られる一方で、国際経営学部、国際情報学部では全体より高い数値が見られました。ただし、全学部の全体（2.69）と学部ごとの全体を比べても、それぞれ経済学部、商学部が低く、国際経営学部、国際情報学部が高くなっていることを考慮すると、単純に学部間の成績の偏りによる可能性もあります。

当年度GPAの分布

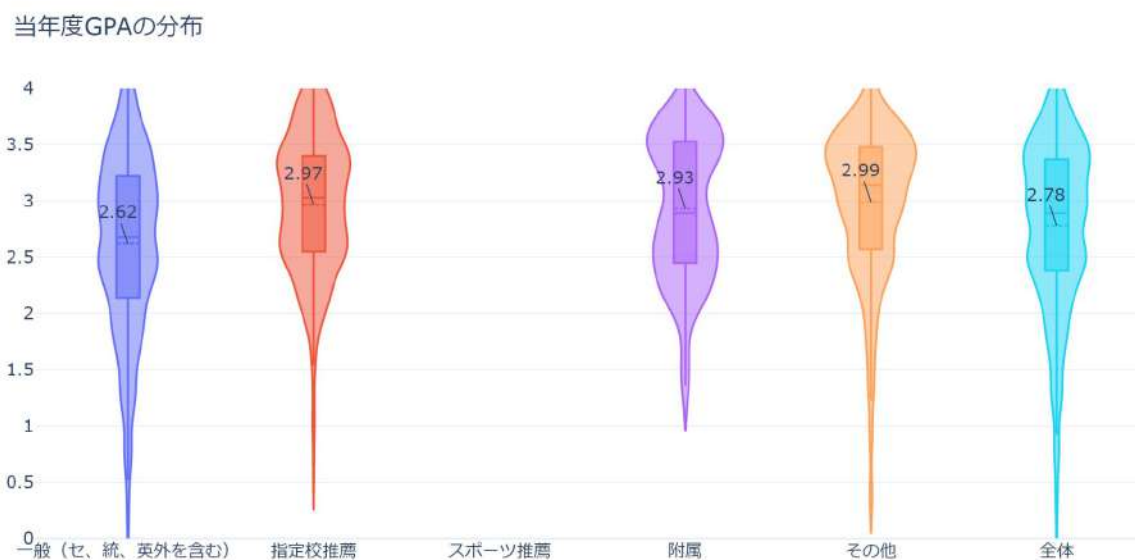


図：2023年度GPAの入試カテゴリ別の平均：経済学部

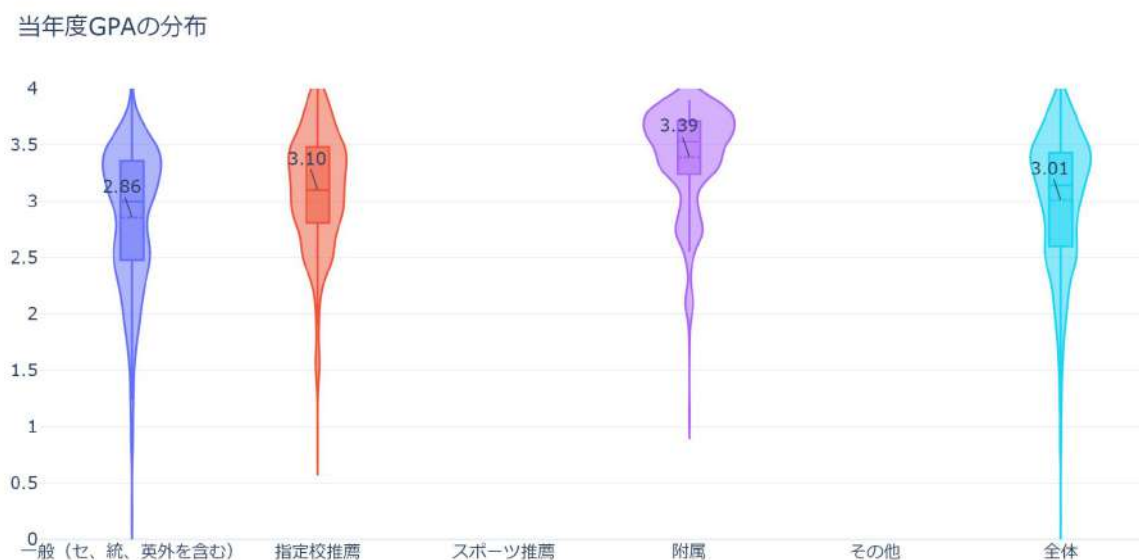
当年度GPAの分布



図：2023年度GPAの入試カテゴリ別の平均：商学部



図：2023年度GPAの入試カテゴリ別の平均：国際経営学部（スポーツ推薦はデータなし）



図：2023年度GPAの入試カテゴリ別の平均：国際情報学部（スポーツ推薦、その他はデータなし）

2.4 授業タイプ別分析

授業の内容に合わせて、各授業を以下の7区分に分け、区分間で授業アンケートならびに成績に関係が見られるか調査したものです。有効回答数（アンケートの回答数であり、授業の総数とは一致しません）の内訳は以下の通りです。

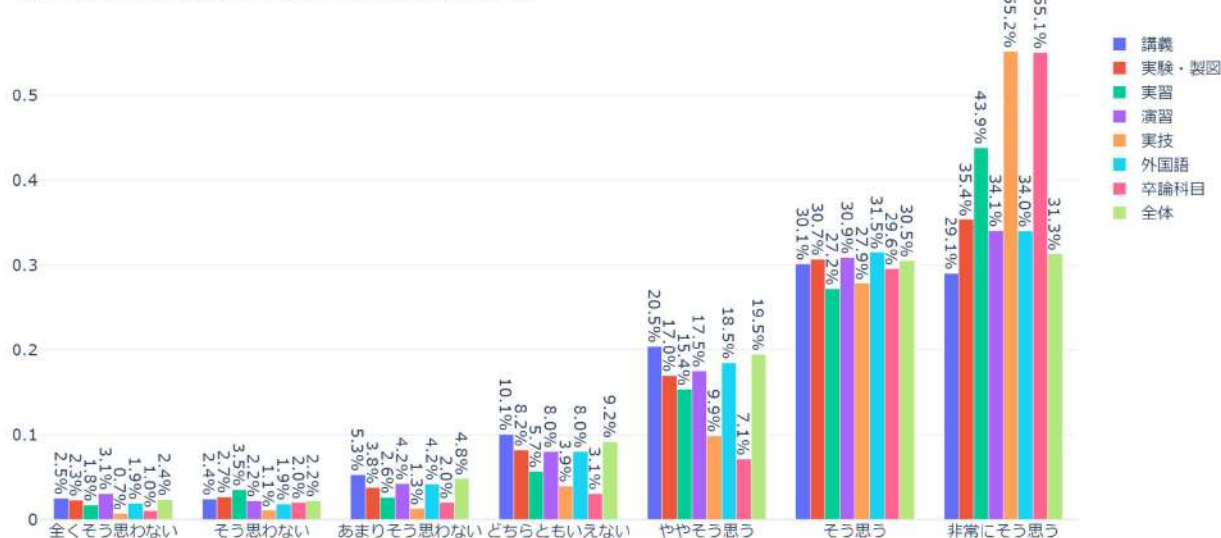
- 講義：有効回答数62,471件
- 実験・製図：有効回答数1,382件
- 実習：有効回答数228件
- 演習：有効回答数6,539件
- 実技：有効回答数1,751件
- 外国語：有効回答数26,781件
- 卒論科目：有効回答数98件

ただし、実技科目についての回答は商学部、国際経営学部、国際情報学部から、卒論科目についての回答は総合政策学部と国際経営学部からしか得られていません。特に卒論科目については、有効回答数が著しく少ない点にご留意ください。

2.4.1 リッカート尺度の設問において、全体的に実技科目と卒論科目が高評価

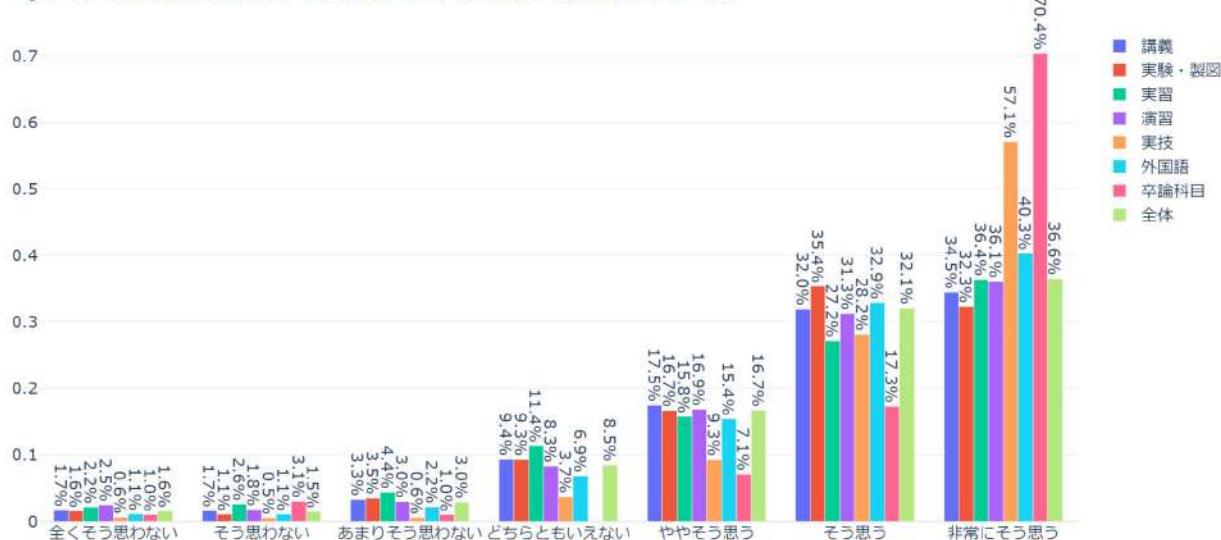
卒論科目は総合政策学部と国際経営学部からしか回答がなく、実技科目は商学部、国際経営学部、国際情報学部からしか回答がなかったことを考慮する必要がありますが、全体的に実技科目と卒論科目において、学生は授業に対し評価を高くつけている傾向が見られました（2022年度の授業アンケート分析においても類似の傾向が見られています）。

Q2：能動的に参加したくなるような授業であった。



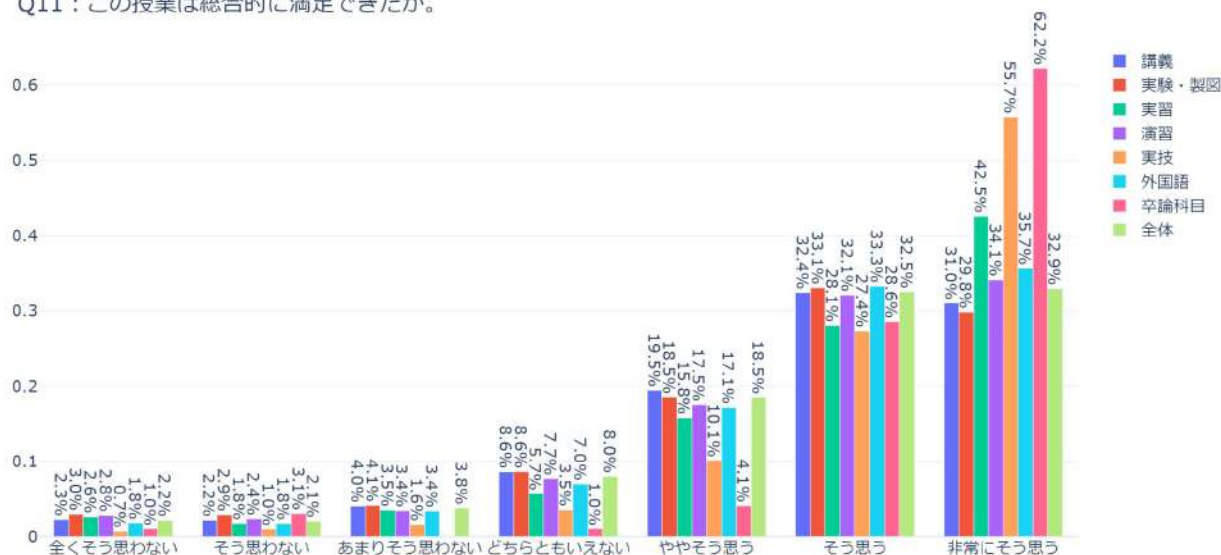
図：設問2の授業タイプ別の回答割合

Q6：担当教員は学生が集中できるように学習環境の維持に努めていた。



図：設問6の授業タイプ別の回答割合

Q11：この授業は総合的に満足できたか。



図：設問11の授業タイプ別の回答割合

2.4.2 実験・製図科目では、授業外学習時間が長く課題の量が多いと感じられている

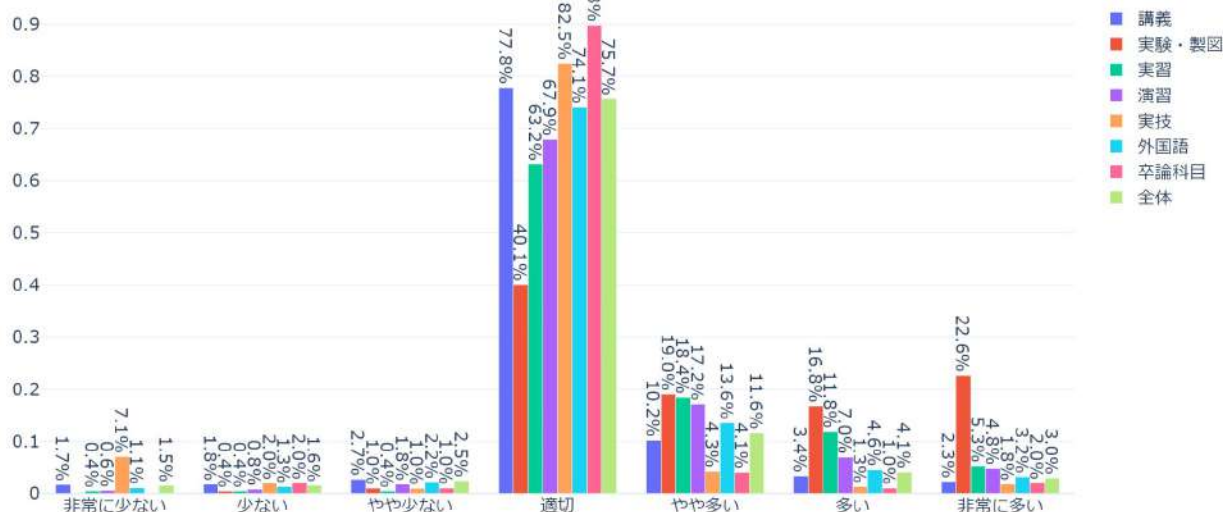
実験・製図科目では、授業外の学習時間や課題の量が、他の授業タイプと比べて多いと感じられているようです。これは2022年度の授業アンケート分析においても同様の様子が観察されました。性質上仕方ない部分も多いですが、やはり学生にとっては結構な負担になっている様子がうかがえます。

Q10：1回の授業に対する予習・復習の平均時間について。



図：設問10の授業タイプ別の回答割合

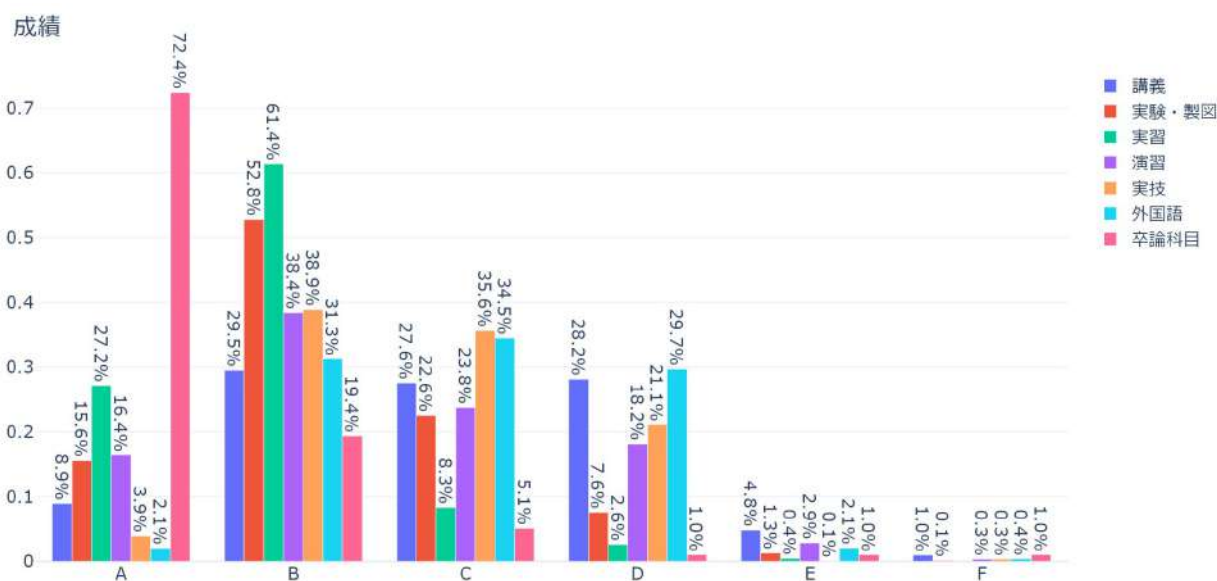
Q13：課題（宿題、レポートの提出、予習・復習など）の量について。



図：設問13の授業タイプ別の回答割合

2.4.3 卒論科目の成績が高い

有効回答数は少ないですが、卒論科目の平均授業評価は72.4%と、他の授業形態よりかなり高いことが、以下のグラフから分かります（2022年度92.5%）。とはいえ、昨年度よりA評価の割合が低下したことから、偏りは是正方向にあるようです。



図：授業タイプ別の成績分布

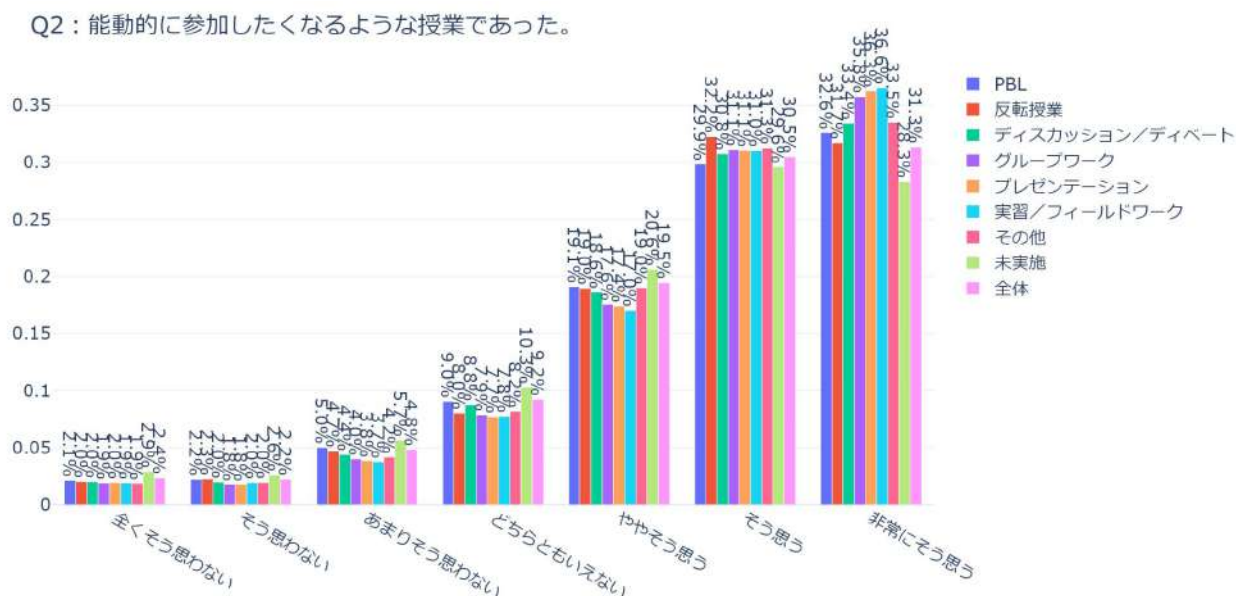
2.5 アクティブ・ラーニング内容別分析

本観点は、シラバスの項目の一つである「アクティブ・ラーニングの実施内容」の内容から、当該授業を以下の8つに区分し、区分間で授業アンケートならびに成績に関係が見られるか調査したものです。この項目はシラバス作成時、以下の選択肢から複数選択が可能となっています。有効回答数（アンケートの回答数であり、授業の総数とは一致しません。また各項目は複数選択が可能であるため、全体を除く全ての項目の合計は、全体を上回ります）の内訳は以下の通りです。

- PBL（ここではProject-Based Learning（課題解決型学習）を指します）：有効回答数14,766件
- 反転授業：有効回答数8,983件
- ディスカッション／ディベート：有効回答数26,968件
- グループワーク：有効回答数30,048件
- プレゼンテーション：有効回答数20,392件
- 実習／フィールドワーク：有効回答数8,240件
- その他：有効回答数13,673件
- 未実施：有効回答数39,395件
- （全体：有効回答数99,250件）

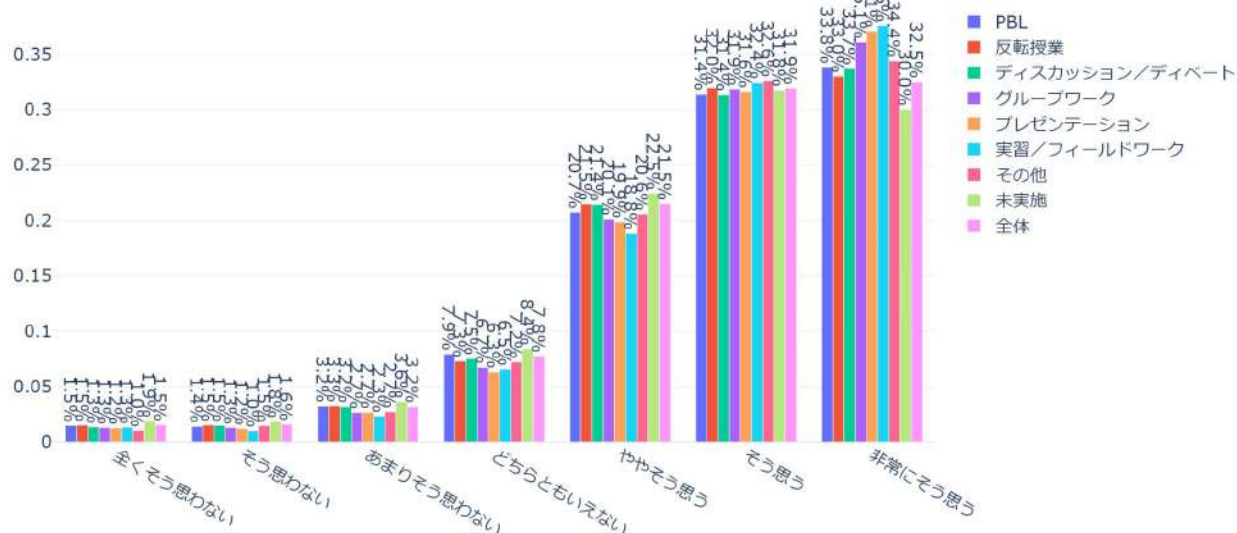
2.5.1 全体的に「未実施」の授業は肯定的意見の割合が小さい

リッカート尺度で回答する設問を見ると、どの設問においても「未実施」の授業において「7. 非常にそう思う」と回答した割合は他区分の授業と比べて小さいことが見て取れます。特に設問2「能動的に参加したくなるような授業であった。」や設問4「この授業を通じて、自身の能力の高まりや成長につながった。」、設問11「この授業は総合的に満足できたか。」において「7. 非常にそう思う」の割合が小さいことから、授業に消極的だったり、授業内容を大学や教員が想定している通りに習得できていない可能性がうかがえるため、アクティブ・ラーニングを取り入れる一考の余地はありそうです。



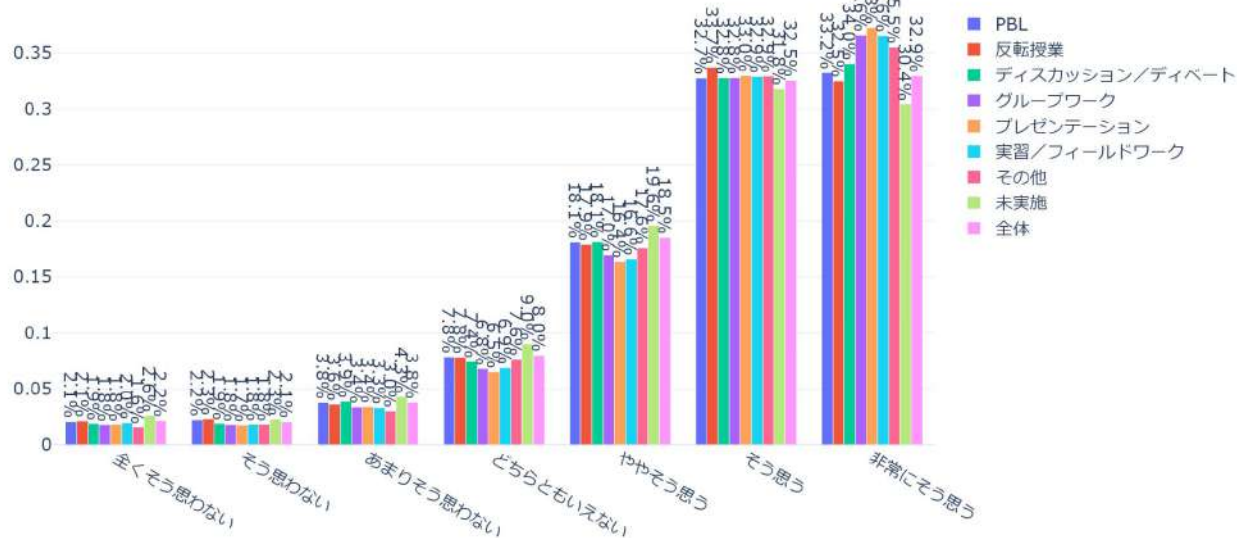
図：設問2のアクティブ・ラーニング内容別の回答割合：全学部

Q4：この授業を通じて、自身の能力の高まりや成長につながった。



図：設問4のアクティブ・ラーニング内容別の回答割合：全学部

Q11：この授業は総合的に満足できたか。

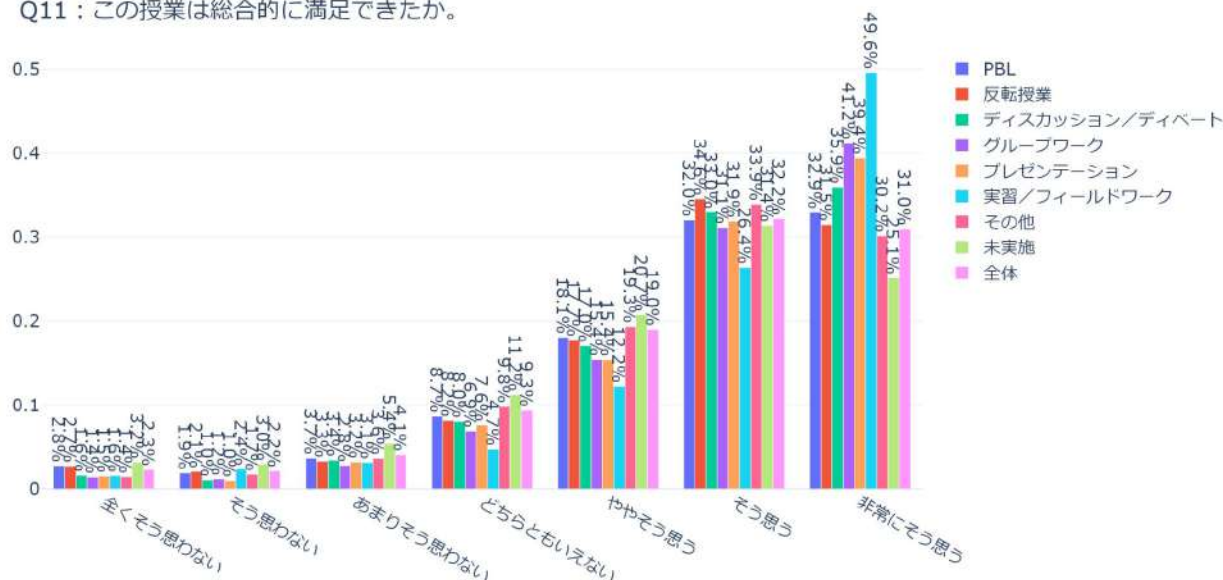


図：設問11のアクティブ・ラーニング内容別の回答割合：全学部

2.5.2 学部別の特徴

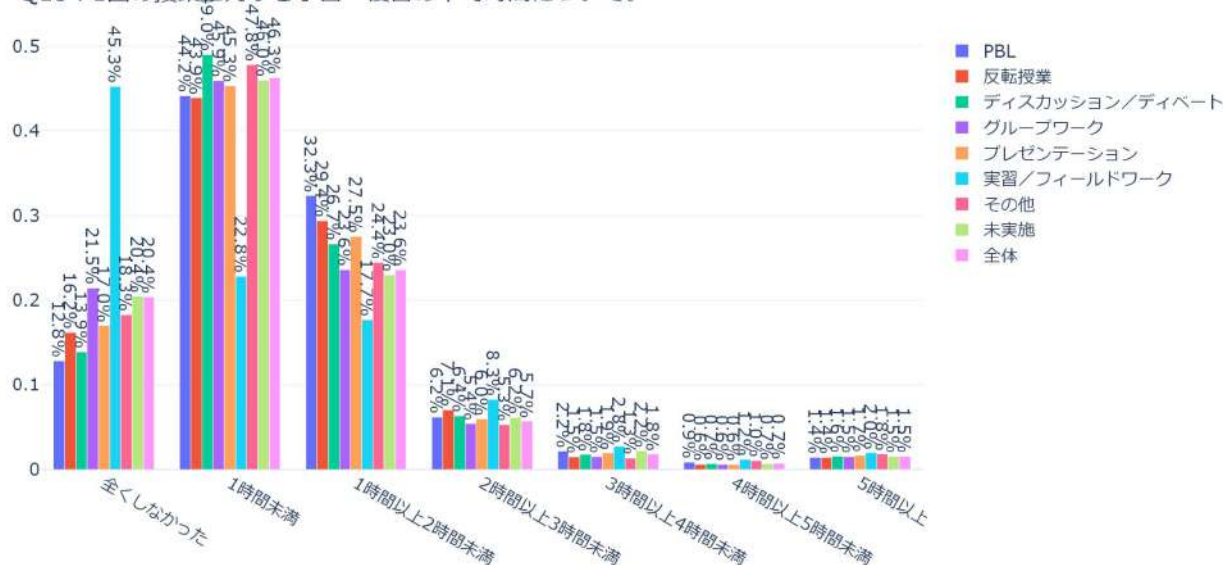
学部別に特徴が見られた項目もありました。経済学部では「実習／フィールドワーク」の授業が全体的に肯定的な意見を受けています。ただし、授業外学習時間は「1. 全くしなかった」と回答した割合が50%近くまである点には（実習形式の特徴とも言えますが）注意を払う余地があるでしょう。

Q11：この授業は総合的に満足できたか。



図：設問11のアクティブ・ラーニング内容別の回答割合：経済学部

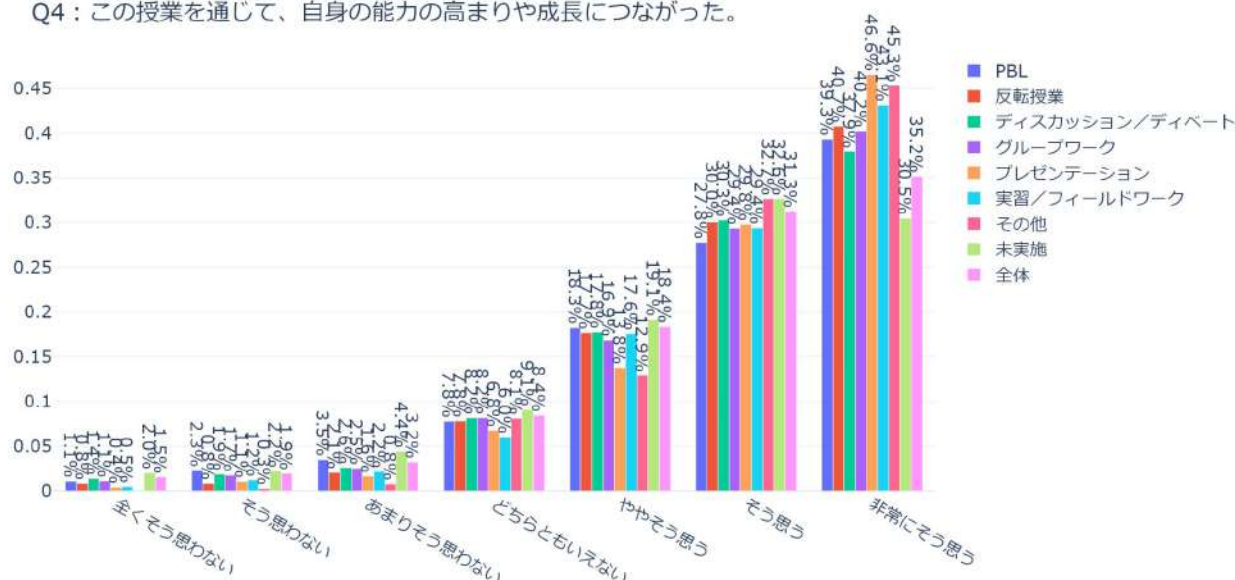
Q10：1回の授業に対する予習・復習の平均時間について。



図：設問10のアクティブ・ラーニング内容別の回答割合：経済学部

また、国際経営学部では「プレゼンテーション」を取り入れた授業において、全体的に肯定的な意見が多く見られました。能力伸長もよく感じられており、経済学部の実習／フィールドワークと同様に、学部内で授業がうまく運営されているようです。

Q4：この授業を通じて、自身の能力の高まりや成長につながった。



図：設問4のアクティブ・ラーニング内容別の回答割合：国際経営学部

2.5.3 反転授業の実施状況

一例として、アクティブ・ラーニングの中でも「反転授業」の様子を見てみると、本分析の対象となった全7,041の授業のうち、「反転授業」をアクティブ・ラーニングの実施内容に選択した授業は695件あり、1割弱の授業で反転授業が取り入れられているようです。

また、授業タイプ別に反転授業を取り入れている授業数を集計した結果は以下の表の通りです。この表から、講義科目や外国語科目で特に反転授業が取り入れられていることが分かります。

表：反転授業を取り入れている授業数

授業タイプ	反転授業を取り入れている授業数
講義	303
実験・製図	3
実習	1
演習	81
実技	28
外国語	277
卒論科目	2
合計	695

また反転授業はその他のアクティブ・ラーニングと組み合わせて取り入れられており、反転授業のほか、「PBL・反転授業・ディスカッション/ディベート・グループワーク・プレゼンテーション」の全てと組み合わせて実施されている授業が、反転授業を取り入れている授業の中で最多の133件ありました。

反転授業に注目した分析はまだ十全ではなく、速報的な報告となりますが、今後も授業デザインと授業アンケートの結果や成績との関係の調査を進めて参ります。

2.6 出身高校ランク別分析

(公開資料からは省略)

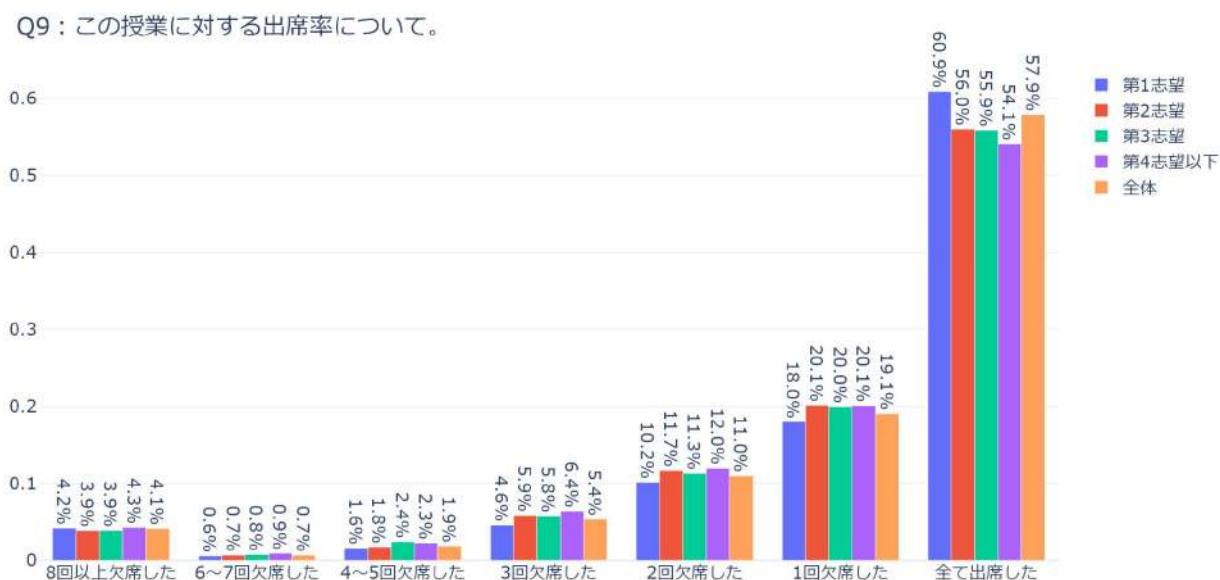
2.7 志望順位別分析

1年次に実施される新入生アンケートでは、中央大学の志望順位を問う設問があります。本分析は1年生のみを対象に、新入生アンケートで志望順位別にアンケートの結果などに関係があるか調査したものです。有効回答数（アンケートの回答数であり、学生の総数とは一致しません）は以下の通りです。

- 第1志望：有効回答数24,323件
- 第2志望：有効回答数10,224件
- 第3志望：有効回答数7,272件
- 第4志望以下：有効回答数5,550件

2.7.1 第1志望の学生は、授業にすべて出席する割合がやや高い

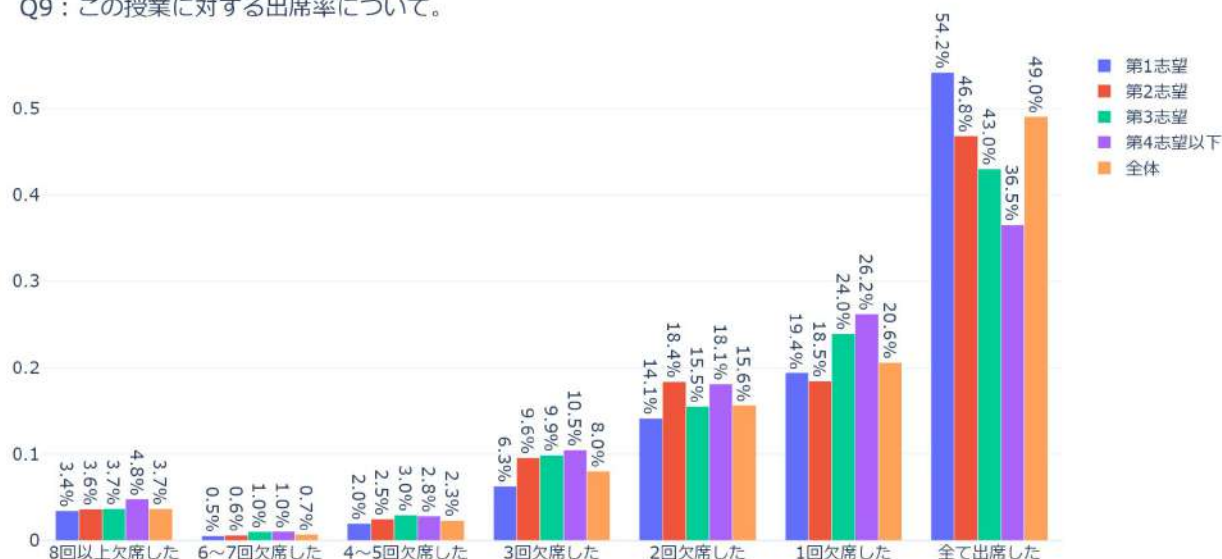
設問9で問われている授業に対する出席率について、第1志望の学生は「全て出席した」と回答した割合が60.9%と、他の学生よりもやや高いことが伺えます。しかし、1回以上欠席した学生の割合に大きな差などは見られないため、「全て出席した」学生についても誤差の範囲である可能性があります。



図：設問9の志望順位別の回答割合：全学部

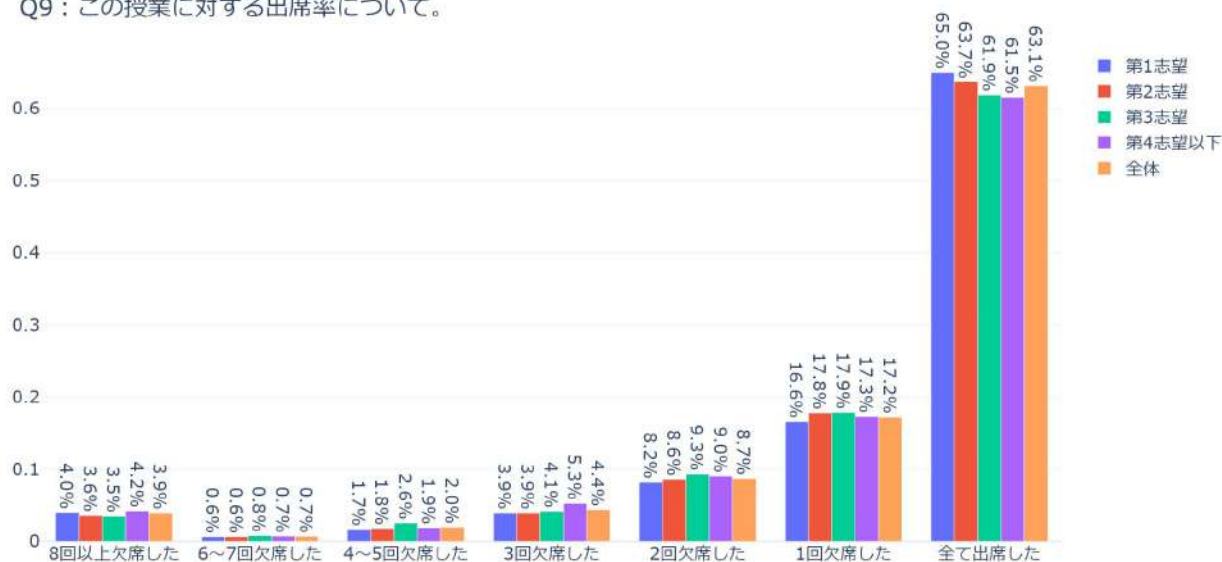
また、商学部を見てみると、第4志望以下の学生は「すべて出席した」と回答した割合が、第1志望の学生に比べ15ポイント強の差が見られました。一方で、理工学部ではどの区分の学生についても出席率に大きな違いは見受けられませんでした。このように、学部によって出席率に関する傾向は多少異なるようです。

Q9：この授業に対する出席率について。



図：設問9の志望順位別の回答割合：商学部

Q9：この授業に対する出席率について。



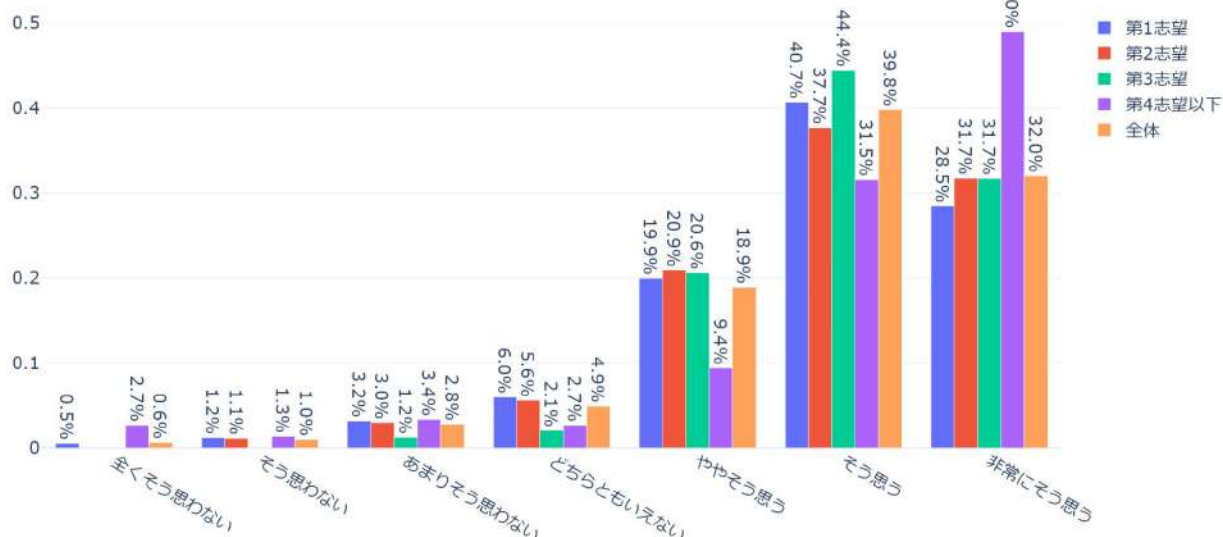
図：設問9の志望順位別の回答割合：理工学部

2.7.2 国際情報学部は第4志望以下の学生が肯定的な意見を持っている

全学部で見るとどの設問においても、志望順位による大きな違いは見受けられない（設問によっては、第1志望の学生がやや肯定的であったり、第4志望以下の学生がやや否定的であったりする）ものの、国際情報学部では第4志望以下の学生が、他学部や他区分の学生と比べ肯定的な意見を持っているようです。例えば設問11「この授業は総合的に満足できたか。」では、第4志望以下の学生が「7. 非常にそう思う」と回答した割合が大きい様子が見受けられました。一方で、第1志望の学生は最も「7. 非常にそう思う」と回答した割合が小さく、第4志望以下の学生との差は20ポイント以上にもなります。特に第1志望の学生は、設問9「この授業に対する出席率について。」で「全て出席した」という割合が71.9%であり、全学部の第1志望の学生（60.9%）よりも高い数値を示しているにも関わらず、満足度が区分内で最低であることから、学生自身の思い描いている学部像から離れている可能性が考えられます。

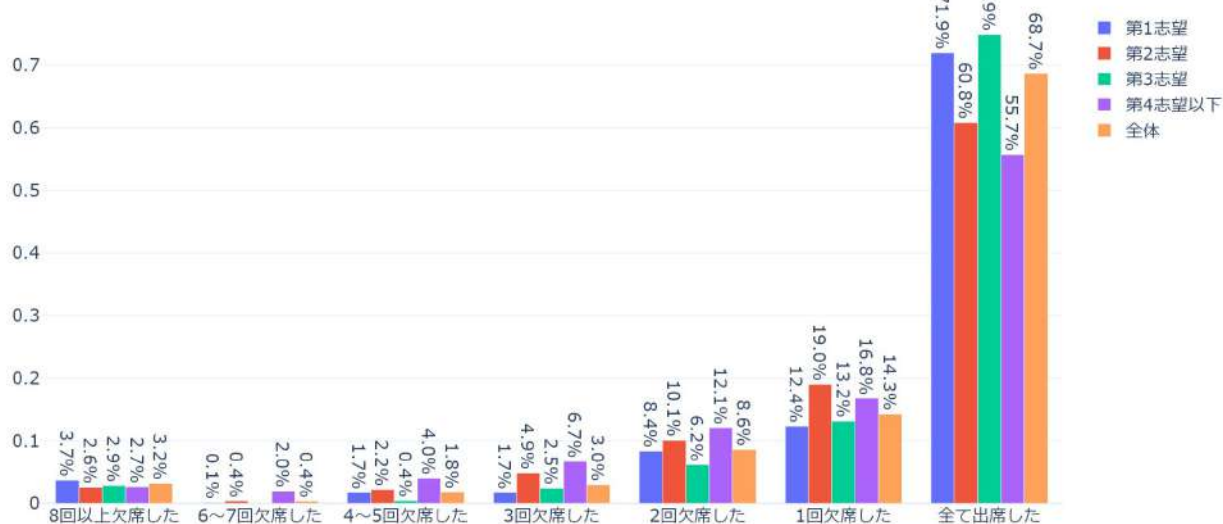
国際情報学部において、（アンケートの回答数を基に計算すると）第4志望以下の学生は全体の10%ほどを占めます。サンプルサイズは決して大きくはありませんが、より詳細な分析を行って、原因（理由）などを確かめてみてもよいかもしれません。

Q11：この授業は総合的に満足できたか。



図：設問11の志望順位別の回答割合：国際情報学部

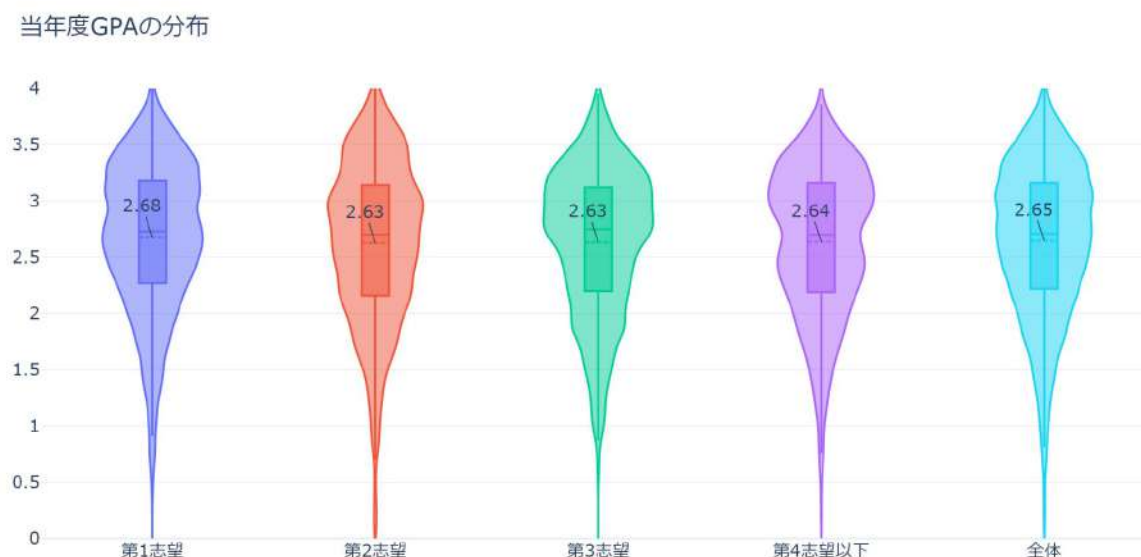
Q9：この授業に対する出席率について。



図：設問9の志望順位別の回答割合：国際情報学部

2.7.3 志望順位でGPAに大きな差は見られない

志望順位別に1年次終了時点の平均GPAを見てみると、やや第1志望の学生のGPAが高いようですが、ほぼ横ばいになっていることが分かります。第1志望でないからといって、やる気を失った学生の割合はそこまで高くないことが伺えます。もちろん、1人もそのような学生がいらない、という証左ではないので、より小さい単位（学部や学科、専攻）で、そのような学生がいらないか、確認の必要もあるでしょう。



図：志望順位別の平均GPA

2.8 学習行動別分析：欠席回数別

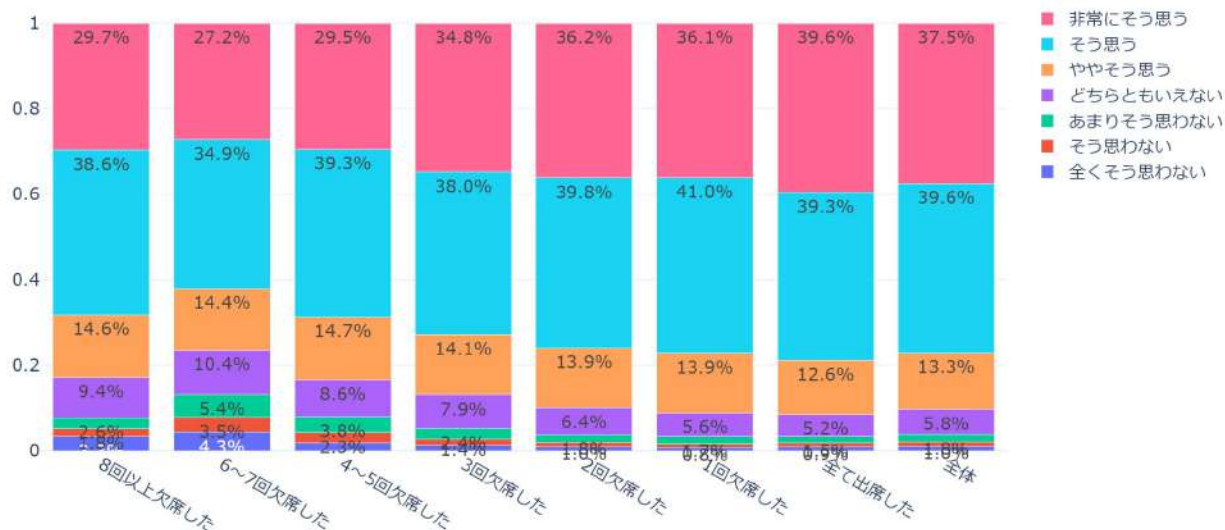
学生を設問9「この授業に対する出席率について。」の回答結果で区分し、区分間で授業アンケートならびに成績に関係が見られるか調査したものです。有効回答数（アンケートの回答数であり、学生の総数とは一致しません）の内訳は以下の通りです。

- 8回以上欠席した：有効回答数3,557件
- 6～7回欠席した：有効回答数654件
- 4～5回欠席した：有効回答数2,264件
- 3回欠席した：有効回答数6,269件
- 2回欠席した：有効回答数12,091件
- 1回欠席した：有効回答数19,691件
- 全て出席した：有効回答数54,724件

2.8.1 欠席回数が増えるほど回答はネガティブになるが、8回以上欠席すると反発してポジティブな回答が増える

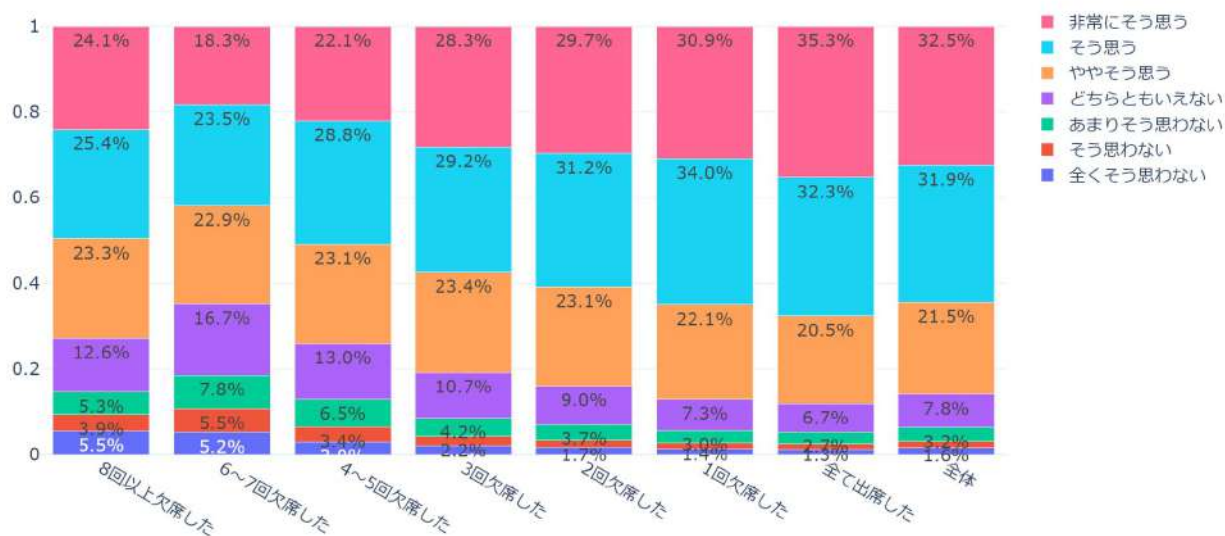
2022年度授業アンケート分析においても同様の様子が観察されましたが、以下の例が示すように、全般的に欠席回数が増えるほど、授業に対して何かしら不満点が出ている様子がうかがえます。一方で、8回以上欠席するとその傾向が反発する点も、前年度授業アンケート分析と同様の傾向です。

Q1：講義要項（シラバス）に示されていた学習目標や内容と合致していた。



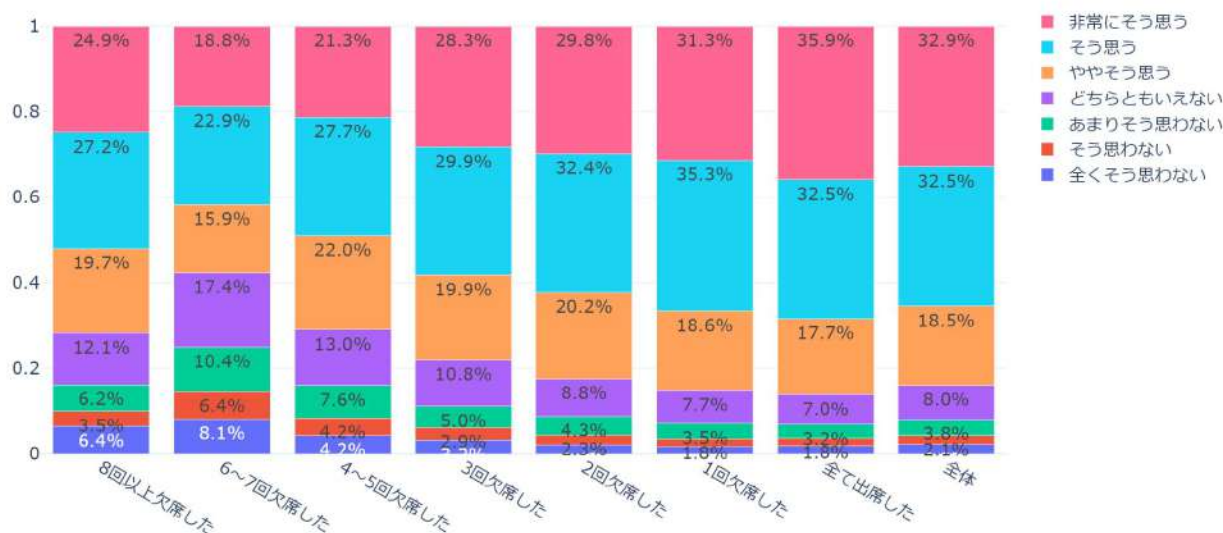
図：設問1の欠席回数別の回答割合

Q4：この授業を通じて、自身の能力の高まりや成長につながった。



図：設問4の欠席回数別の回答割合

Q11：この授業は総合的に満足できたか。



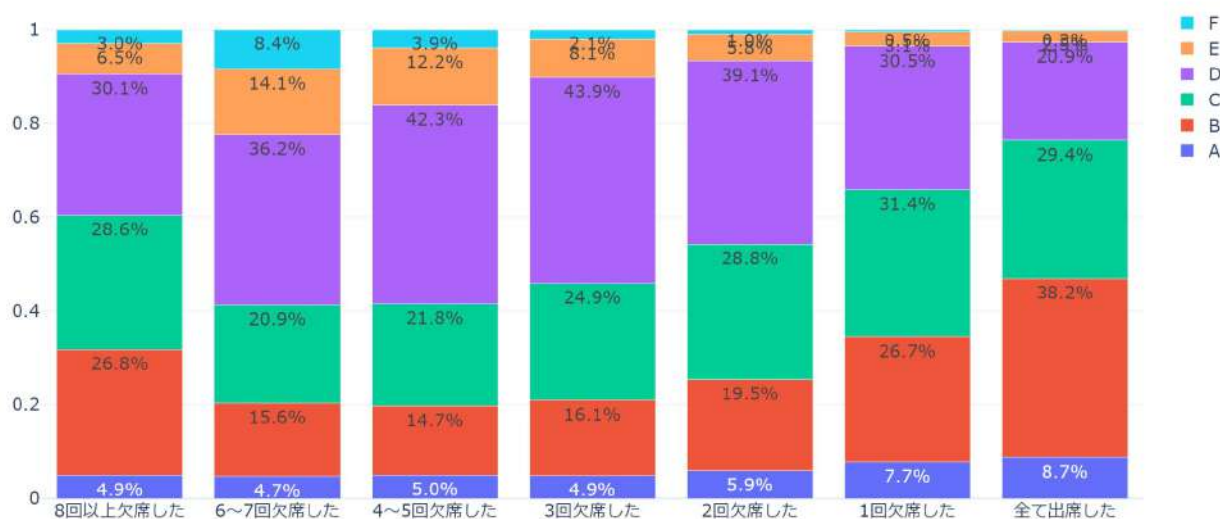
図：設問11の欠席回数別の回答割合

2.8.2 成績も欠席回数が増えるほど低下する傾向にあるが、8回以上欠席するとその傾向が反発する

同じく2022年度授業アンケート分析においても見られた傾向として、欠席回数が増えるほど成績も全体的に下降傾向である様子がうかがえます。一方で、8回以上欠席すると反発して、D評価以上（＝合格）の割合がグンと増えます。

ただし、「欠席回数」というものがアンケート回答時点で学生個人の主観に委ねられている点には留意が必要です。例えば遠隔授業を欠席と扱ったり、公欠を出席代わりと扱ったりする学生がいる可能性は捨てられません。

成績



図：欠席回数別の成績分布

2.9 学習行動別分析：授業外学習時間別

学生を設問10「1回の授業に対する予習・復習（ゼミ活動や図書館/インターネット等での情報検索時間も含む）の平均時間について。」の回答結果で区分し、区分間で授業アンケートならびに成績に関係が見られ

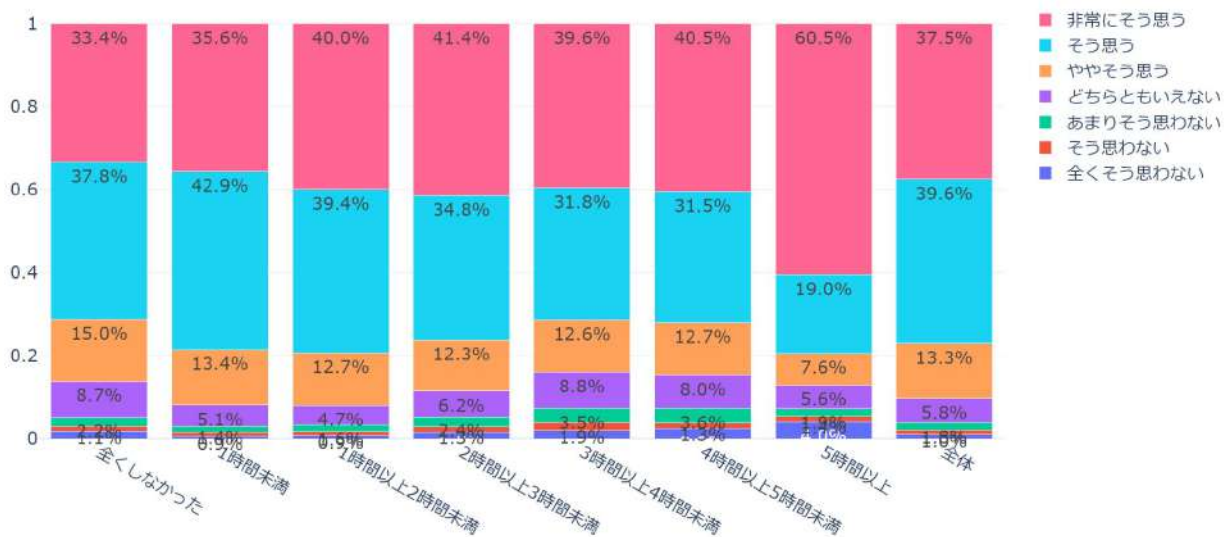
るか調査したものです。有効回答数（アンケートの回答数であり、学生の総数とは一致しません）の内訳は以下の通りです。

- 全くしなかった：有効回答数17,134件
- 1時間未満：有効回答数42,761件
- 1時間以上2時間未満：有効回答数25,799件
- 2時間以上3時間未満：有効回答数8,111件
- 3時間以上4時間未満：有効回答数2,477件
- 4時間以上5時間未満：有効回答数897件
- 5時間以上：有効回答数2,071件

2.9.1 5時間以上授業外学習を行った学生は、授業に対して高評価

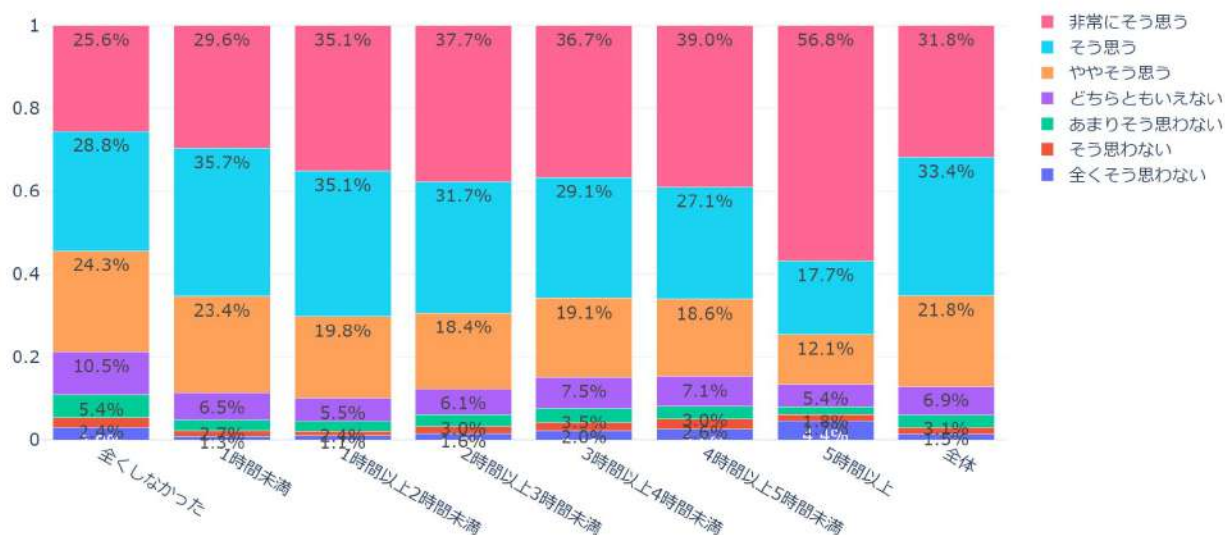
授業外学習を5時間以上行った学生は、以下の例が示すように授業に対して評価を高く持っている様子が見受けられます。また、全くしなかった～2時間程度の時間学習をした学生については、時間が長くなるにつれて評価が徐々に高くなっている様子もうかがえます。2～5時間、授業外学習を行った学生については、「非常にそう思う」の割合は変わりませんが、逆に「そう思わない」などのネガティブな意見が徐々に高くなっている様子も興味深い点です。

Q1：講義要項（シラバス）に示されていた学習目標や内容と合致していた。



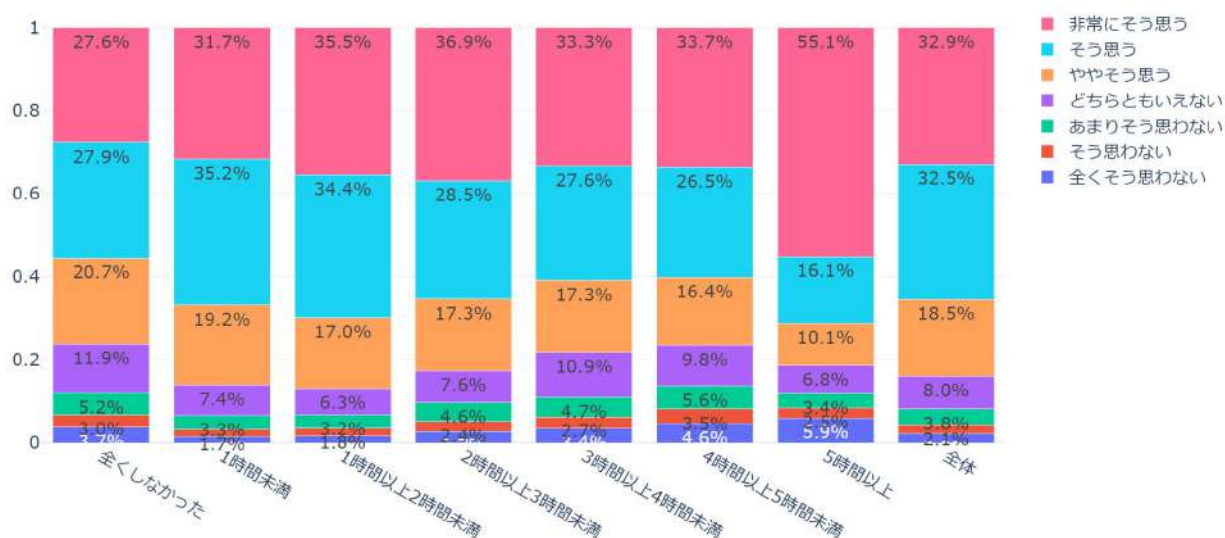
図：設問1の授業外学習時間別の回答割合

Q3：この授業の内容を理解し、知識・技能等を習得できた。



図：設問3の授業外学習時間別の回答割合

Q11：この授業は総合的に満足できたか。

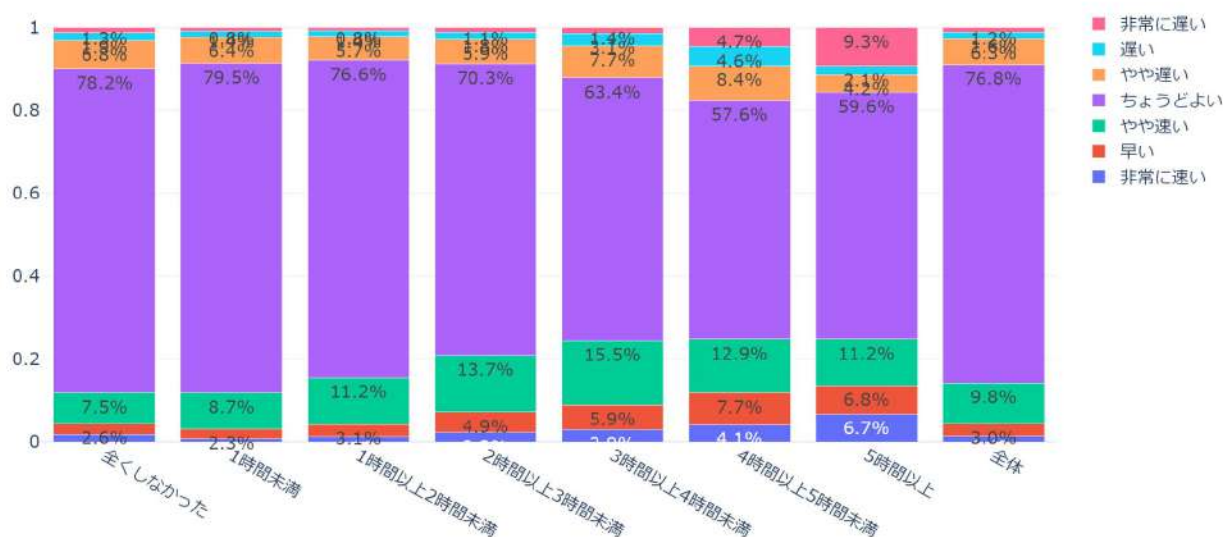


図：設問11の授業外学習時間別の回答割合

2.9.2 授業外学習時間が長い学生ほど、授業の進行速度はちょうどよく感じず、課題の量が多いと感じる

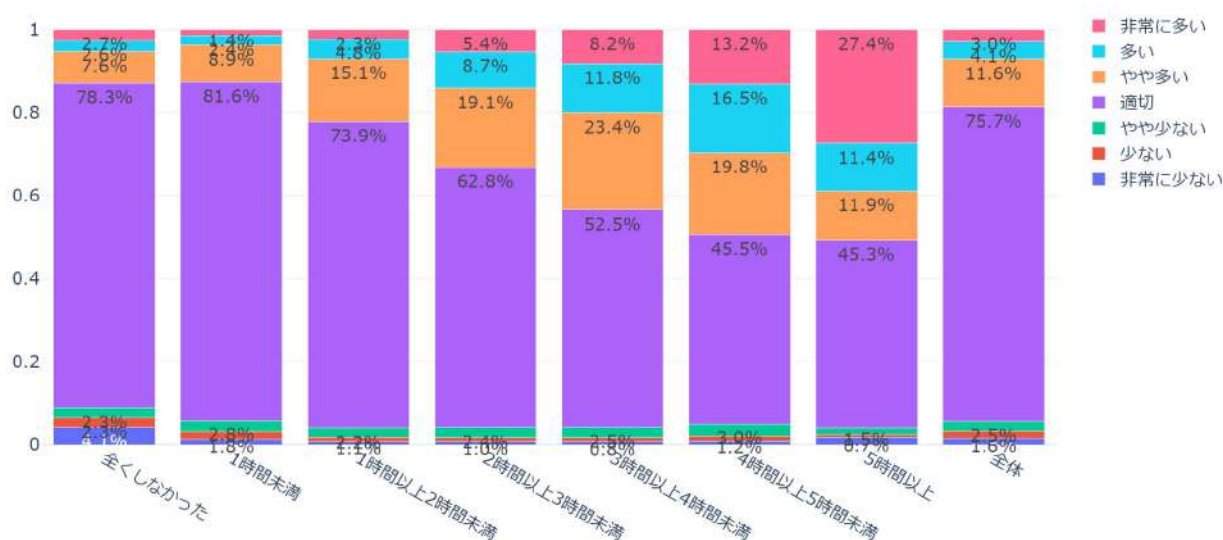
2022年度授業アンケート分析においても同様の様子が見られましたが、授業外学習時間が長くなるにつれて、授業の進行速度が適当であると感じにくくなる傾向が見て取れます。また、課題の量については授業外学習時間が長くなるにつれて「多い」と感じる割合が増えていることも見て取れます、今年度のアンケートでは、5時間以上授業外学習を行っている学生のうち、課題の量が「非常に多い」と感じている学生は27.4%でした（2022年度35.0%）。

Q12：この授業の進行速度について。



図：設問12の授業外学習時間別の回答割合

Q13：課題（宿題、レポートの提出、予習・復習など）の量について。



図：設問13の授業外学習時間別の回答割合

2.9.3 成績はわずかに学習時間が長いほど高いものの、ほぼ変わりなし

授業外の学習を長く行っているにも関わらず、成績が極端に良くなるわけではない、という様子が、昨年度の授業アンケート分析に引き続き見られました。



図：授業外学習時間別の成績分布

2.9.4 小括

授業外学習時間は「長ければ良い」というわけではありませんが、大学設置基準に則ると1単位あたり1.5時間/週の授業外学習時間は確保したいところです。また、授業外学習時間が長い学生は「よく頑張っている」とも捉えられますが、「要領がよくない」「問題に直面しており想定以上の時間がかかっている」などの可能性に留意しなければならないのは、昨年に引き続き同様です。

2.10 年間履修単位数別

履修単位が比較的多い1, 2年生を対象に、1年間で履修している単位数を10単位区切りで区分し、区分間で授業アンケートならびに成績に関係が見られるか調査したものです。有効回答数（アンケートの回答数であり、学生の総数とは一致しません）の内訳は以下の通りです。

- 0-10単位：有効回答数0件
- 11-20単位：有効回答数49件
- 21-30単位：有効回答数174件
- 31-40単位：有効回答数11,952件
- 41-50単位：有効回答数61,497件
- 51単位以上（51+）：有効回答数5,706件

2.10.1 履修単位が30単位以下の学生は授業に対して高評価

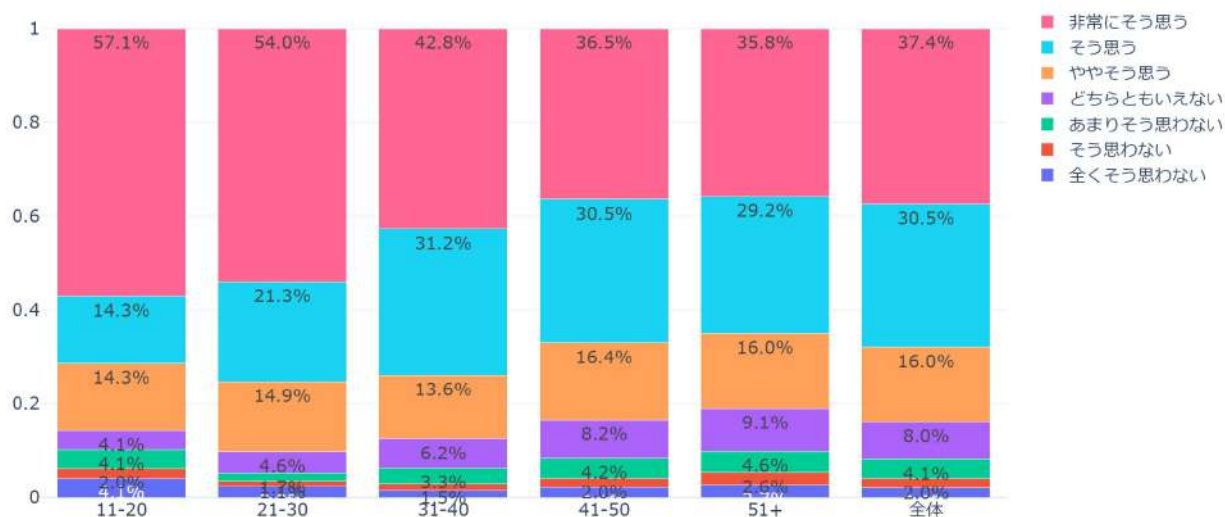
概ね履修単位数が30単位以下の学生は、以下の例に示すようにいくつかの授業評価項目において、選択肢「非常にそう思う」の回答割合が他の群と比べて高い様子が見て取れます。

Q2：能動的に参加したくなるような授業であった。



図：設問2の年間履修単位数別の回答割合：全学部

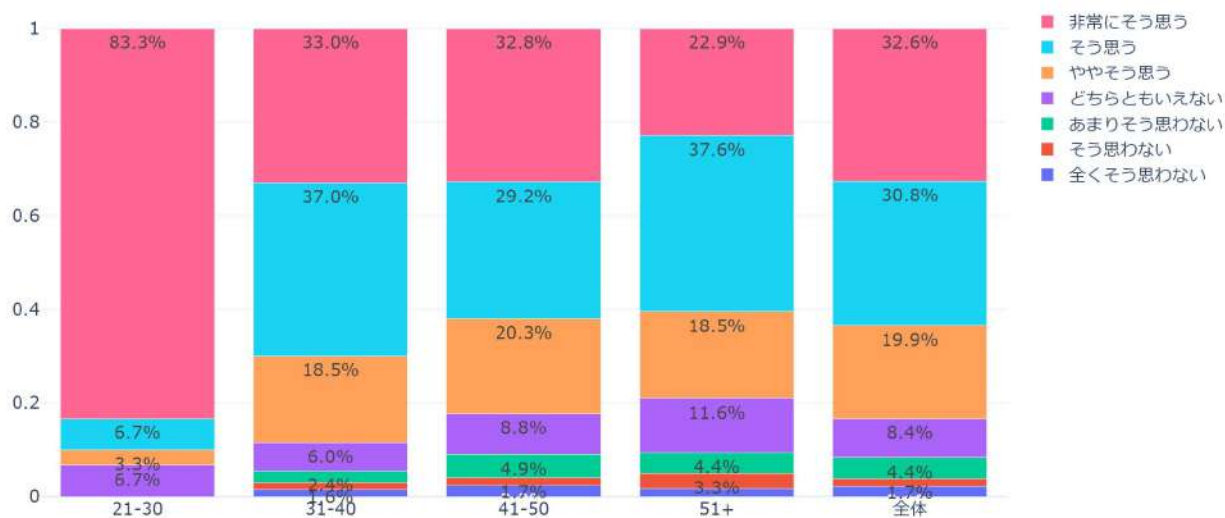
Q5：担当教員の話し方は聞き取りやすく、理解しやすいものだった。



図：設問5の年間履修単位数別の回答割合：全学部

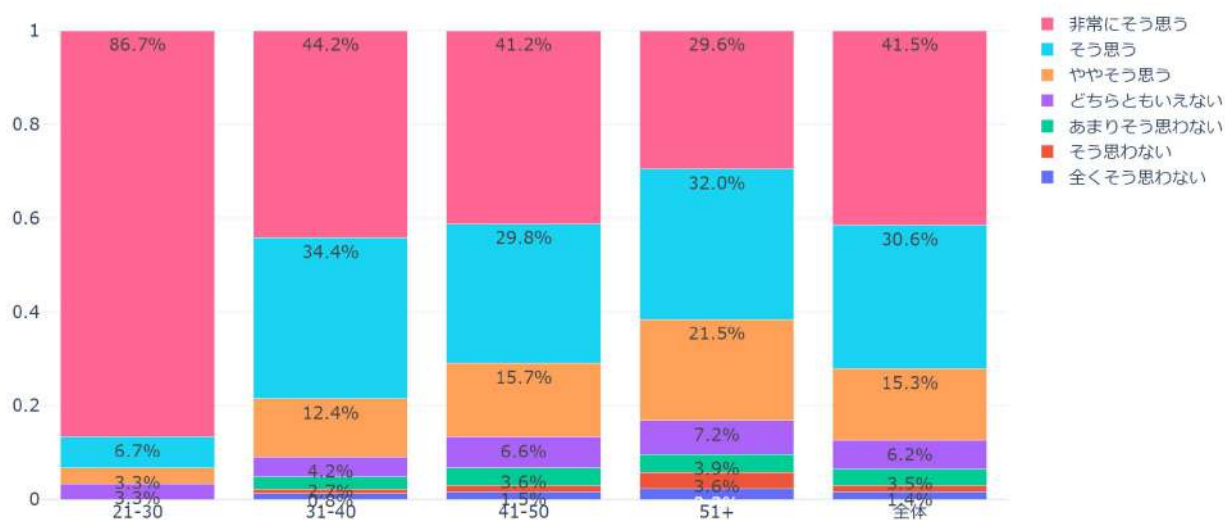
この傾向がもう少し強く見える学部も見られました。法学部では、51単位以上履修している学生を見ると、否定的な意見が全学部の学生に比べ増えている様子が伺えます。

Q2：能動的に参加したくなるような授業であった。



図：設問2の年間履修単位数別の回答割合：法学部

Q5：担当教員の話し方は聞き取りやすく、理解しやすいものだった。



図：設問5の年間履修単位数別の回答割合：法学部

一方で、総合政策学部では履修単位数が増えると、否定的な意見もさることながら肯定的な意見も増えている様子が見て取れます。

Q2：能動的に参加したくなるような授業であった。



図：設問2の年間履修単位数別の回答割合：総合政策学部

Q5：担当教員の話し方は聞き取りやすく、理解しやすいものだった。

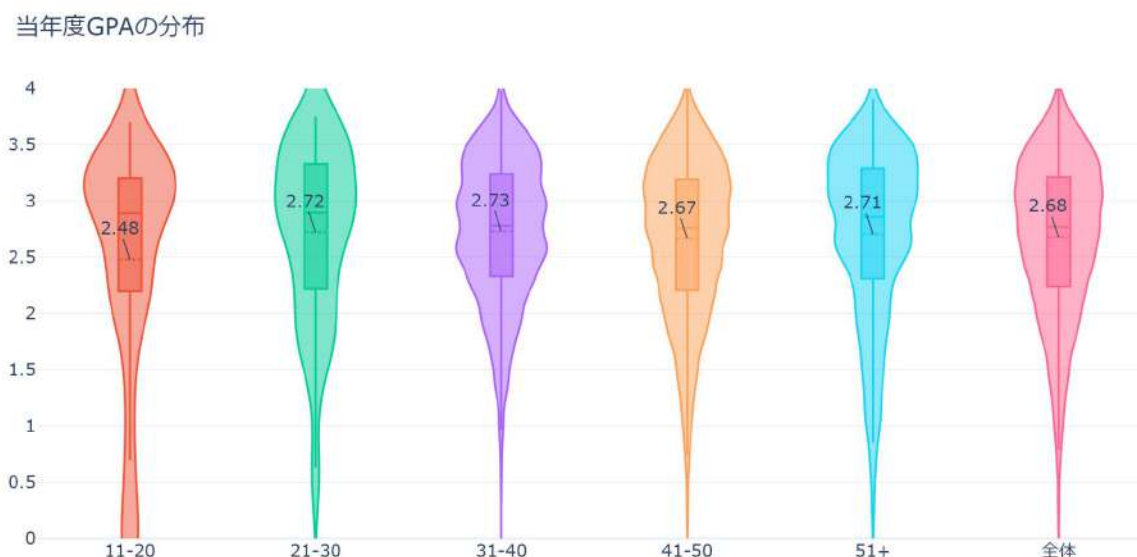


図：設問5の年間履修単位数別の回答割合：総合政策学部

2.10.2 履修単位数が20単位の学生は年間GPAがやや低い

履修単位数が20単位以下の学生は、他の学生に比べてGPAがやや低い様子です。逆に、履修単位数が20を超えている学生については、GPAに大きな差は見られませんでした。

サンプルサイズが小さい点に留意は必要ですが、特に履修単位数が20単位以下の学生は、GPAが0付近にも一定数分布しており、不合格が多すぎた、履修を諦めた、などの問題が発生していることが考えられます。履修単位数が少ない学生には注意を払う余地がありそうです。



図：年間履修単位数別のGPA平均

3. おわりに

本報告では、2023年度に実施された授業アンケートを対象に、10個の観点から分析を行いました。2022年度より分析観点を拡充した本分析ですが、より多面的な情報がうかがえたのではないかと思います。

本報告は、あくまで全学的な傾向を捉えたものであり、学部別の傾向まで詳らかに調査したものではありません。全学的な傾向と学部や専攻ごとの傾向は、各教育組織の特性により異なることが予想されます。また、より詳細なデータを加えた分析、例えば授業の受講人数や学生自身の特性などを踏まえた分析により、さらにカリキュラム改善などにつながる議論が期待されます。本報告を基に、ぜひ学部の中でより深い分析を進めていただき、因果関係などを見出し、教育改善に向けた議論を深めていただければ幸いです。

授業アンケート分析

成績別分析

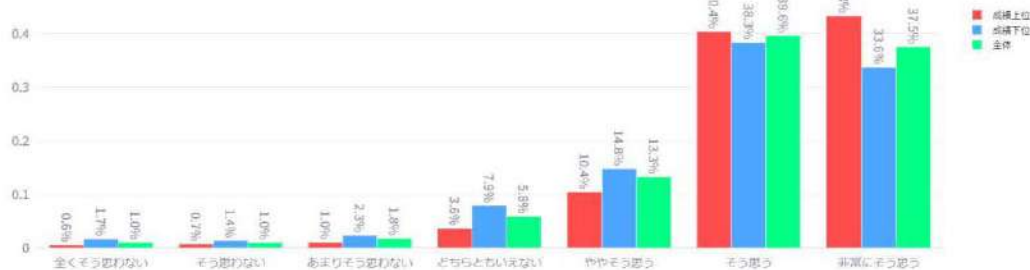
A評価の学生（成績上位）とD～F評価の学生（成績下位）の関係を表示します。

成績上位と下位のグラフを表示

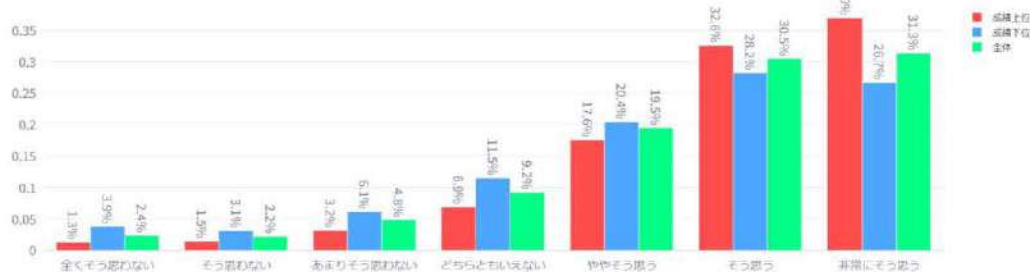
【有効回答数】

- 成績上位（A）：7629
- 成績下位（D～F）：31736
- 全体（データなしを含む）：99250

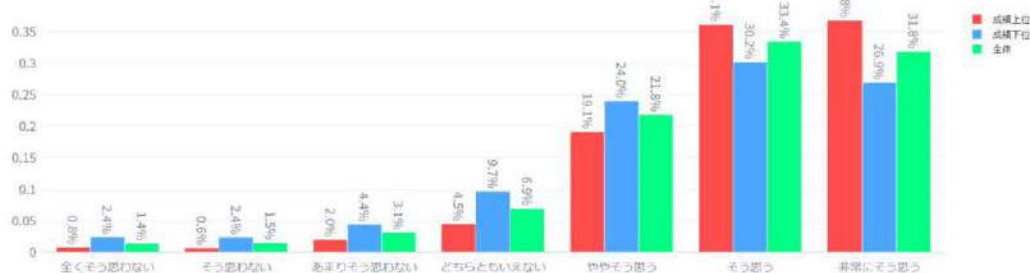
Q1：講義要領（シラバス）に示されていた学習目標や内容と合致していた。



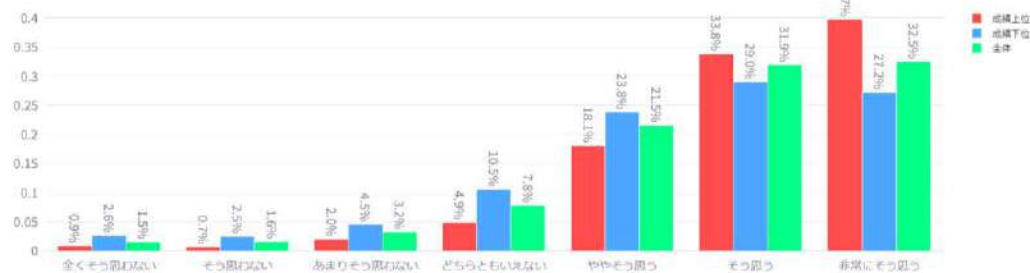
Q2：能動的に参加したくなるような授業であった。



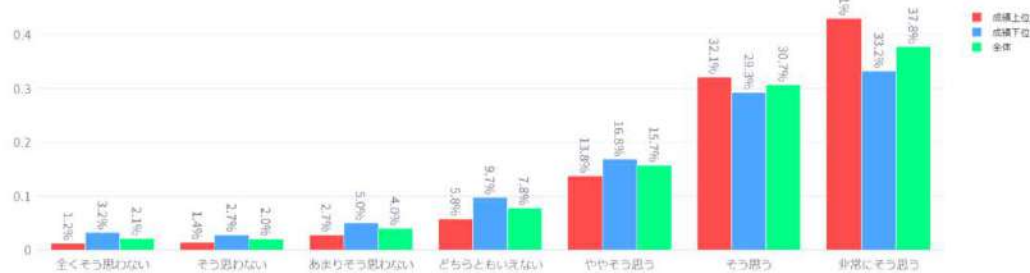
Q3：この授業の内容を理解し、知識・技能等を習得できた。



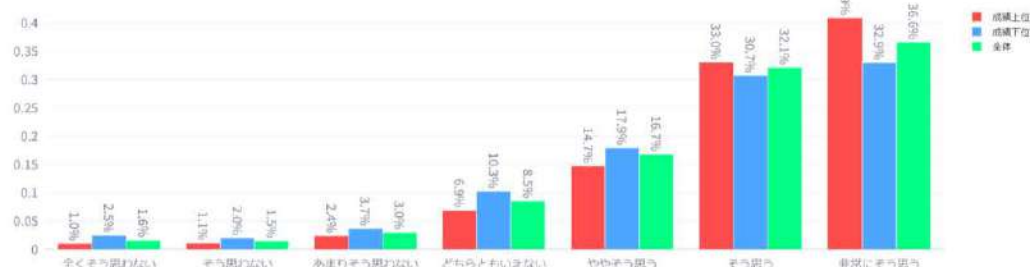
Q4：この授業を通じて、自身の能力の高まりや成長につながった。



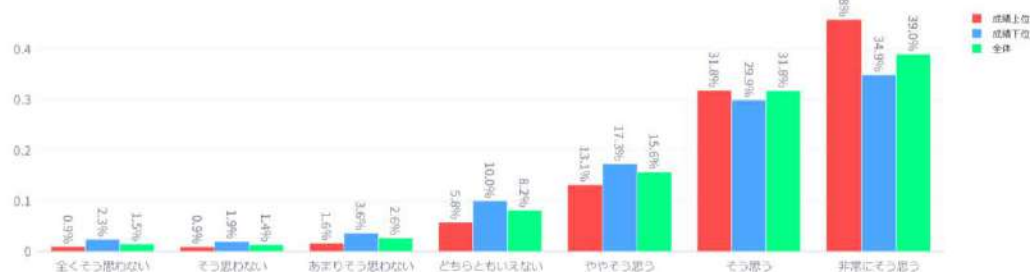
Q5：担当教員の話し方は聞き取りやすく、理解しやすいものだった。



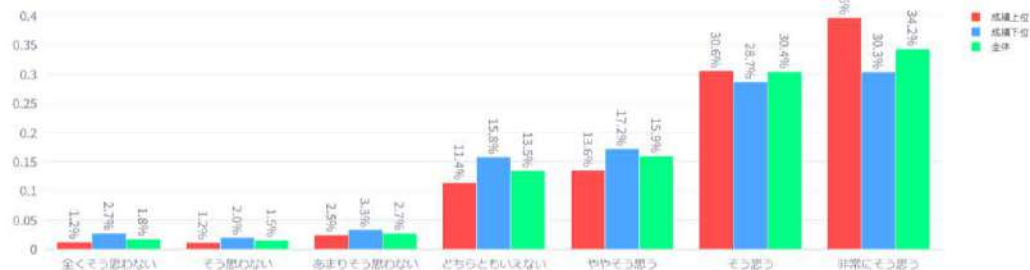
Q6：担当教員は学生が集中できるように学習環境の維持に努めていた。



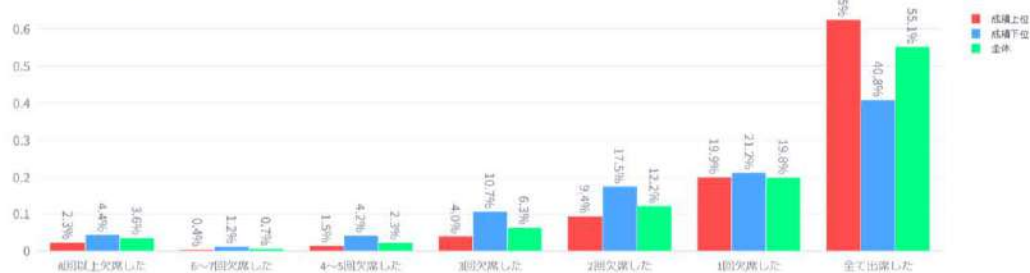
Q7：教科書や配布・提示資料（パワーポイント・ビデオ等）は授業内容の理解に役立った。



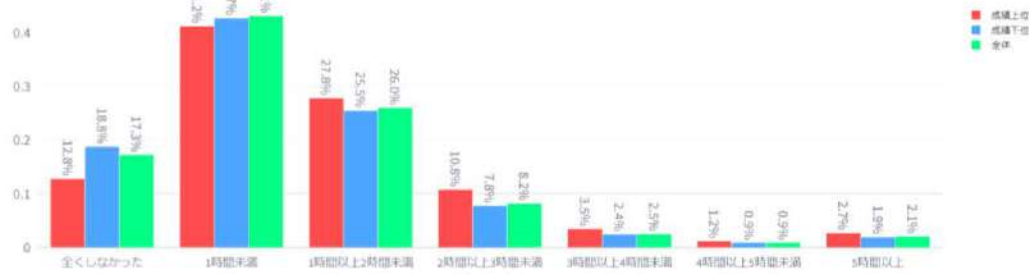
Q8：担当教員によるフィードバック(個別質問への応答、レポートへのコメント、試験の講評など)は適切だった。



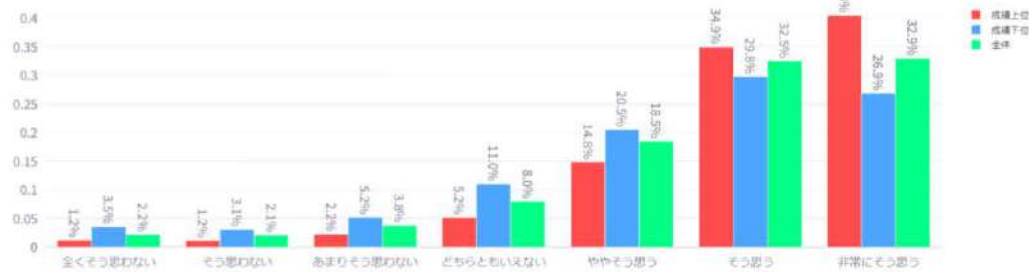
Q9：この授業に対する出席率について。



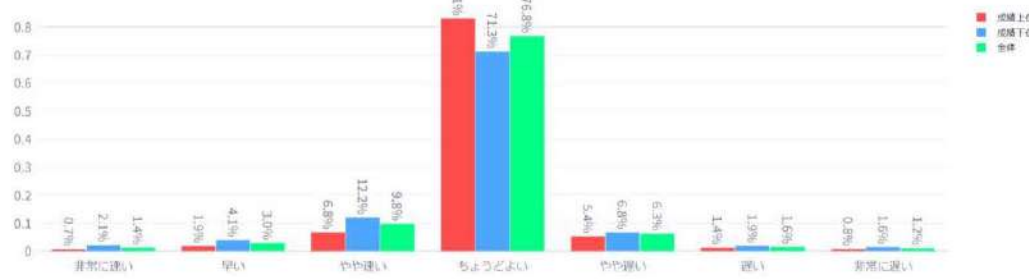
Q10：1回の授業に対する予習・復習(ゼミ活動や図書館/インターネット等での情報検索時間も含む)の平均時間について。



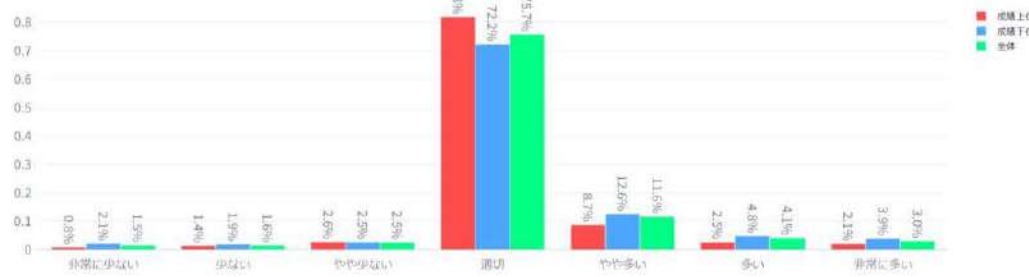
Q11：この授業は総合的に満足できたか。



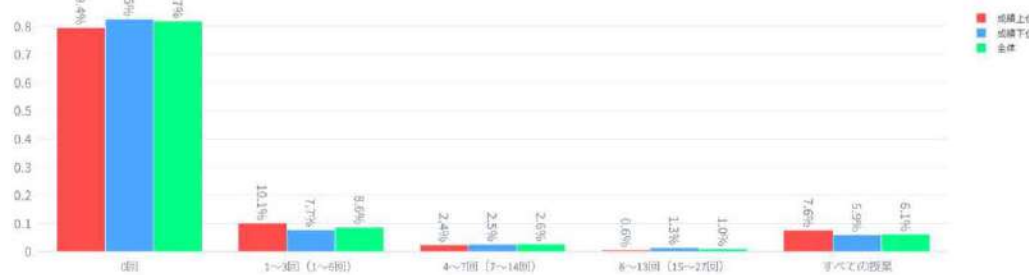
Q12：この授業の進行速度について。



Q13：課題（宿題、レポートの提出、予習・復習など）の量について。



Q14：全授業回のうち、あなたが選択授業形式によって受講した回数について。(計28回の授業科目については、()内の数値をお答えください。)



授業形式別分析

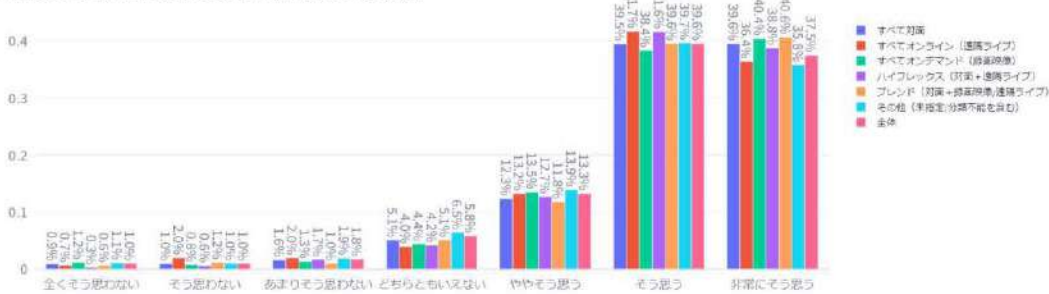
授業形式別のアンケート結果と成績の関係を表示します。

授業形式別のグラフを表示

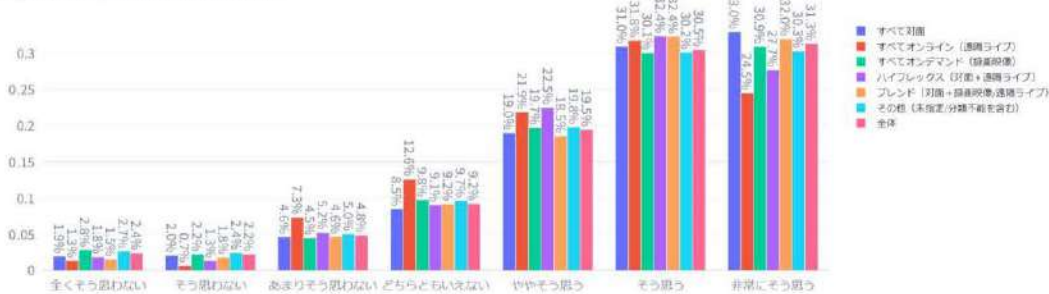
【有効回答数】

- すべて対面：36557
- すべてオンライン（遠隔ライブ）：151
- すべてオンデマンド（録画映像）：3154
- ハイフレックス（対面＋遠隔ライブ）：982
- ブレンド（対面＋録画映像/遠隔ライブ）：2006
- その他（未指定/分類不能を含む）：56113
- 全体（データなしを含む）：99250

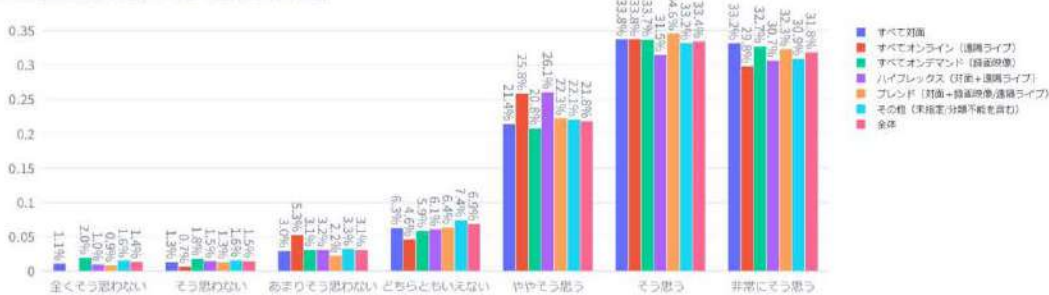
Q1：講義要項（シラバス）に示されていた学習目標や内容と合致していた。



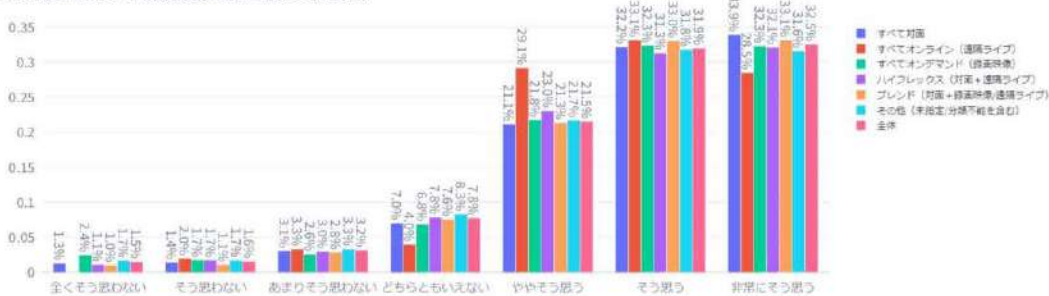
Q2：能動的に参加したくなるような授業であった。



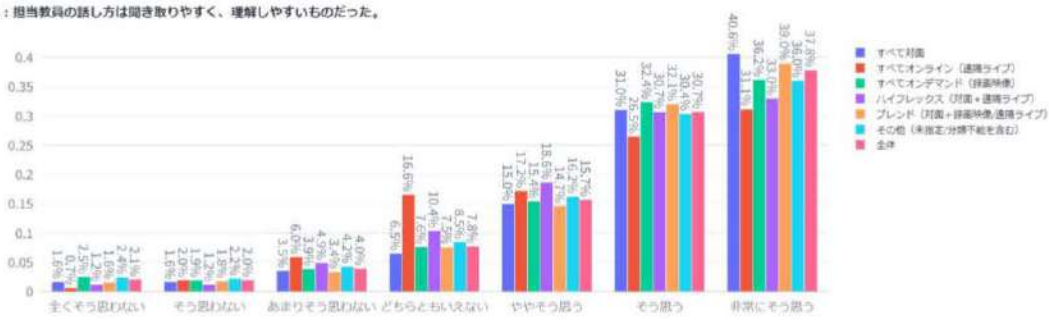
Q3：この授業の内容を理解し、知識・技能等を習得できた。



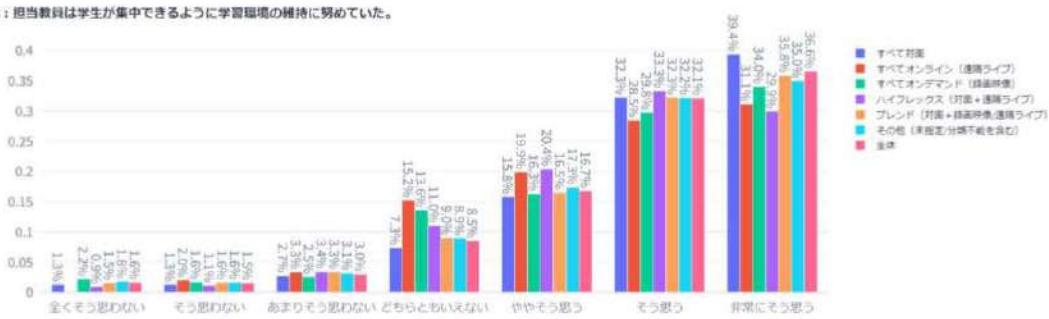
Q4：この授業を通じて、自身の能力の高まりや成長につながった。



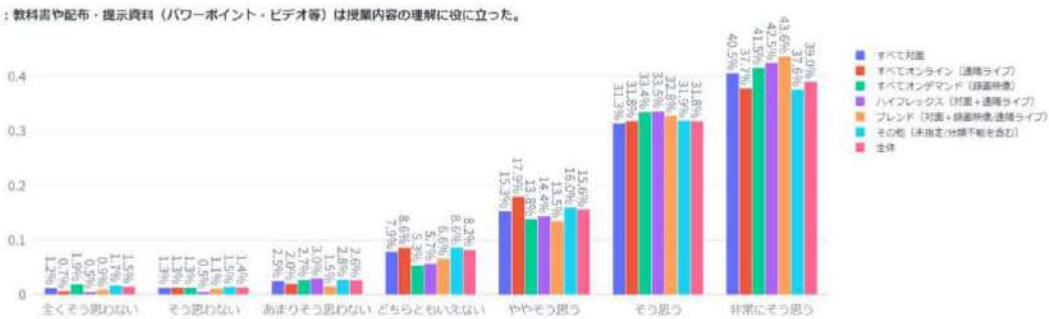
Q5：担当教員の話し方は聞き取りやすく、理解しやすいものだった。



Q6：担当教員は学生が集中できるように学習環境の維持に努めていた。



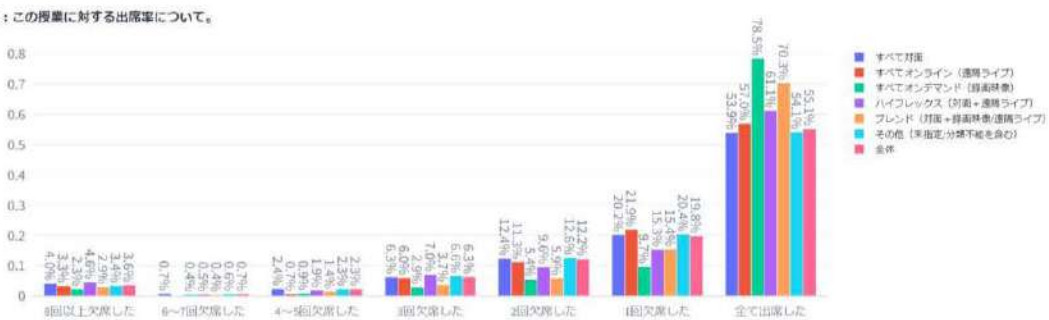
Q7：教科書や配布・提示資料（パワーポイント・ビデオ等）は授業内容の理解に役立った。



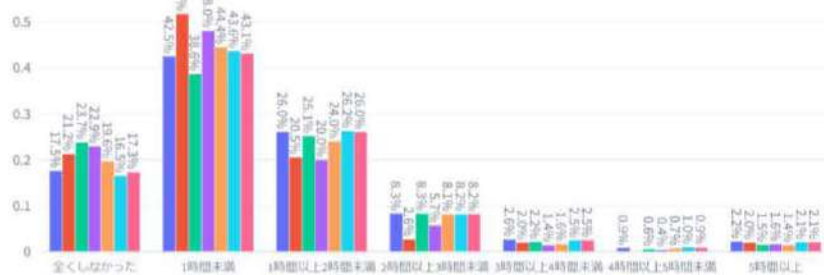
Q8：担当教員によるフィードバック(個別質問への応答、レポートへのコメント、試験の講評など)は適切だった。



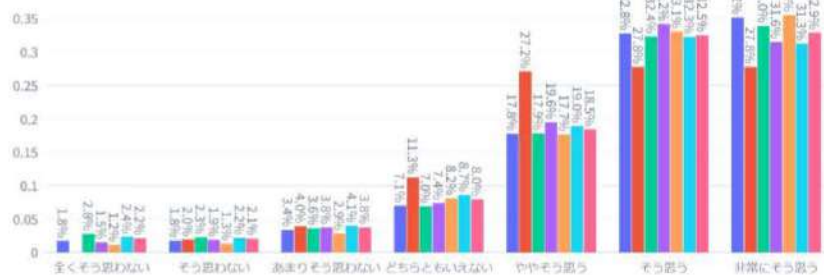
Q9：この授業に対する出席率について。



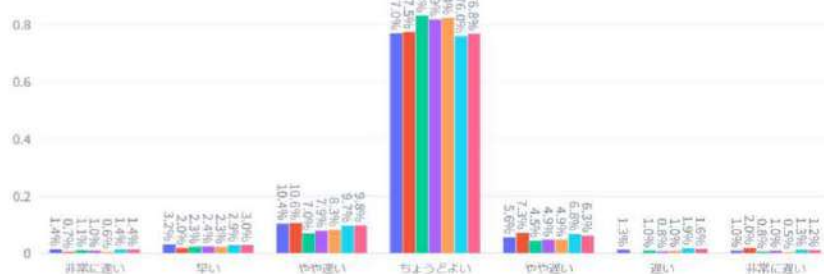
Q10: 1回の授業に対する予習・復習(ゼミ活動や図書館/インターネット等での情報検索時間も含む)の平均時間について。



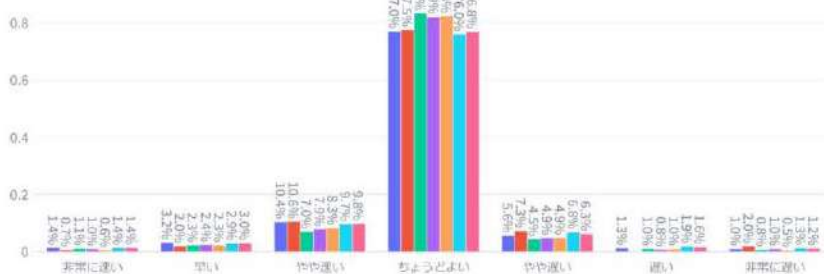
Q11: この授業は総合的に満足できたか。



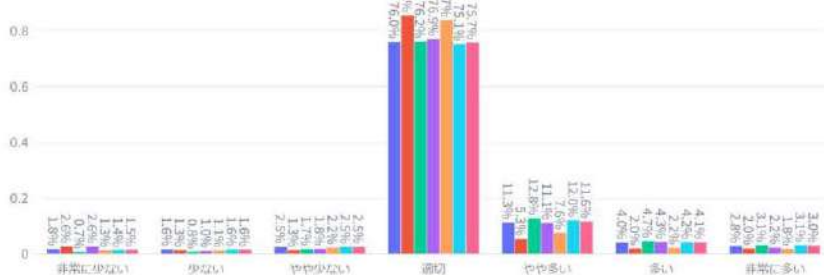
Q12: この授業の進行速度について。



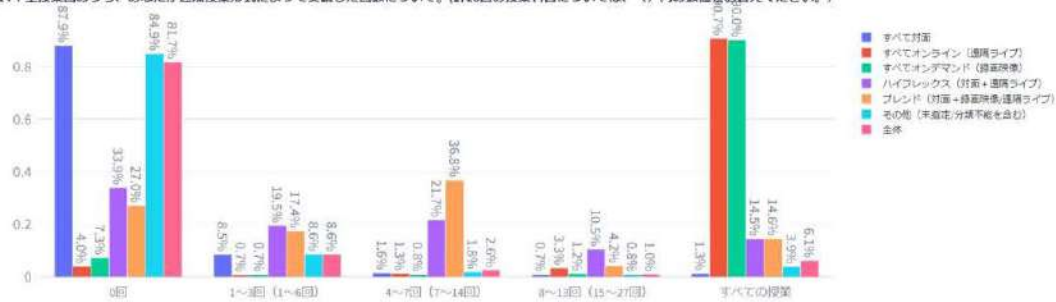
Q12：この授業の進行速度について。



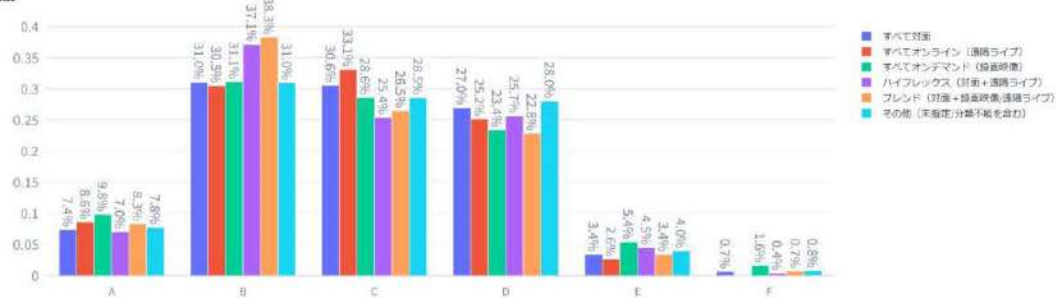
Q13: 課題(宿題、レポートの提出、予習・復習など)の量について。



Q14：全授業回のうち、あなたが遠隔授業形式によって受講した回数について。（計28回の授業科目については、（）内の数値をお答えください。）



成績



入試カテゴリ別分析

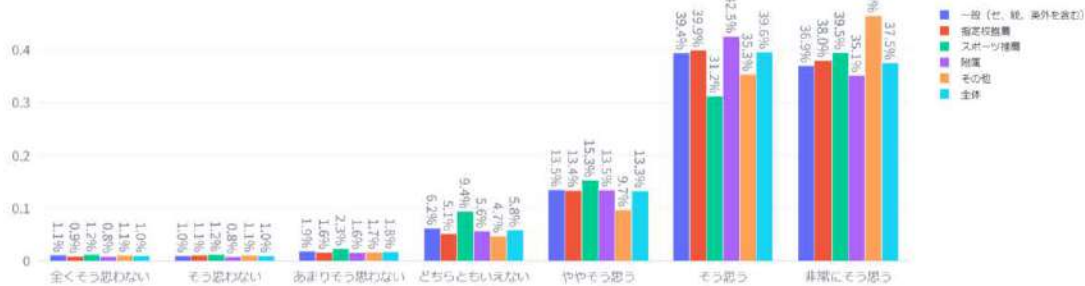
入試カテゴリ別のアンケート結果とGPAの関係を表示します。

入試カテゴリ別のグラフを表示

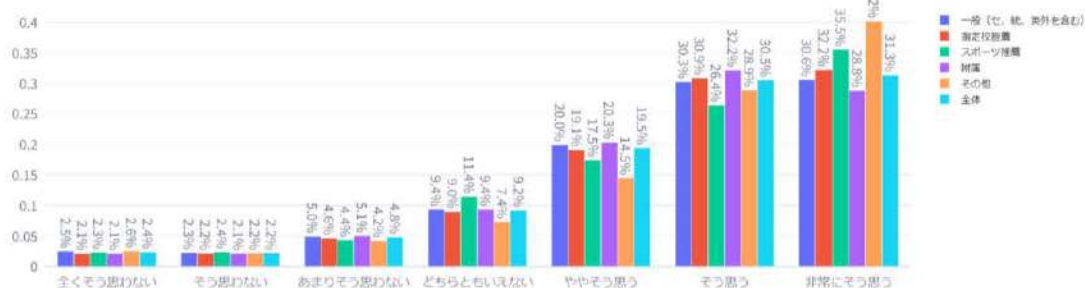
【有効回答数】

- 一般（社、統、英外を含む）：54794
- 指定校推薦：23426
- スポーツ推薦：1835
- 附属：13561
- その他：5485
- 全体（データなしを含む）：99250

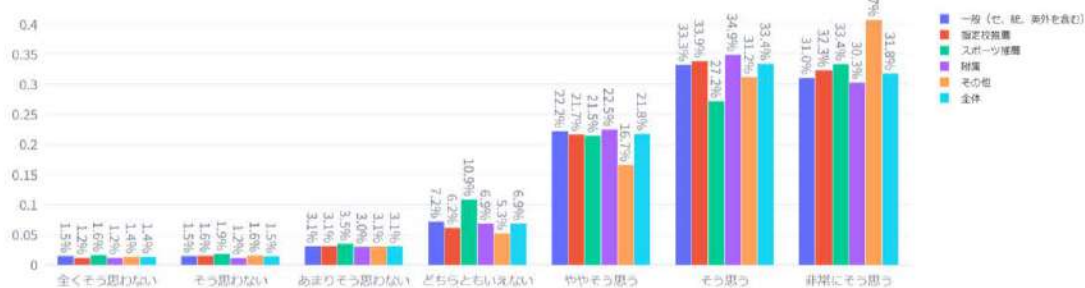
Q1：講義費項（シラバス）に示されていた学習目標や内容と合致していた。



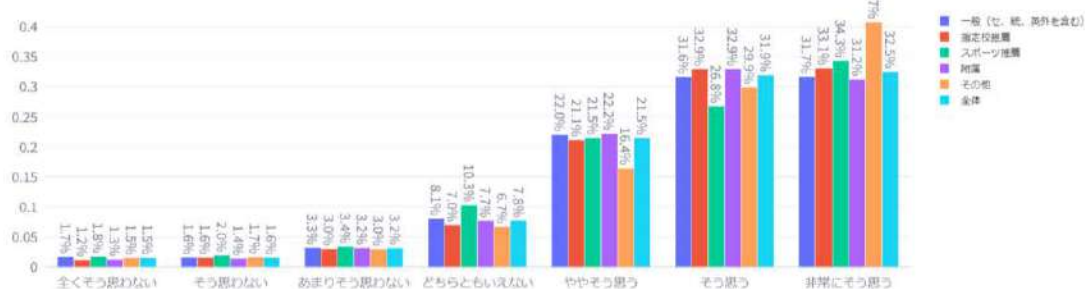
Q2：能動的に参加したくなるような授業であった。



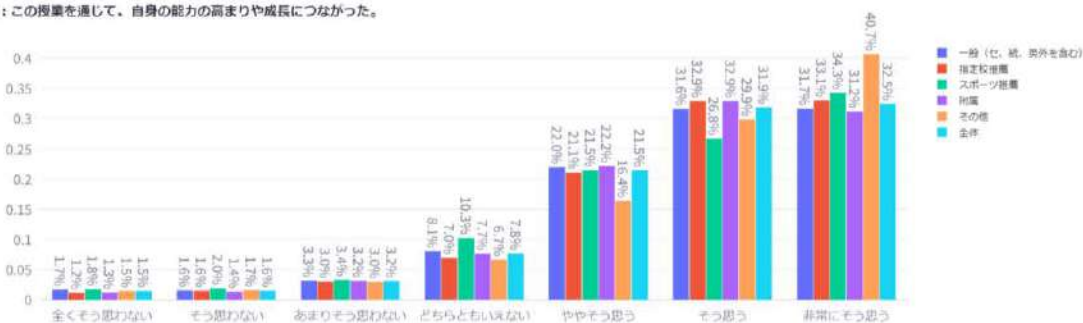
Q3：この授業の内容を理解し、知識・技能等を習得できた。



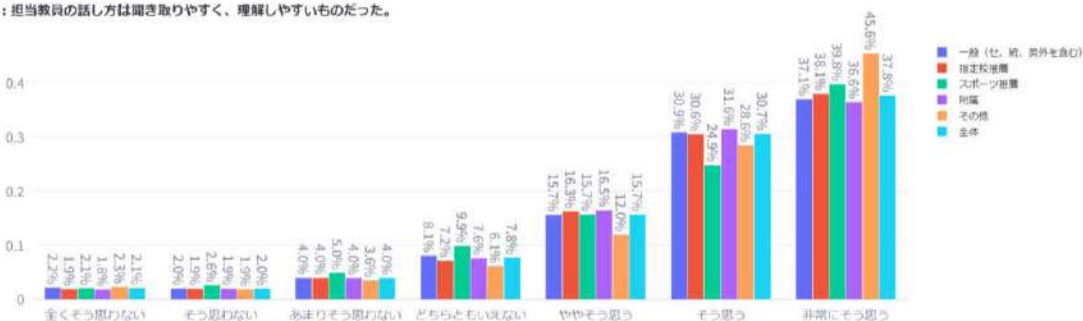
Q4：この授業を通じて、自身の能力の高まりや成長につながった。



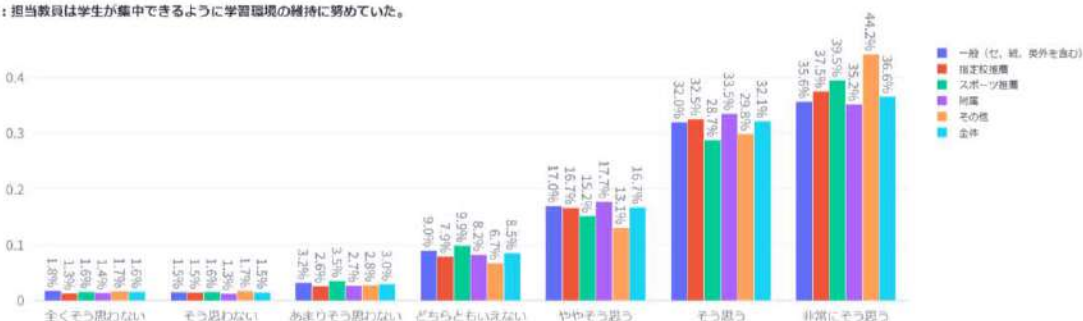
Q4：この授業を通じて、自身の能力の高まりや成長につながった。



Q5：担当教員の話し方は聞き取りやすく、理解しやすいものだった。



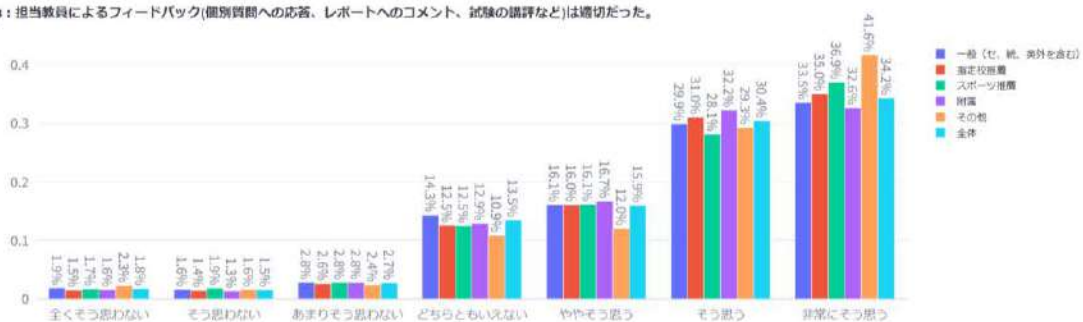
Q6：担当教員は学生が集中できるように学習環境の維持に努めていた。



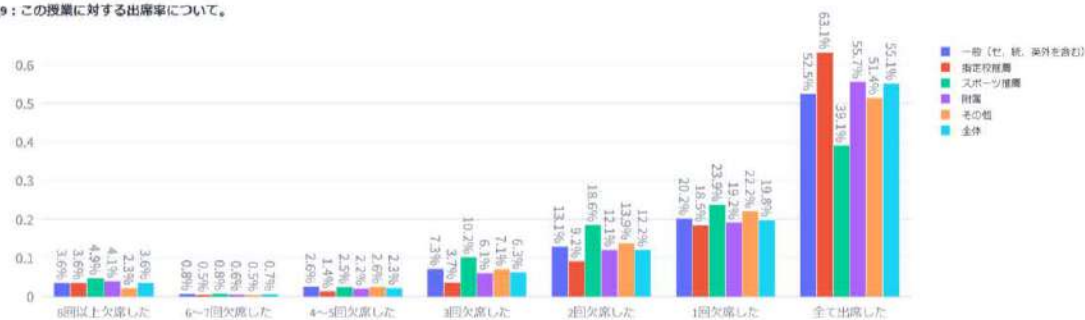
Q7：教科書や配布・提示資料（パワーポイント・ビデオ等）は授業内容の理解に役に立った。



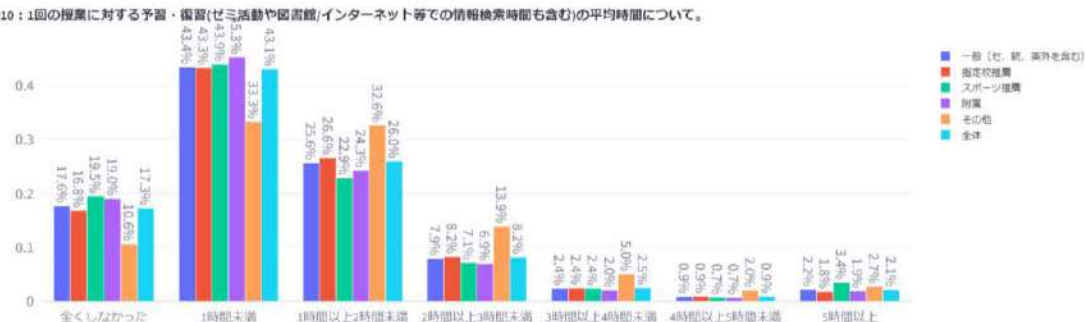
Q8：担当教員によるフィードバック(個別質問への応答、レポートへのコメント、試験の講評など)は適切だった。



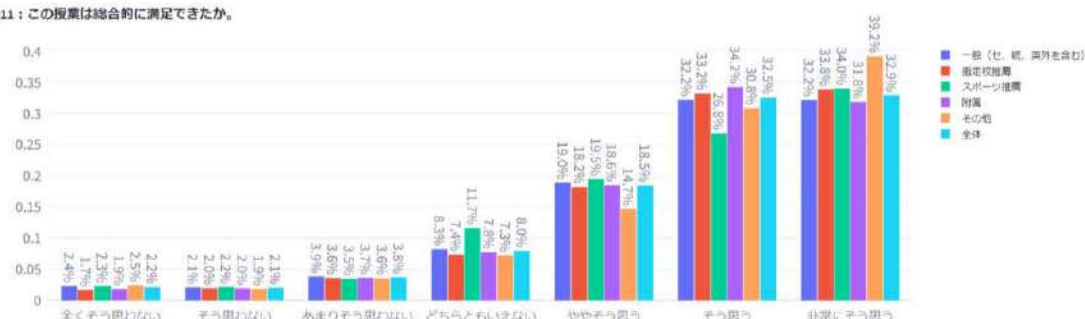
Q9：この授業に対する出席率について。



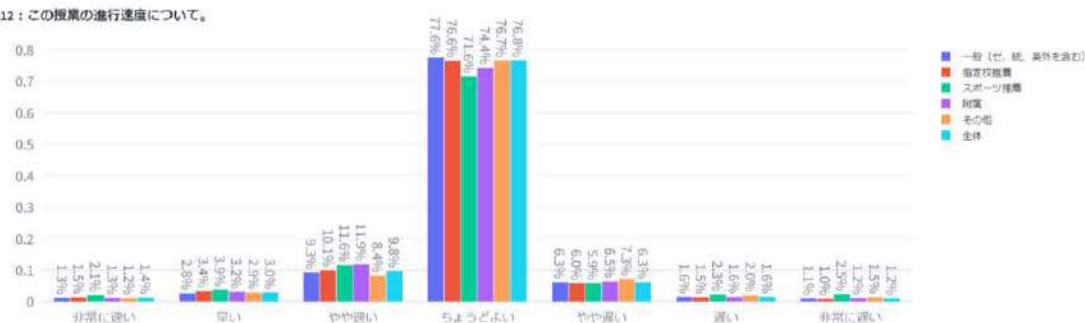
Q10：1回の授業に対する予習・復習(ゼミ活動や図書館/インターネット等での情報検索時間も含む)の平均時間について。



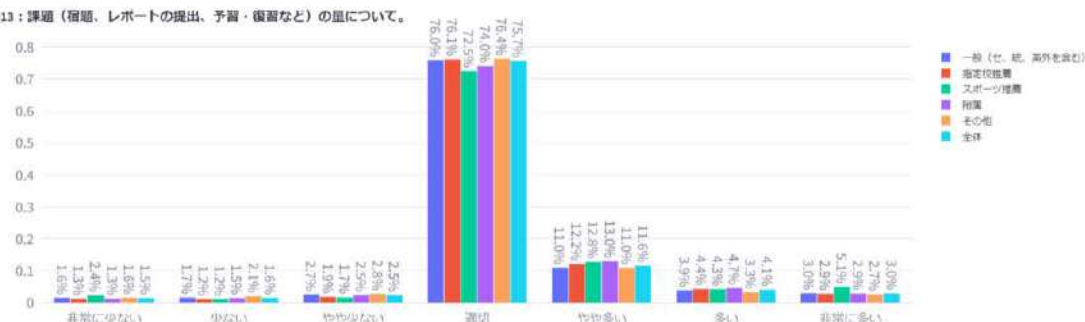
Q11：この授業は総合的に満足できたか。



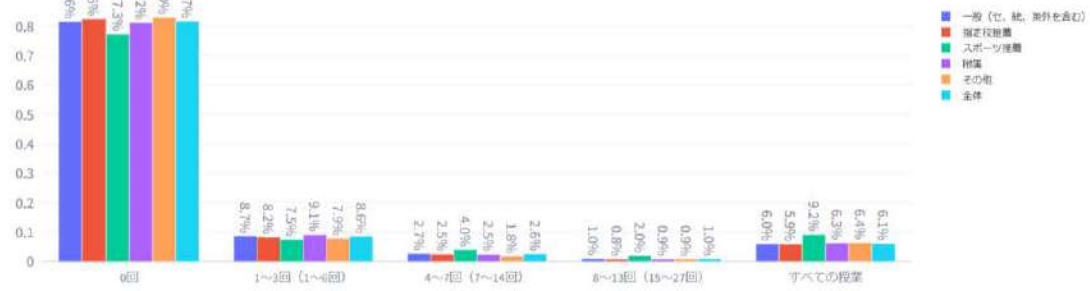
Q12：この授業の進行速度について。



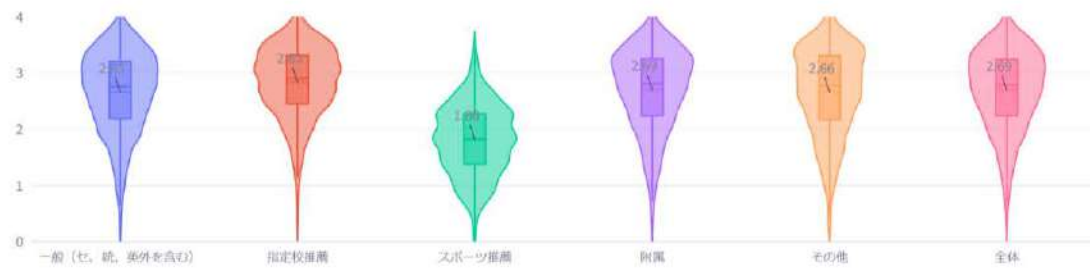
Q13：課題(宿題、レポートの提出、予習・復習など)の量について。



Q14：全授業回のうち、あなたが遠隔授業形式によって受講した回数について。(計28回の授業科目については、()内の数値をお答えください。)



当年度GPAの分布



授業タイプ別分析

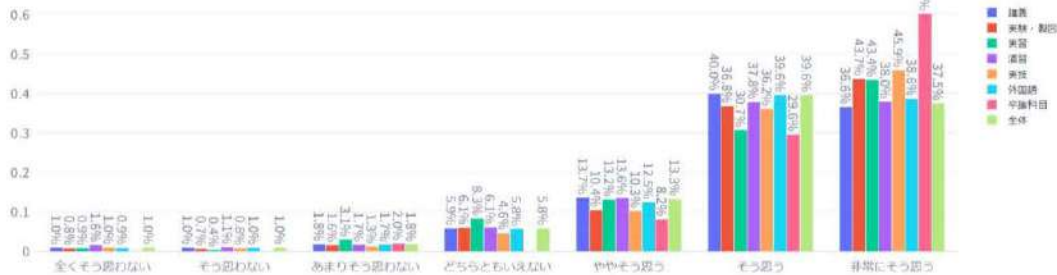
授業タイプ別のアンケート結果と成績の関係を表示します。

授業タイプ別のグラフを表示

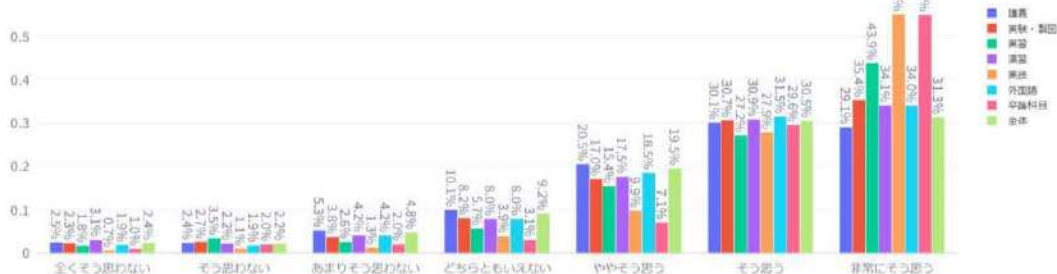
【有効回答数】

- 講義：62471
- 実験・製図：1382
- 実習：228
- 演習：6539
- 実技：1751
- 外国語：26781
- 卒業科目：98
- 全体（データなしを含む）：99250

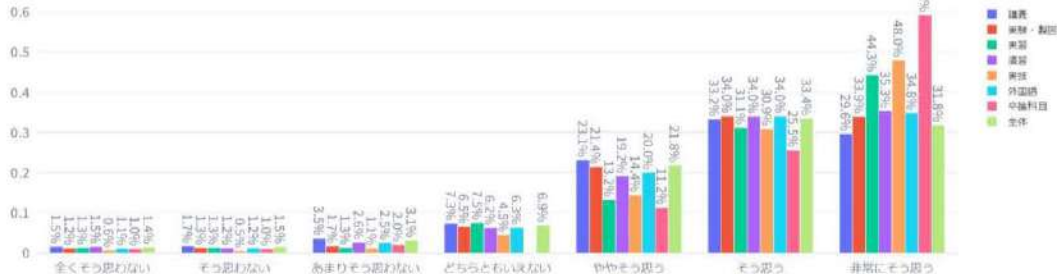
Q1：講義事項（シラバス）に示されていた学習目標や内容と合致していた。



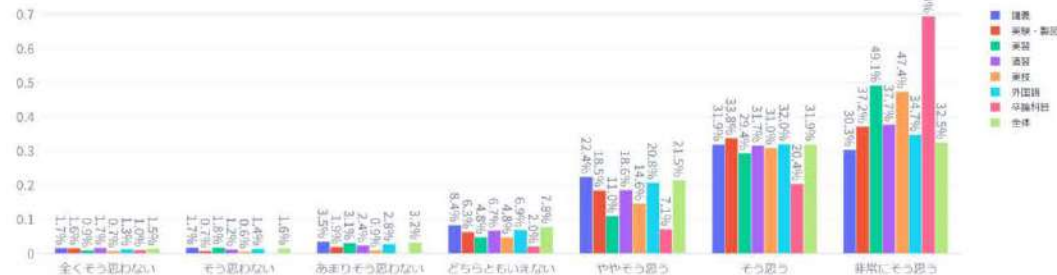
Q2：能動的に参加したくなるような授業であった。



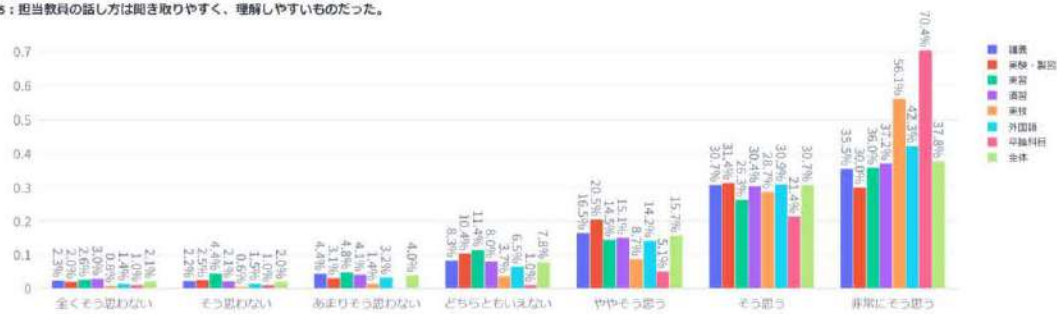
Q3：この授業の内容を理解し、知識・技能等を習得できた。



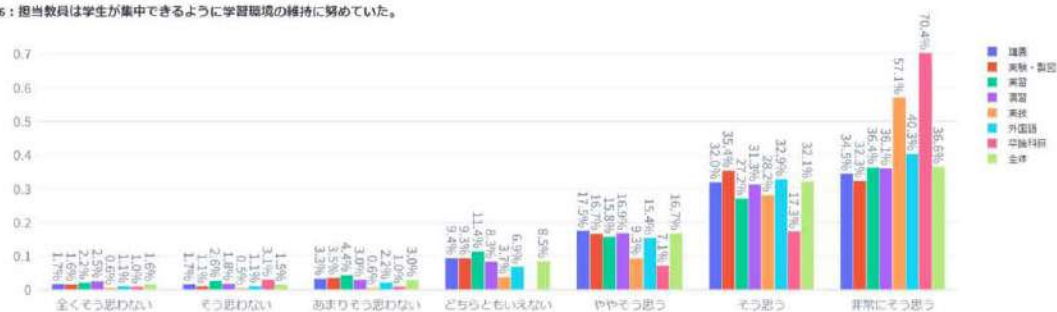
Q4：この授業を通して、自身の能力の向上や成長につながった。



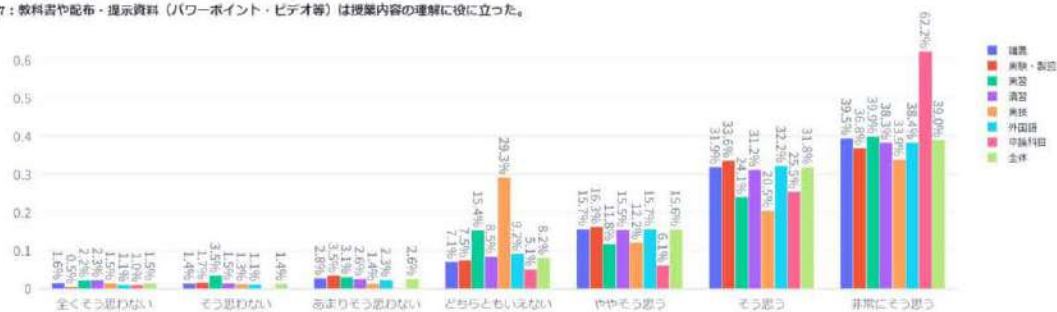
Q5：担当教員の話し方は聞き取りやすく、理解しやすいものだった。



Q6：担当教員は学生が集中できるように学習環境の維持に努めていた。



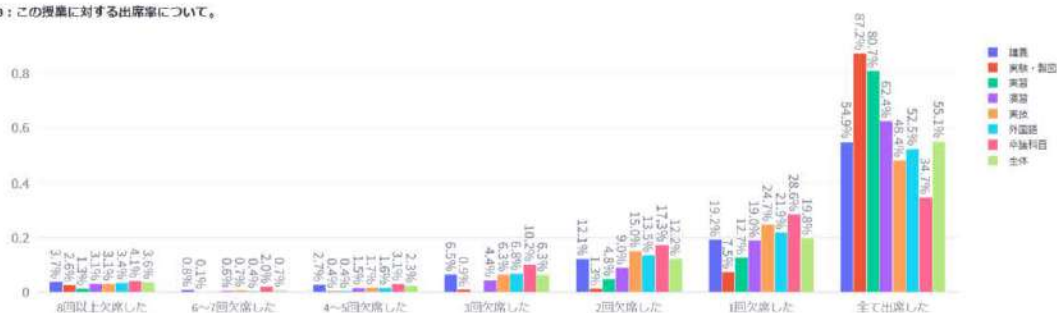
Q7: 教科書や配布・提示資料（パワーポイント・ビデオ等）は授業内容の理解に役に立った。



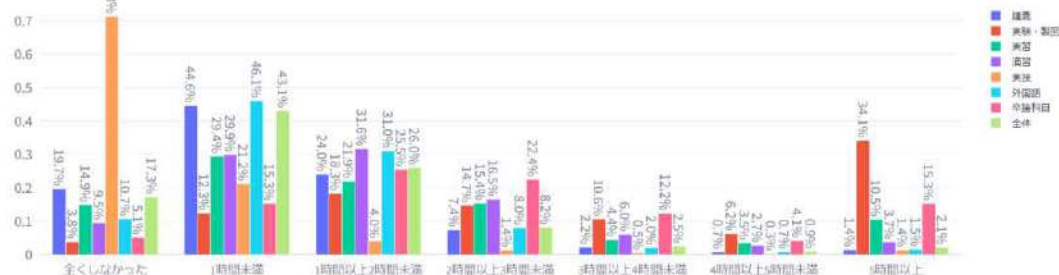
Q8：担当教員によるフィードバック(個別質問への応答、レポートへのコメント、試験の講評など)は適切だった。



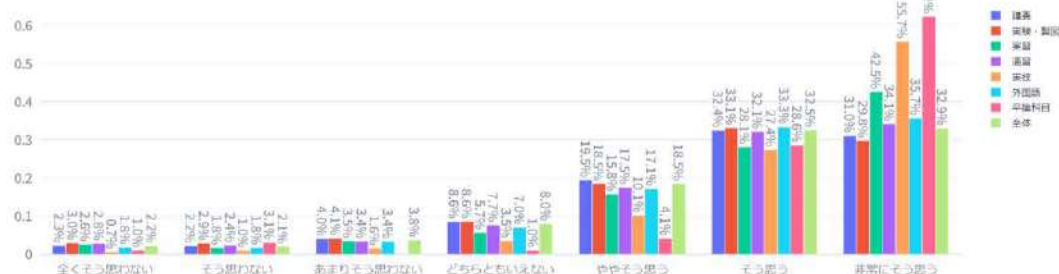
Q9: この授業に対する出席率について。



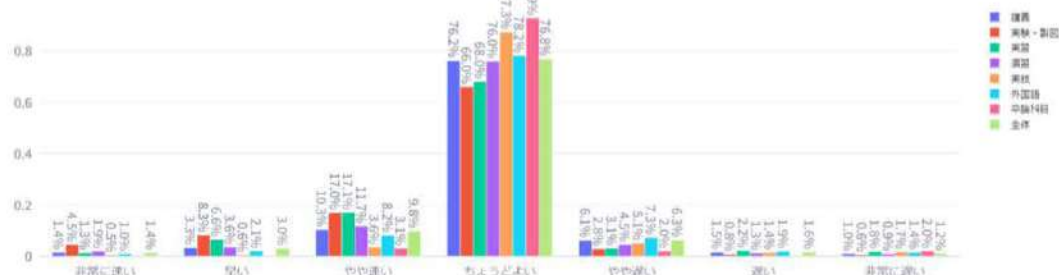
Q10: 1回の授業に対する予習・復習(ゼミ活動や図書館/インターネット等での情報検索時間も含む)の平均時間について。



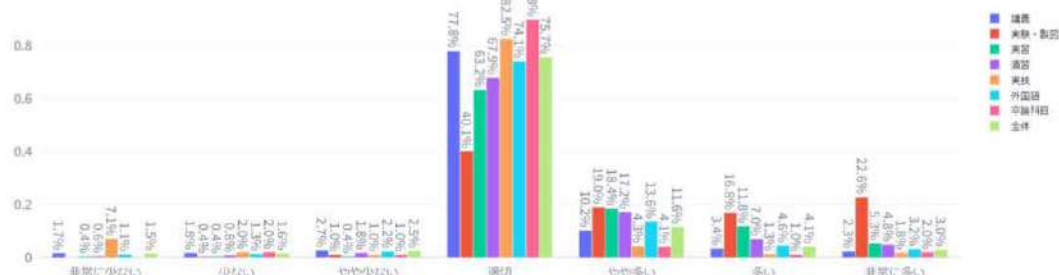
Q11: この授業は総合的に満足できたか。



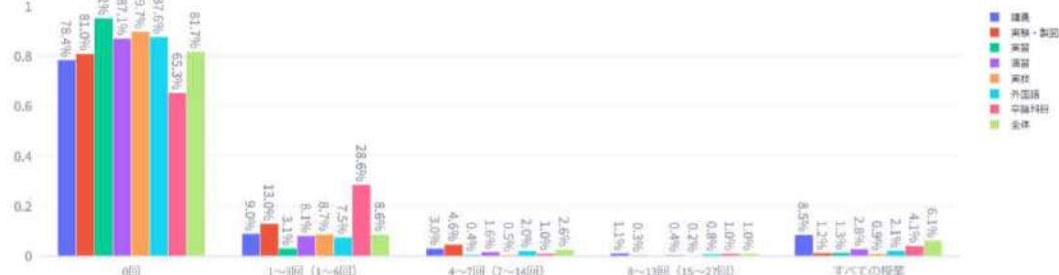
Q12: この授業の進行速度について。



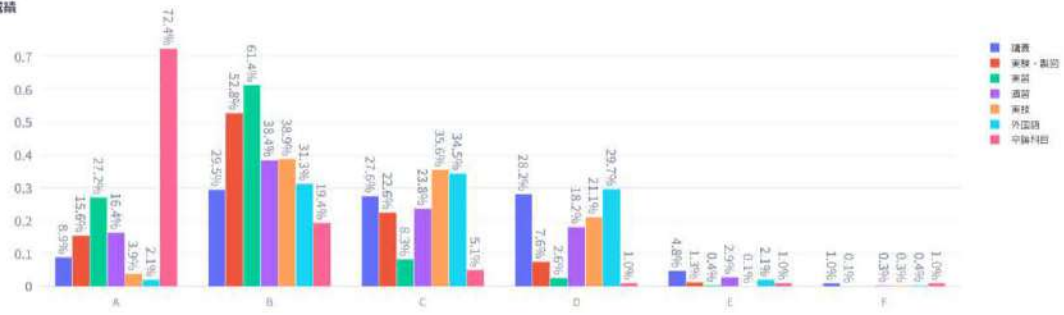
013: 課題(宿題、レポートの提出、予習・復習など)の量について。



Q14：全授業回のうち、あなたが遠隔授業形式によって受講した回数について、(計28回の授業科目については、()内の数値をお答えください。)

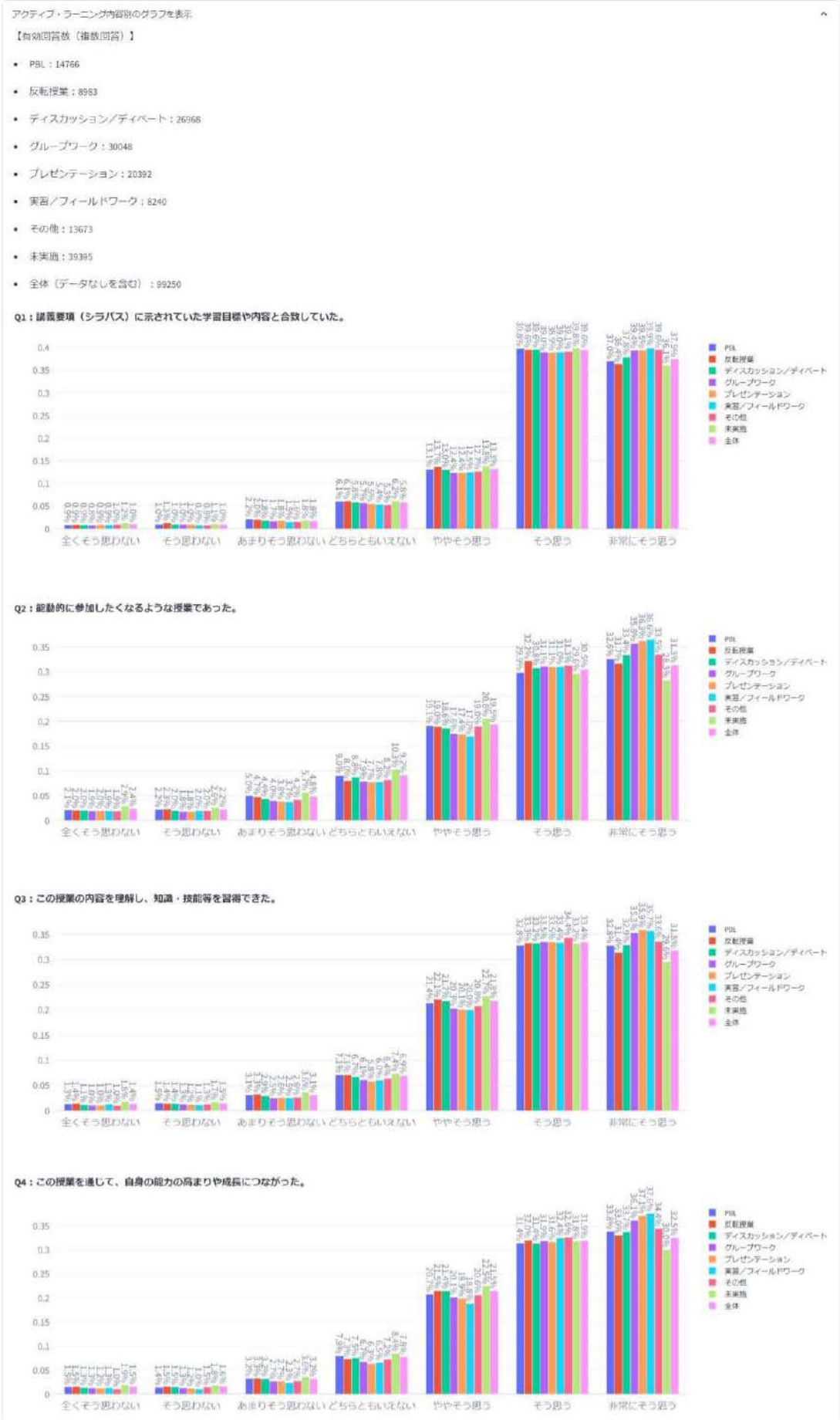


成績

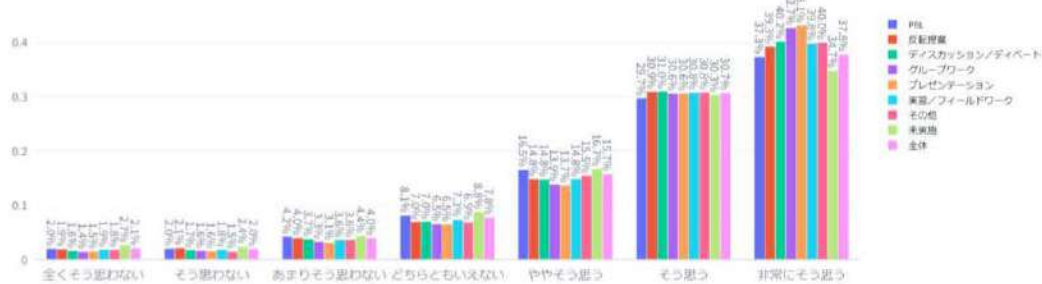


アクティブ・ラーニング内容別

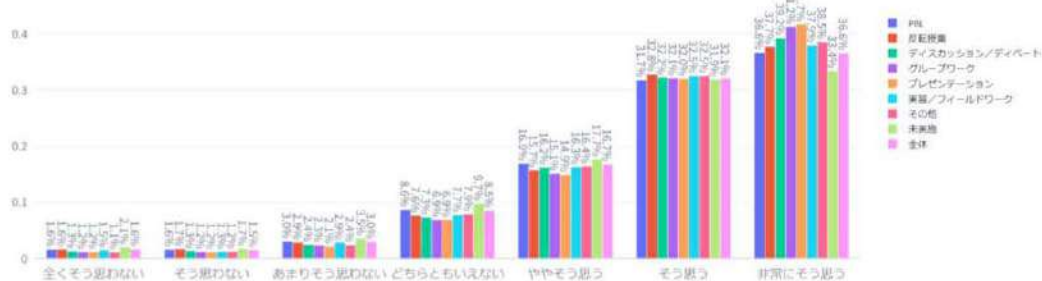
授業に取り入れられたアクティブ・ラーニングの内容ごとのアンケート結果と成績の関係を表示します。



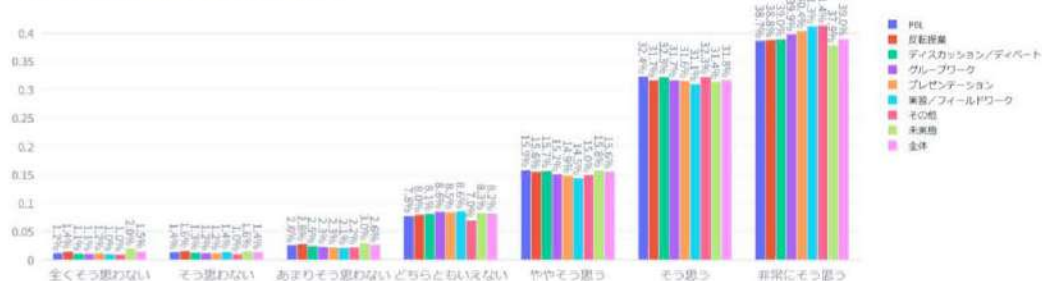
Q5：担当教員の話し方は聞き取りやすく、理解しやすいものだった。



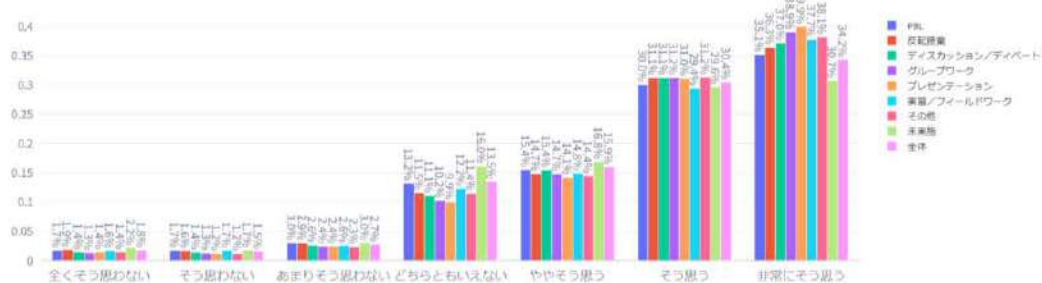
Q6: 担当教員は学生が集中できるように学習環境の維持に努めていた。



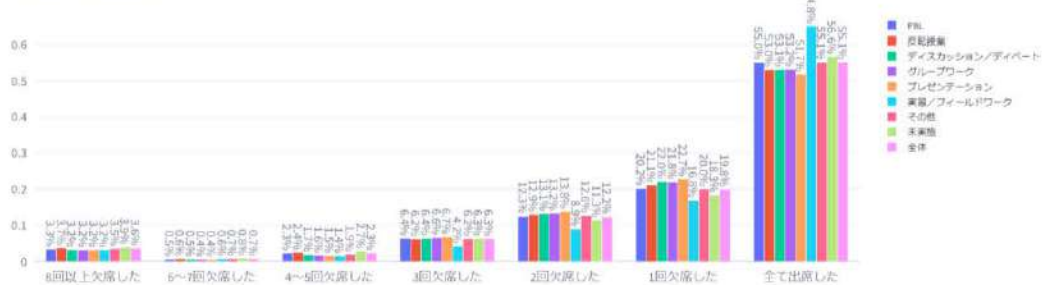
Q7: 教科書や配布・提示資料は授業内容の理解に役に立った。



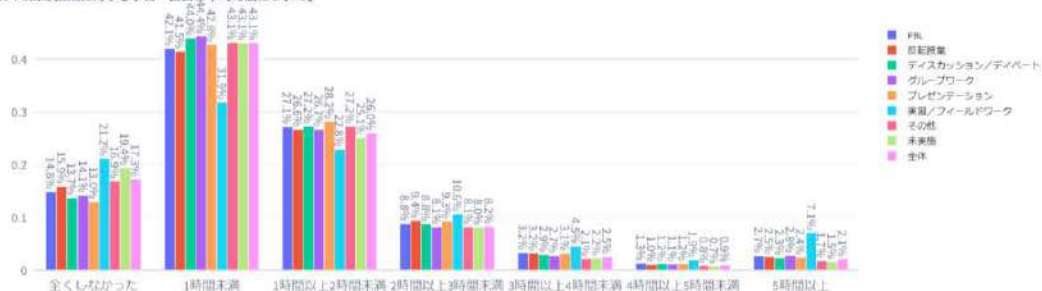
Q8：担当教員によるフィードバックは適切だった。



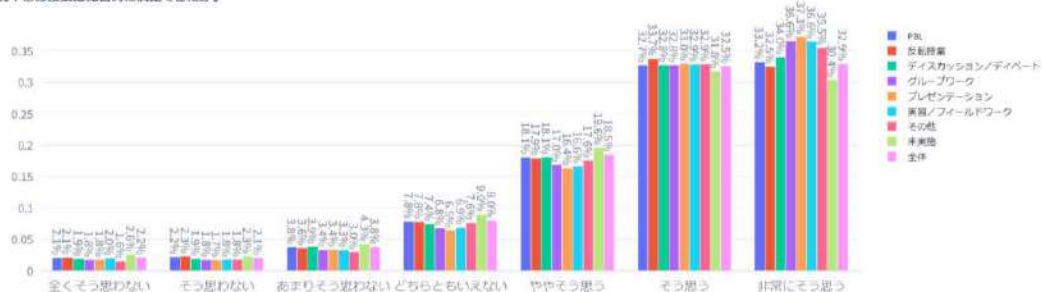
Q9：この授業に対する出席率について。



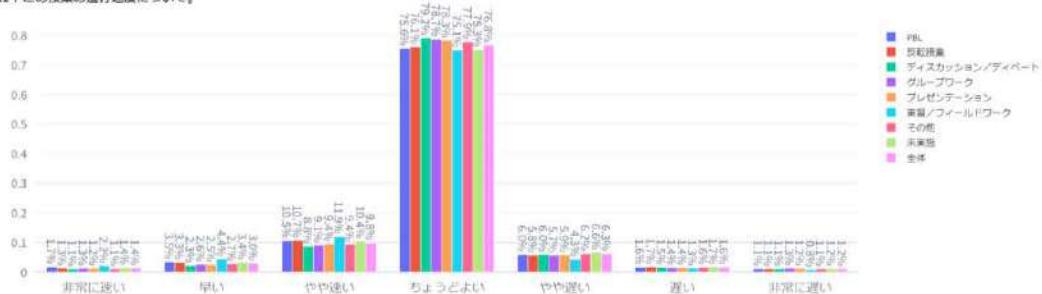
Q10: 1回の授業に対する予習・復習の平均時間について。



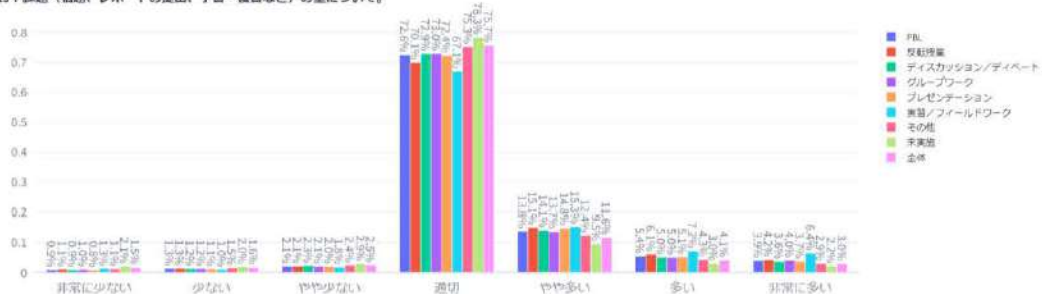
Q11: この授業は総合的に満足できたか。



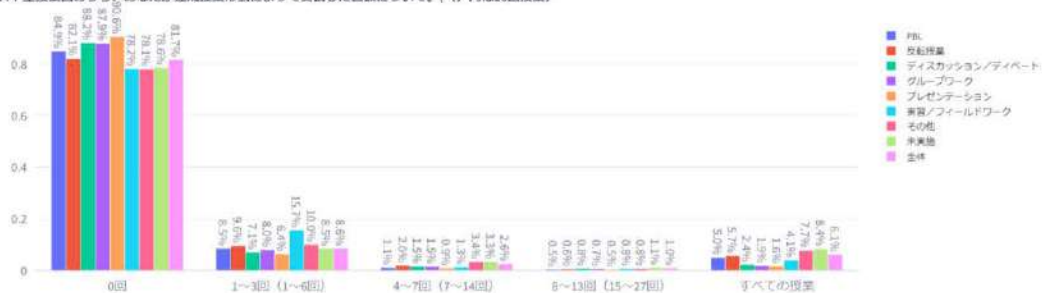
Q12: この授業の進行速度について。

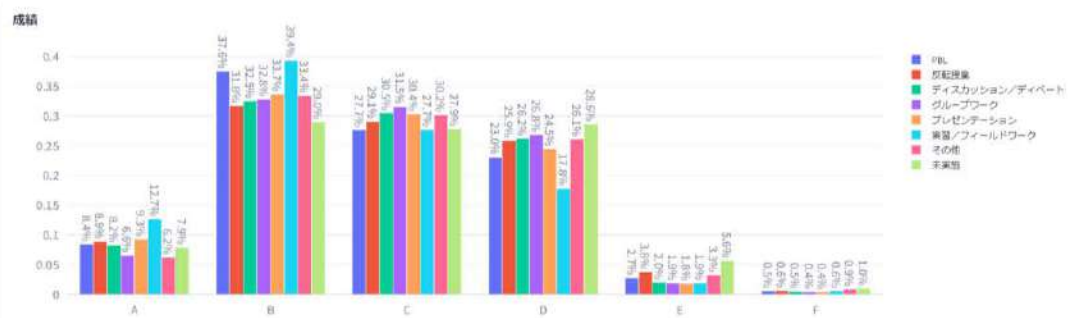


Q13: 課題(宿題、レポートの提出、予習・復習など)の量について。



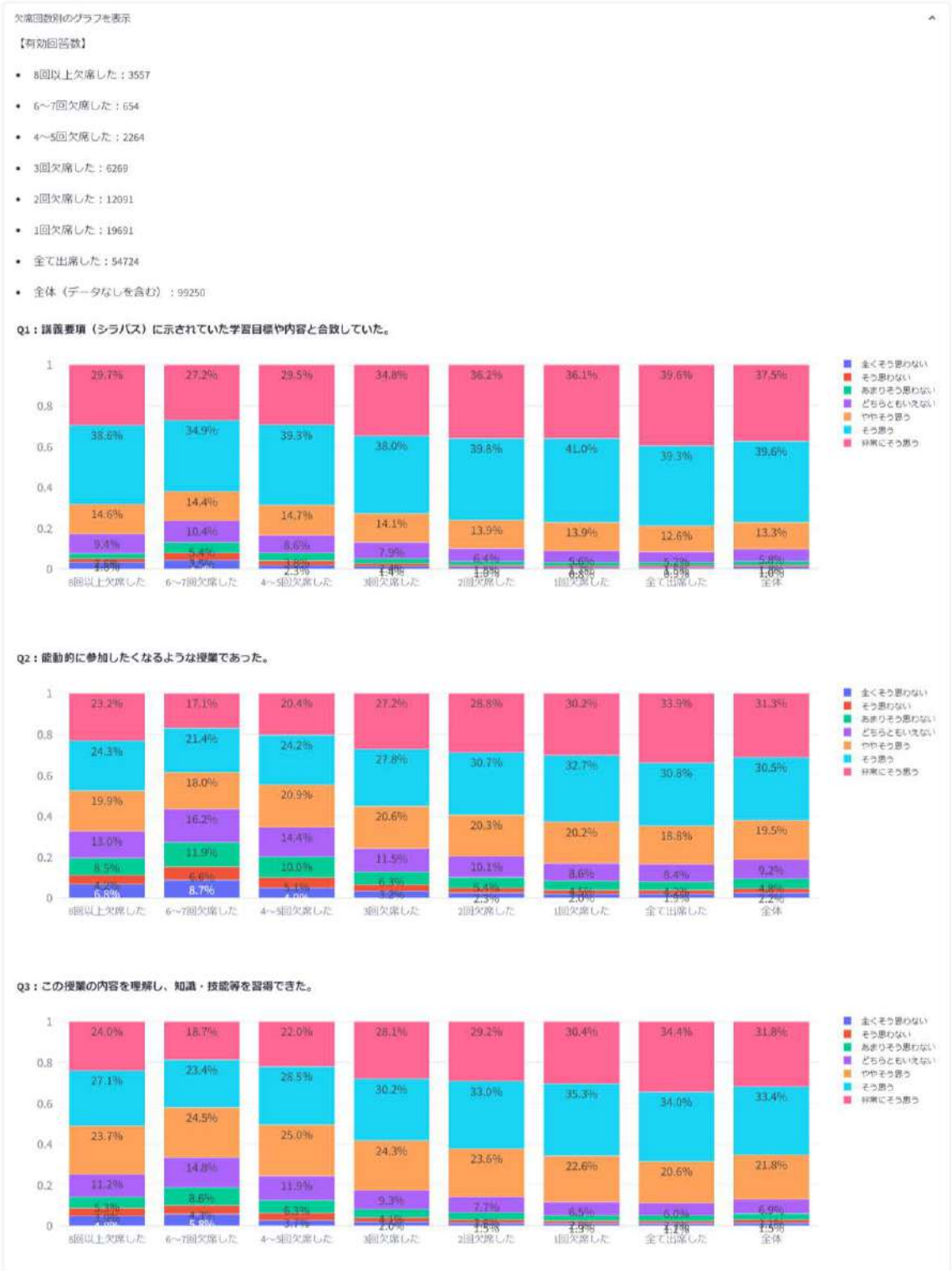
Q14: 全授業回のうち、あなたが遠隔授業形式によって受講した回数について。()内は28回授業



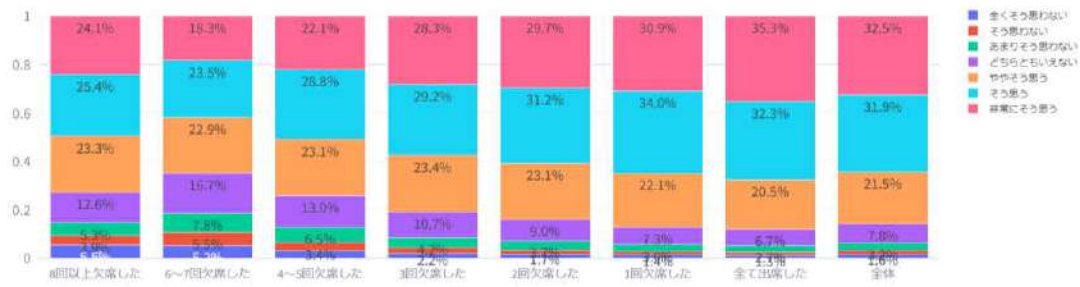


学習行動別分析

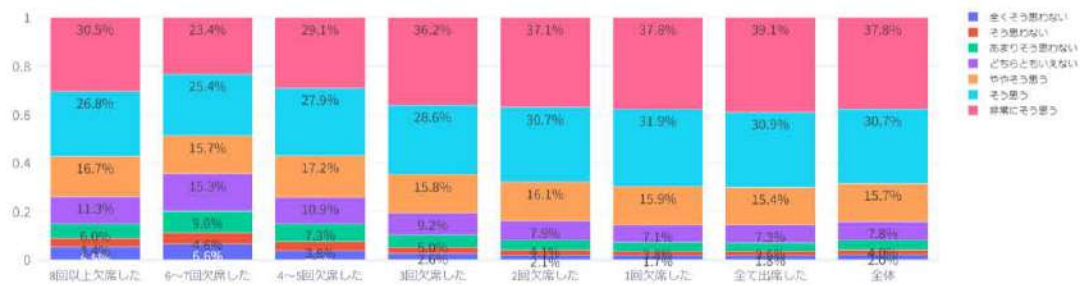
学習行動別のアンケート結果と成績の関係を表示します。



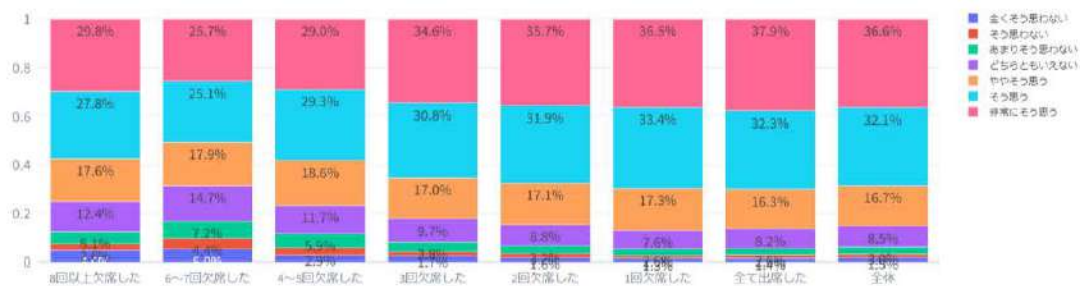
Q4: この授業を通じて、自身の能力の高まりや成長につながった。



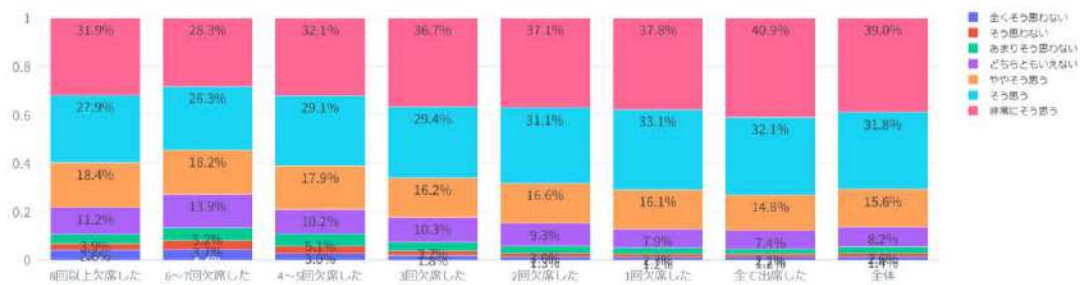
Q5：担当教員の話し方は聞き取りやすく、理解しやすいものだった。



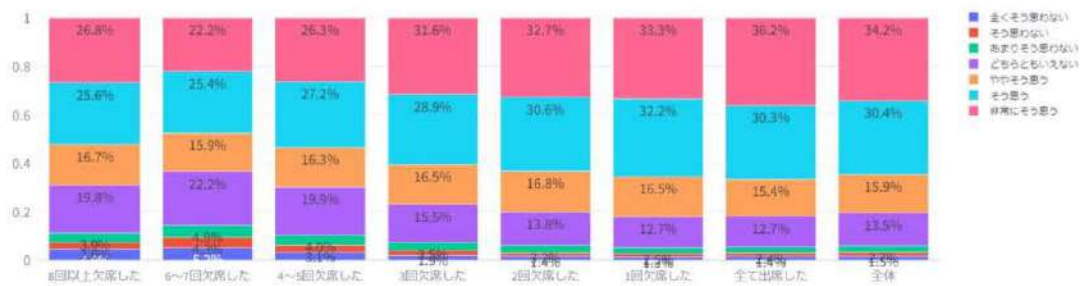
Q6：担当教員は学生が集中できるように学習環境の維持に努めていた。



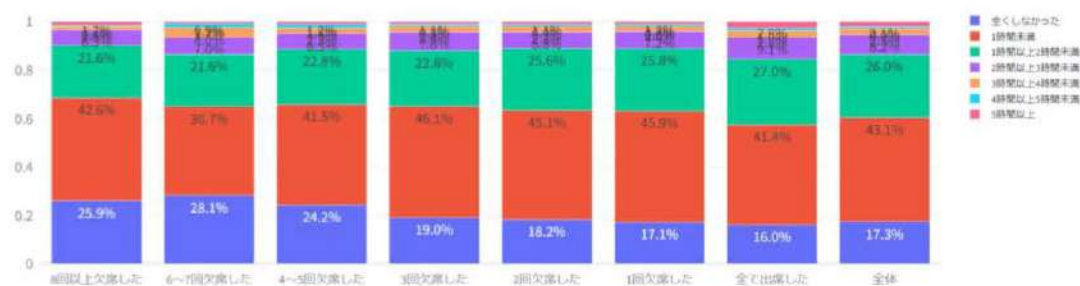
Q7:教科書や配布・提示資料(パワーポイント・ビデオ等)は授業内容の理解に役に立った。



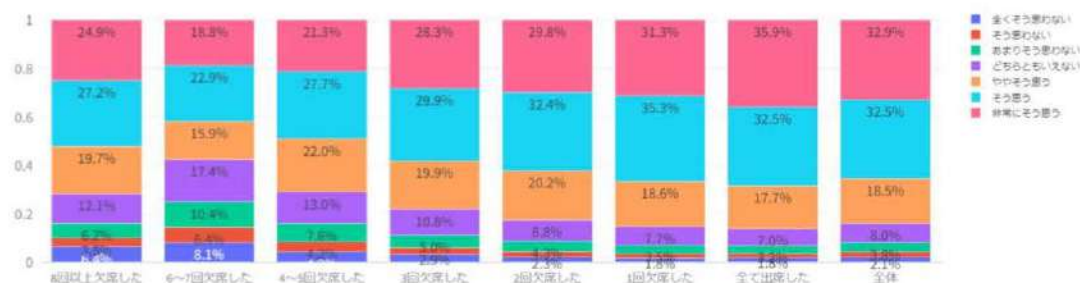
Q8：担当教員によるフィードバック(個別質問への応答、レポートへのコメント、試験の講評など)は適切だった。



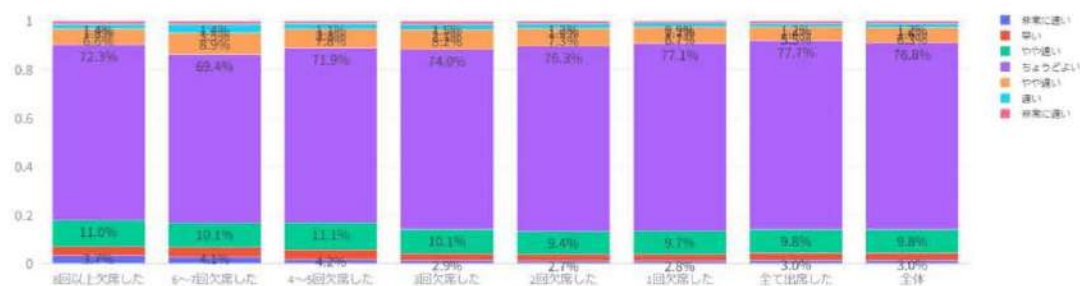
Q10：1回の授業に対する予習・復習(ゼミ活動や図書館/インターネット等での情報検索時間も含む)の平均時間について。



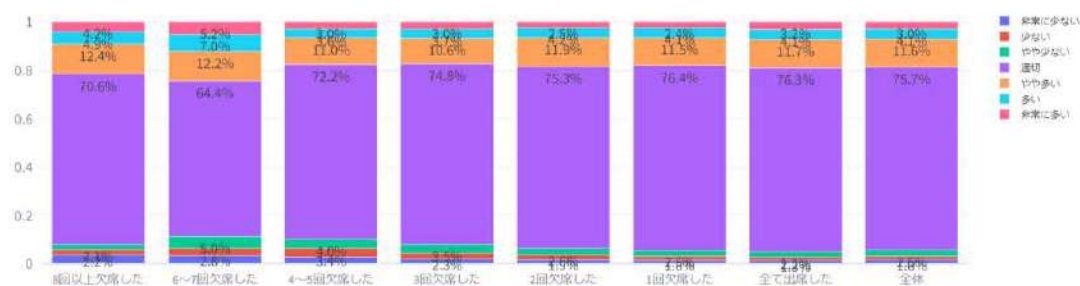
Q11：この授業は総合的に満足できたか。



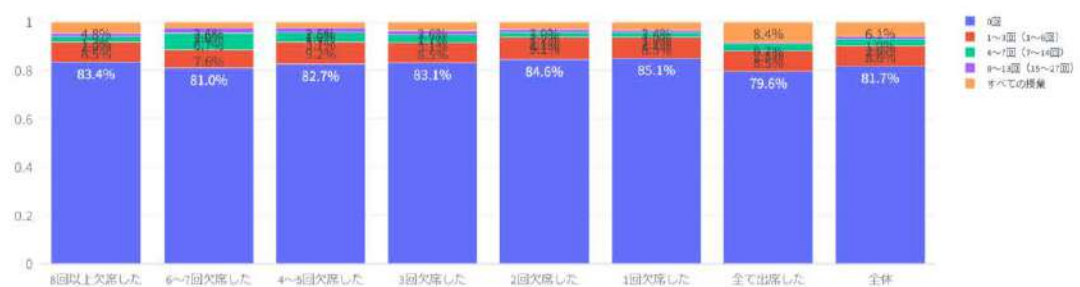
Q12：この授業の進行速度について。



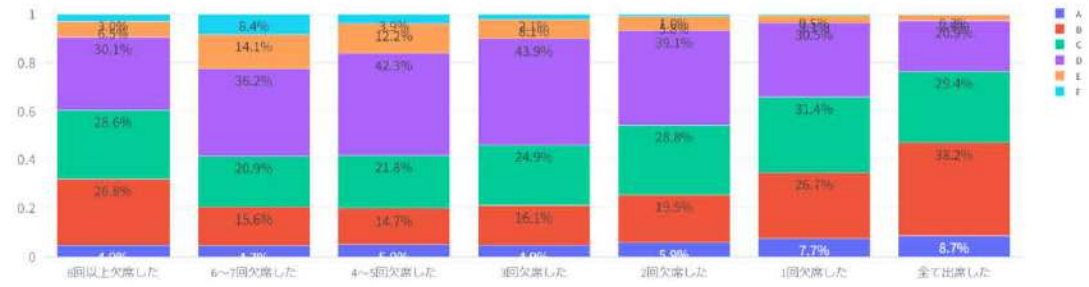
Q13：課題(宿題、レポートの提出、予習・復習など)の量について。



Q14：全授業回のうち、あなたが隔隔授業形式によって受講した回数について。(計28回の授業科目については、()内の数値をお答えください。)



成績

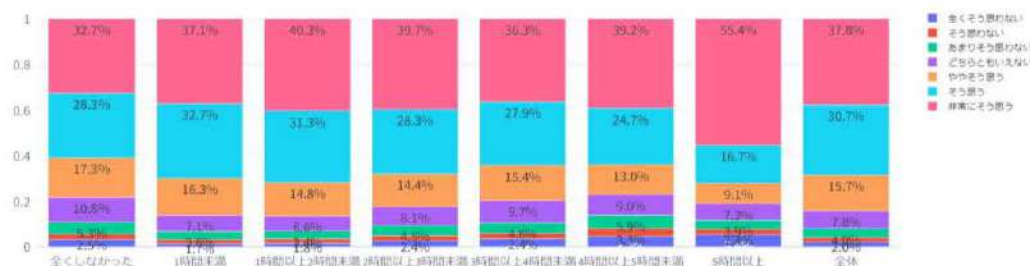


学習行動別分析

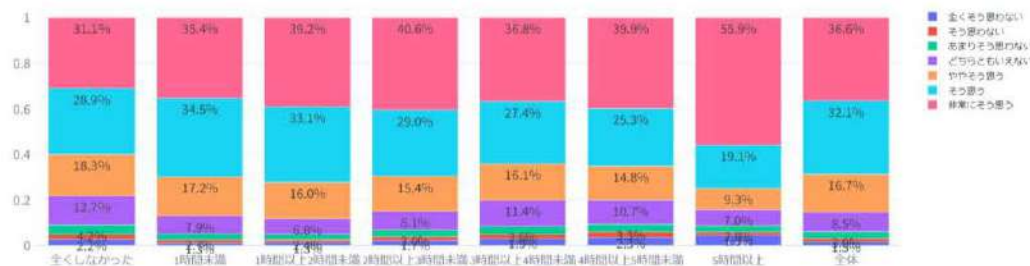
学習行動別のアンケート結果と成績の関係を表示します。



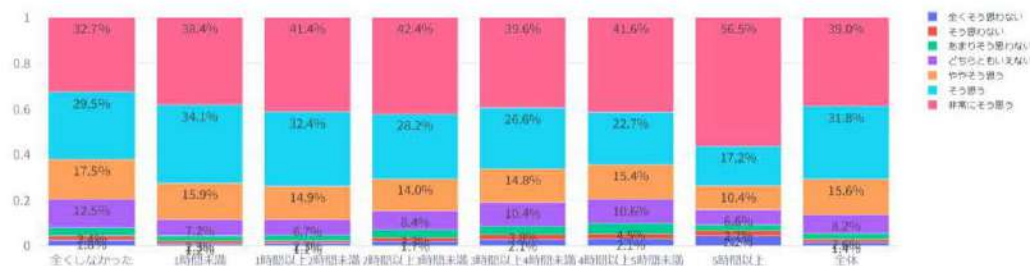
Q5: 担当教員の話し方は聞き取りやすく、理解しやすいものだった。



Q6：担当教員は学生が集中できるように学習環境の維持に努めていた。



07: 教科書や配布・提示資料（パワーポイント・ビデオ等）は授業内容の理解に役に立った。



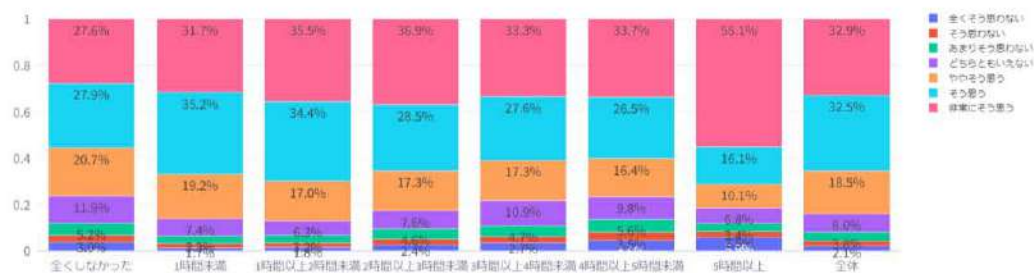
Q6：担当教員によるフィードバック(個別質問への応答、レポートへのコメント、試験の講評など)は適切だった。



Q9: この授業に対する出席率について。



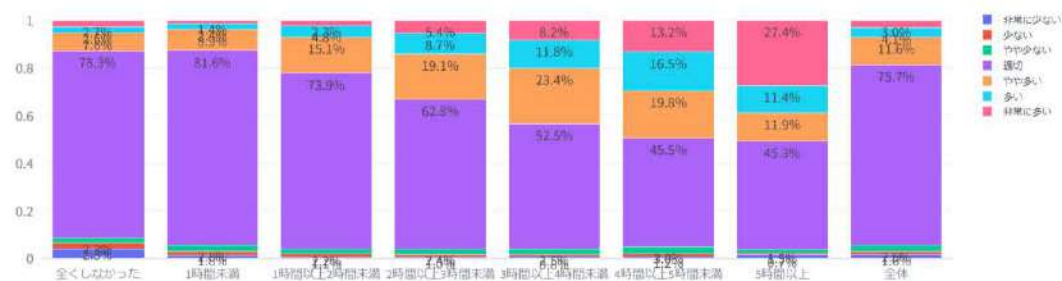
Q11: この授業は総合的に満足できたか。



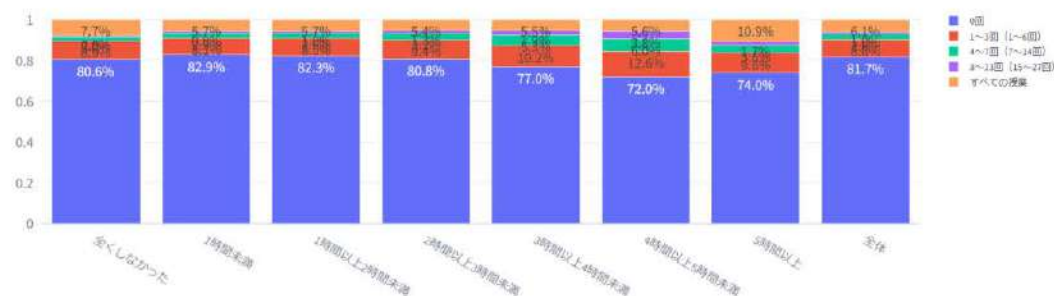
Q12: この授業の進行速度について。



Q13: 課題(宿題、レポートの提出、予習・復習など)の量について。



Q14: 全授業回のうち、あなたが遠隔授業形式によって受講した回数について、(計28回の授業科目については、〔〕内の数値をお答えください。)

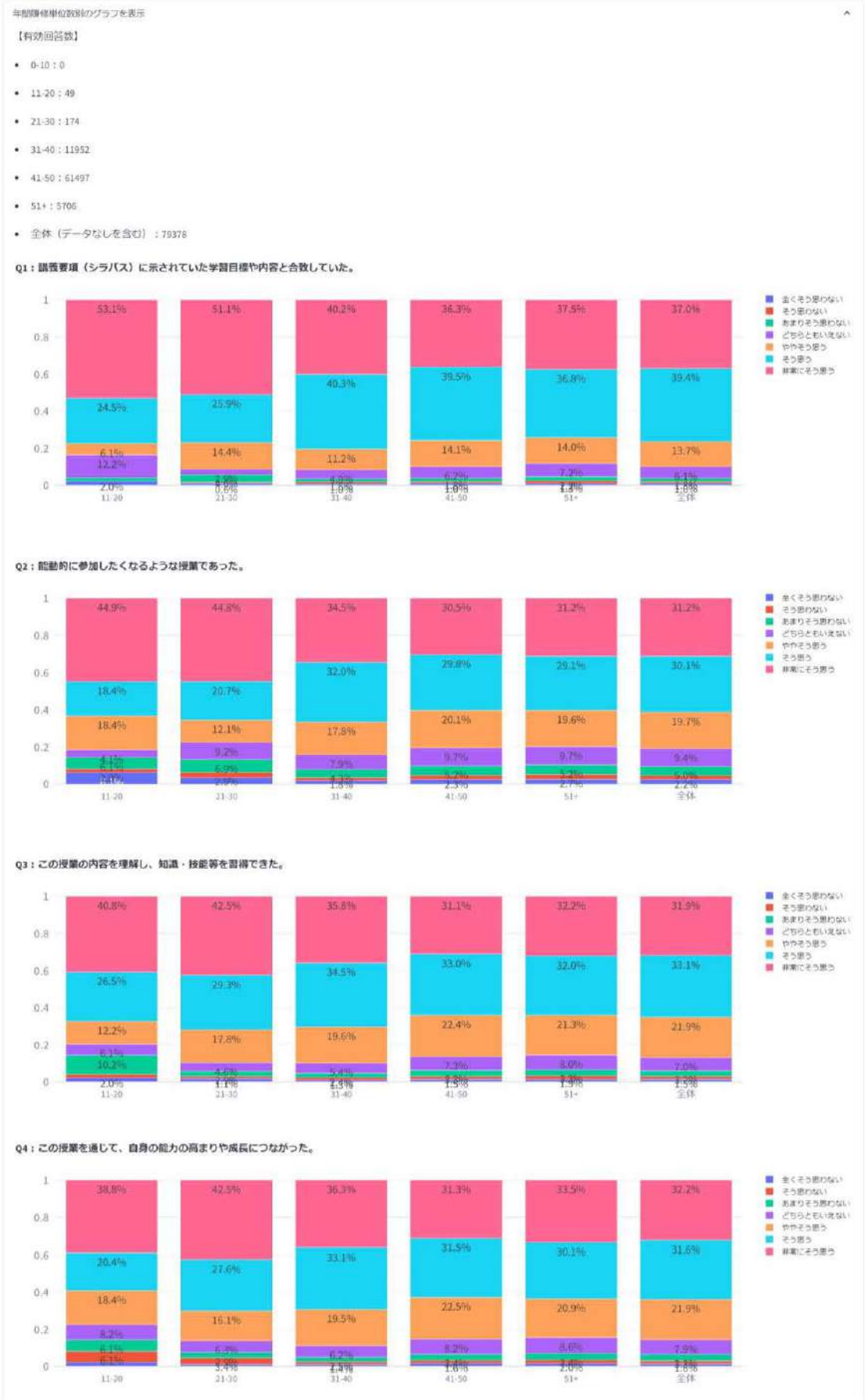


成績

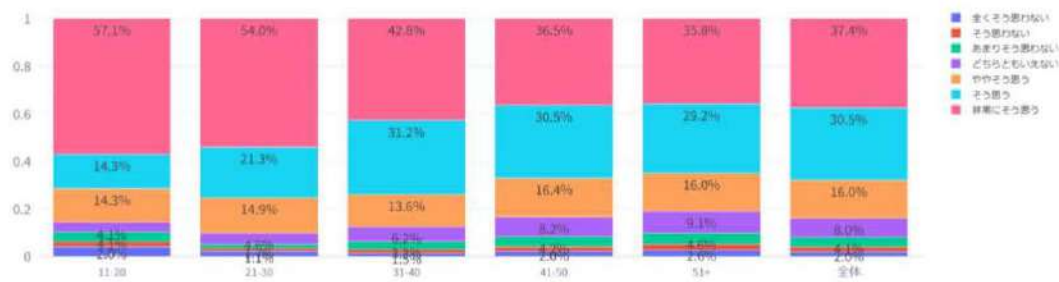


年間履修単位数別分析

【1,2年生のみ対象】年間履修単位数別のアンケート結果とGPAの関係を表示します。



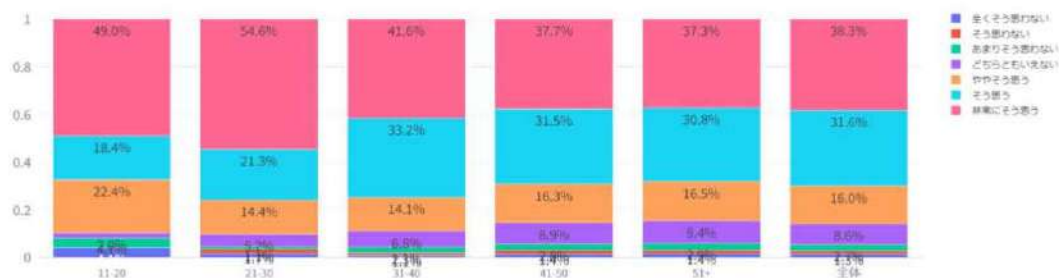
Q5：担当教員の話し方は聞き取りやすく、理解しやすいものだった。



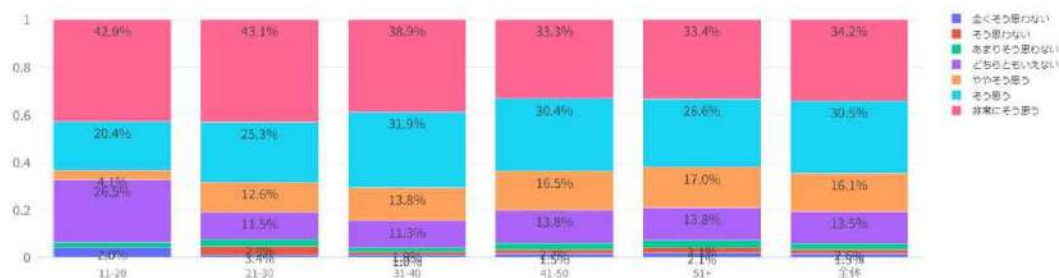
Q6：担当教員は学生が集中できるように学習環境の維持に努めていた。



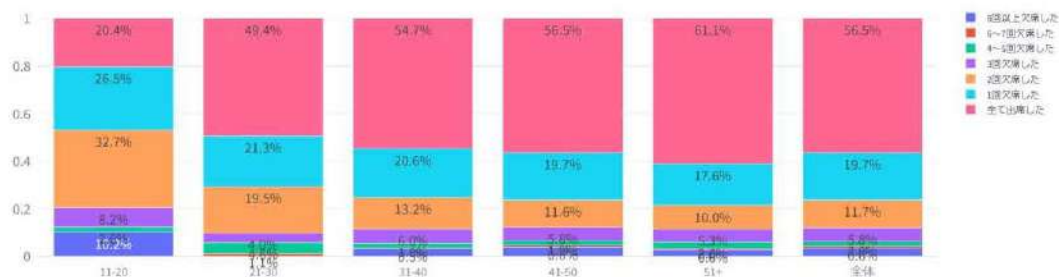
Q7：教科書や配布・提示資料（パワーポイント・ビデオ等）は授業内容の理解に役に立った。



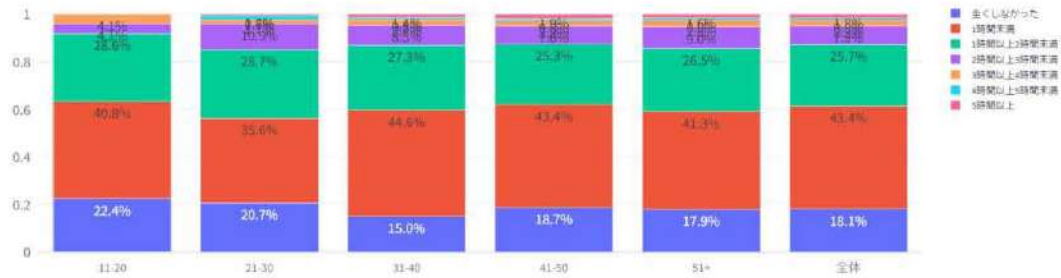
Q8：担当教員によるフィードバック(個別質問への応答、レポートへのコメント、試験の講評など)は適切だった。



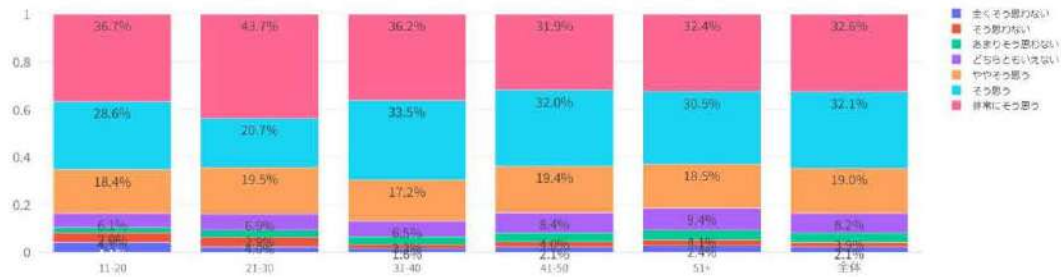
Q9：この授業に対する出席率について。



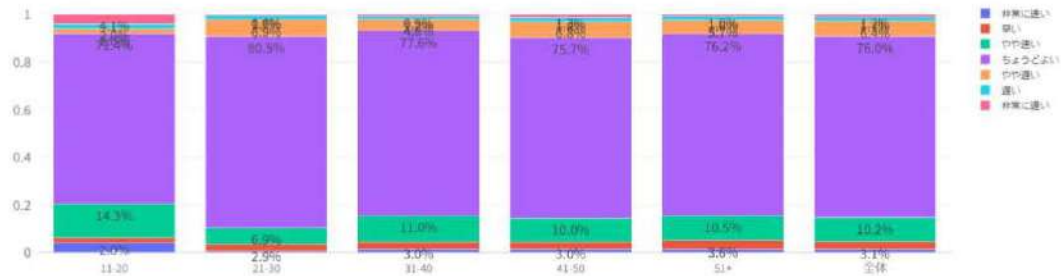
Q10：1回の授業に対する予習・復習(ゼミ活動や図書館/インターネット等での情報検索時間も含む)の平均時間について。



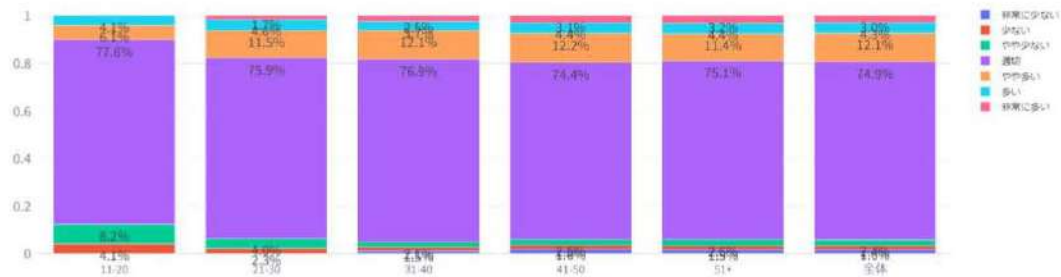
Q11: この授業は総合的に満足できたか。



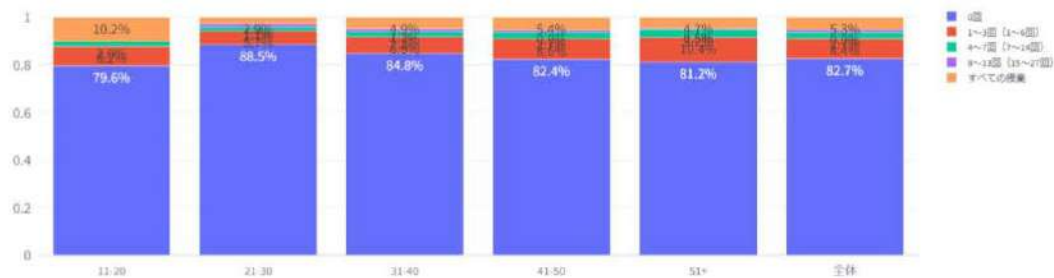
Q12: この授業の進行速度について。



Q13: 課題(宿題、レポートの提出、予習・復習など)の量について。



Q14: 全授業回のうち、あなたが遠隔授業形式によって受講した回数について。(計28回の授業科目については、()内の数値をお答えください。)



当年度GPAの分布

